

新潟市文化財センター年報

第5号

—平成28（2016）年度版—

2018

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター年報

第5号

—平成28（2016）年度版—



西区 六地山遺跡出土弥生土器（長岡市立科学博物館所蔵）

2018

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター

【設 置】

新潟市文化財センターは、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、活用を図ることにより、これらに対する市民の関心及び理解を深め、もって市民文化の向上に資するため、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第30条の規定に基づき設置された教育機関です。

【事 業】

- ① 埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。
- ② 発掘調査などにより出土した考古資料の収集及び保存並びに公開、そのほかの活用に関すること。
- ③ 有形民俗文化財の保存及び活用に関すること。

新潟市内には旧石器時代から江戸時代に至る743か所の遺跡が知られています（平成29年3月31日時点）。平成17（2005）年の14市町村による広域合併後の各種開発事業などの増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどりました。その後も継続して発掘調査は一定数行われており、毎年新たに遺跡も発見され、遺跡数も年々増加しています。また、それらに伴う出土遺物や記録類も増えています。

文化財センターは各種開発事業や史跡整備などに伴う発掘調査を行い、埋蔵文化財の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために平成23（2011）年7月に開館しました。

文化財センターには、民俗資料収蔵庫も併設しており、敷地内には新潟市指定文化財の旧武田家住宅や畜動舎を移築復元しています。








新潟市文化財センター及び旧武田家住宅と日本遺産案内看板

例 言

- ・本書は、新潟市文化財センター（以下「文化財センター」）及び文化スポーツ部歴史文化課（以下「歴史文化課」）の主に埋蔵文化財に係る平成28年度の業務年報である。Ⅰに新潟市の埋蔵文化財保護行政の概要、Ⅱに各種開発事業に伴う埋蔵文化財に係る事前審査、Ⅲに文化財センター業務年報、Ⅳに新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場業務年報、Ⅴに資料紹介や研究ノートなどの研究活動について収録している。
- ・『新潟市文化財センター年報』（以下「年報」）は平成25年から刊行され、本書は第5号にあたる。文化財センター開館までの新潟市の埋蔵文化財行政の概要及び経緯、文化財センターの概要については、第1号〔渡邊・八藤後ほか2014〕に記載されている。
- ・本書は文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財担当職員が分担執筆した。執筆者の氏名は執筆者が替わる各文章の末尾に記載した。なお、全体の統一を図るために内容が変わらない範囲で編集者が字句の修正を行った。しかし、Ⅴについては各執筆者の研究成果の側面があるため、執筆者の意向に則して編集している。
- ・本書に記載されている施設名及び所属などについては、本書刊行当時のものである。
- ・本書における調査面積などは、小数点第1位を四捨五入して表記している。
- ・Ⅱ2の試掘・確認調査の概要は主要なもののみを掲載した。
- ・Ⅱ2、Ⅲ2の各概要の図1「調査地点の位置」は、新潟市地形図（10,000分の1）を使用しており、縮尺は10,000分の1、地図の上位が北である。
- ・図・表番号は、章ごとに1から付している。しかし、Ⅱ2、Ⅲ2は項（概要）ごとに、Ⅴは節ごとに番号を付している。なお、写真には番号を付していない。
- ・Ⅱ2の各概要の図「トレンチ位置図」のトレンチの凡例は右のとおりである。
- ・Ⅱ2の各概要の図「土層柱状図」における土層注記の粘性及びしまりの強弱は、◎→○→△→×の順で弱くなっている。
- ・Ⅱ2の各概要の図「遺物実測図」では、遺物の全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。また、土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。さらに、土器については黒色処理を■のトーンで表現している。
- ・掲載遺物の実測・トレースなどは文化財センターで行った。
- ・本書の編集は金田拓也・八藤後智人・龍田優子が行った。

トレンチ凡例

	調査対象範囲
	遺物・遺構未検出トレンチ
	遺物検出トレンチ
	遺構検出トレンチ
	遺物・遺構検出トレンチ

目 次

Ⅰ 新潟市の埋蔵文化財保護行政について	1
Ⅱ 開発事前審査	2
1 事前審査内容	2
2 平成28年度の前審査に係る試掘・確認調査及び工事立会の概要	8
Ⅲ 文化財センターの事業	34
1 本発掘調査の概要	34
2 平成28年度の本発掘調査	35
3 整理作業の概要	40
4 資料の収蔵・保管	41
5 資料の公開・展示	42
6 教育普及活動	50
7 保存処理	54
8 決算額	55
Ⅳ 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場	56
1 資料の公開・展示	56
2 教育普及活動	61
3 古津八幡山遺跡保存活用計画の概要	63
Ⅴ 研究活動－資料紹介・研究ノートなど－	64
1 秋葉区大野中遺跡出土の縄文時代遺物	64
2 亀貝坂井家のガラス乾板について	69
引用・参考文献	75
付録（各表）	76

I 新潟市の埋蔵文化財保護行政について

概要 新潟市では、「文化財に関する事項」は『行政組織規則』により市長部局の歴史文化課が主に補助執行することとされている。そのうち埋蔵文化財については、歴史文化課及び文化財センターが所管している。

事務分掌としては、開発事前審査、試掘・確認調査、工事立会、古津八幡山遺跡を除く史跡管理を歴史文化課が、本発掘調査、保存処理、収蔵・保管、展示・活用、史跡古津八幡山遺跡の保存・活用などを文化財センターが行っている。

開発事前審査 開発事前審査では、民間開発や公共工事に対する事前協議を行い、『新潟市試掘確認調査基準』（平成19年4月1日施行）に基づいて試掘・確認調査の要否を判断している。また、本市は政令指定都市のため、『文化財保護法』（以下『法』）第93条及び第96条に基づく事務については、新潟市教育委員会が『新潟市埋蔵文化財事務取扱要綱』（平成19年4月1日施行）に基づいて『法』に伴う指示を行っている。

本発掘調査 本発掘調査は、民間や公共機関などの原因者から新潟市が受託して「埋蔵文化財本格発掘調査事業」として実施している。また、本市が原因者の場合は関係各部署からの依頼を受託し、同様に実施している。

平成28年度の埋蔵文化財本発掘調査と整理作業に係る事業費は表1のとおりである。内容に本発掘調査と記載されているものが、平成28年度に本発掘調査を実施した事業である。また、本発掘調査と記載していないものは、平成27年度以前に本発掘調査が行われた事業である。

埋蔵文化財 新潟市内には、埋蔵文化財包蔵地が743か所存在する（平成29年3月31日時点）。平成28年度は、試掘調査による新発見遺跡が7か所、近世新潟町跡（近世新潟町跡の取扱いは『年報』1号〔渡邊2014a〕に記載）の周知化地点が2か所ある。今後も試掘調査などによる遺跡数の増加が見込まれる。

本発掘調査件数 新潟市で近隣市町村との合併（平成17年度）が行われてから平成28年度までの本発掘調査件数は表2のとおりである。12年間で72件の本発掘調査を行っており、平均すると1年間で6件程度本発掘調査を行っていることとなる。

全体の件数では、平成19・20年度が10件と最も多く、徐々に件数は減少傾向に見えるが、1件あたりの本発掘調査の内容では、個人住宅などの小規模なものから、圃場整備などの大規模なものまであり、かならずしも件数

が減少したからといって調査面積も同様に減少しているとはいえない。

種別で見ると新潟県地域振興局（以前は新潟県農地事務所）による圃場整備関係や新潟市による道路改良関係（政令指定都市指定以前は新潟県土木事務所）が定期的実施されており、民間開発関係は不定期に行われている状況である。

現状では、本発掘調査は毎年一定件数実施しており、今後も継続される可能性が高い。また、件数についても民間開発の状況により、突発的に件数が増大する可能性が十分にあり、文化財センターとして本発掘調査に対応できる体制を今後も維持していく必要がある。

（金田拓也）

表1 平成28年度新潟市本発掘調査・整理作業事業費一覧

調査番号	原因者	事業名	道路名	内容	事業費 (円)	調査面積 (㎡)	担当
2016001	新潟市	大沢谷内遺跡発掘調査事業	大沢谷内遺跡	本発掘調査整理作業	145,300,000	2,752	遠藤恭雄
2009002 2010002 2011006				整理作業		-	相田泰臣
2016002				本発掘調査整理作業		360,000,000	8,717
2010003 2015002	整理作業	-					
2014001	整理作業報告書刊行	-					
2005003	道上道路	整理作業	-				
2006003	下久保遺跡	整理作業	-				
2016003	新潟市	京木遺跡発掘調査事業	京木遺跡	本発掘調査整理作業	39,800,000	1,069	龍田優子
2015001	民間	舟戸遺跡発掘調査事業	舟戸遺跡	整理作業報告書刊行	650,000	-	金田拓也
2015003	県地域振興局	巻東町地区は場整備発掘調査事業	島瀬瀬遺跡	整理作業報告書刊行	500,000	-	遠藤恭雄
合計					546,250,000	12,538	-

表2 新潟市本発掘調査件数（平成17～28年度）

種別	年度（平成）												小計
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
民間	2	5	3	1	0	0	1	0	1	0	1	0	14
県地域振興局（農農地）	2	2	2	2	2	1	3	5	3	1	2	1	26
県土木	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
新潟市	1	1	5	7	2	3	1	3	2	2	0	2	29
合計	7	9	10	10	4	4	5	8	6	3	3	3	72

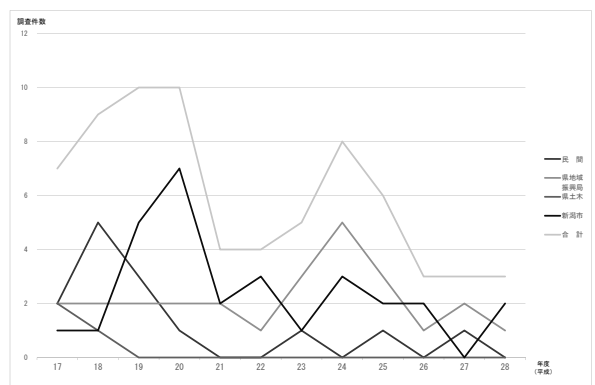


図1 新潟市本発掘調査件数の推移（平成17～28年度）

II 開発事前審査

1 事前審査内容

(1) 開発事前審査

概 要 新潟市は、国内でも有数な規模を誇る越後平野の中央に位置する。市域の大半を占めるこの越後平野は、長い年月をかけ信濃川・阿賀野川といった大河川が運んできた土砂により形成された沖積平野である。新津や角田・弥彦の丘陵地帯、新潟砂丘（新砂丘Ⅰ～Ⅲ）に代表される砂丘地帯のように標高の高い地域もあるが、大半は低湿地帯である。記録に残る範囲では江戸時代には、潟や沼などの水抜き工事が行われてきており、明治・大正・昭和へと引き継がれた。特に1950年代以降の土木技術の発展に伴う土地改良の結果、湿地帯は徐々に解消されていった。

遺跡（埋蔵文化財包蔵地）は、その大半が地中に埋まっており、地表面観察からの遺跡の把握は困難である。長年の耕作などにより地表面に露出してきた遺物を丹念に観察・収集し、遺跡の所在把握に取り組んできたが、機械掘削が主体となっている現在の工事では、存在が把握されないまま地中にある遺跡に直接に掘削が及ぶ機会が増大している。すでに周知化されている遺跡及び未周知の遺跡の把握・周知・保護は行政の責務と考えている。

このような社会情勢の変化に対応しつつ迅速に保護対応を図るために、本市では以下のような取り組みを実施している。

公共事業 国・県機関の実施する土木事業については、年に1度、新潟県教育庁文化行政課が一括して関係機関に照会し、えられたデータを県下の市町村に提供し、審査及び事業者との協議を依頼している。

国・県機関実施事業のうち、平成28年度の新潟市関連分は123件であった。平成27年度は57件なので66件の増加である。内訳は表1に示した。県事業中の8件は圃場整備事業に係る事業で、前年度から引き続き協議を行っている。事業実施に際し『法』第94条通知が行われている。

市の実施する事業については、年度ごとに庁内全部署へ照会をかけ、その回答を基に協議している。

規模を問わず、原則全ての事業を収拾するため、審査件数が数百件と膨大になり、短期間での審査・協議が困難となっている。また、年1度の照会で把握しているため、年度途中で生起する小規模事業を拾いきれない場合

があり、事業担当課へも自発的に歴史文化課へ協議するよう各種の機会をとらえて声掛けを行っている。

民間事業 事業計画地における遺跡の有無、もしくは保護協議の対象地であるかを、歴史文化課窓口及びFAXで対応している。

民間事業中最多の建築事業については、建築確認申請書を提出する際、本市独自の施策として同申請書に「建築確認申請事前調査報告書」の添付を義務付けている（担当は建築部建築行政課）。その事前調査項目に「埋蔵文化財の有無」があり、建築主は歴史文化課へ照会して確認番号を取得する必要がある。その時点で遺跡に該当するかどうか把握できる仕組みとなっている（なお、公共の建築事業についても「計画通知」段階で同様の措置を取っている）。照会目的の大半は専用住宅建築に係る建築確認番号取得である。次いで土地取引もしくは不動産鑑定評価など計画段階での事前調査であり、電柱、看板建設などがこれに続いている。特にFAXでの照会は、民間事業者にかなり定着してきているが、一方で日々の審査業務時間は増大している。

開発行為については、各区の『開発審査協議会設置要領』に規定されているとおり、『都市計画法』第32条による事前協議書が各区役所建設課に提出されたのち、歴史文化課を含む庁内関係各部署に意見照会されるため、全ての案件について取扱い方針の審査と協議を行っている。また、開発行為事前協議時の事前相談が開始された段階で、各区建設課から事業者に対し歴史文化課へも連絡を取るよう指導する対策が取られている。

また、本市では多くの土木事業が農地内で行われるため、事前に『農地法』に係る転用許可申請・届出が必要であることから、市内に6つ存在する農業委員会事務局（北区・中央・秋葉区・南区・西区・西蒲区）に歴史文化課への情報提供を依頼し、全件について審査の上、取扱い方針を決定し、必要なものについては事業者と協議を行っている。

このように、民間事業者の行う各種開発などについては、許認可事務を担当する庁内各部署などと緊密に連携し、事前把握を行っているが、専用住宅建築を含む民間事業は決定してから実施までが速く、試掘・確認調査の実施と結果を踏まえての協議時間が短いため、対応に苦慮している。体制を強化しないと制度と実行力にバランスを欠くこととなる。

平成28年度 平成28年度の協議実績の概要は以下のとおりである。

国・県事業の件数については先に触れたとおりである。国関係では取扱いが必要となったものはなかった。県関係では、圃場整備及び地盤沈下対策関係がほとんどであった。圃場整備は、西蒲区内で複数の圃場整備事業が採択段階まで進んできており、採択された順に可能な限り試掘調査を実施している。計画中の事業地域が複数あり、各地域とも予定面積が広大であることから、今後も試掘・確認調査が大幅に増加する見込みである。秋葉区両新地区の圃場整備については、埋蔵文化財の取扱い協議はおおむね終了しており、年度計画で現地発掘調査や報告書作成業務を進めている。

市事業の審査件数については、平成27年度の827件から725件と102件減少している。主な内訳としては、水道関係112件（全体の約15%）、道路関係352件（同約49%）、下水道関係57件（同8%）、公共施設関係167件（同約23%）である。公共施設関係はほとんどが改修工事や設計であった。

民間事業に係る事前審査については表2に示した。平成27年度とはほぼ同傾向であるが、案件ごとの重複を除いた実数は8,199件（平成27年度7,813件に比して386件の増）であった。内訳を見ると、開発行為は約115%増（平成27年度の47件から54件）、農地転用はほぼ横ばい（同481件から480件）、建築確認申請に係る審査件数は約104%増（同4,196件から4,383件）であった。宅地造成やアパート建設が伸びている。

(2) 試掘・確認調査

概要 事前審査・協議において、遺跡の有無を事前に把握する必要があると判断した場合は試掘調査、すでに周知遺跡となっているが、その詳細な内容が不明な場合は確認調査を実施している。経費は市の事業「市内遺跡範囲等確認調査事業」として公費から支出している（事業費の約50%は文化庁の補助を受けている）。原則として事業者へ経費負担を要求していないが、平成28年度は事業者の経費負担で実施した確認調査が2件あった。2件とも4月に実施した。市では国庫補助の交付決定を受けてから調査支援業者を決定するまでにおおむね3週間を要するが、事業者から待てないとの要望を受け実施したものである。

試掘調査については、公共事業はもちろん、民間事業の場合もほとんどは事業者の理解と協力をえて実施している。以前はまれに試掘調査の実施を拒否される場合があったが、近年はほぼ全ての案件で承諾がえられている。

表1 平成28年度公共事業事前審査事業主体別内訳

事業主体	件数	遺跡に該当	試掘調査の協議をしたもの	〔法〕94条通知
国	44	0	2	0
県	79	13	4	12
市	725	21	14	18
合計	848	34	20	30

表2 平成28年度民間事業事前審査内訳

区名	審査種別					審査・照会件数	〔法〕93条届出
	開発行為	農地転用	建築確認	窓口照会	文書照会		
北区	8	1	386	296	2	693	7
東区	4	48	753	529	0	1,334	17
中央区	12	22	892	797	0	1,723	4
江南区	6	65	451	327	0	849	47
秋葉区	3	73	456	268	0	800	64
南区	6	53	276	193	2	530	4
西区	9	171	918	655	0	1,753	2
西蒲区	6	47	251	210	3	517	8
市内合計	54	480	4,383	3,275	7	8,199	153
遺跡に該当	1	19	121	82	0	223	-
試掘調査の協議をしたもの	6	12	*	489	1	507	-

*建築確認のみの案件（個人住宅など）については周知遺跡の範囲にかかるもののみ協議の対象としているため、原則として試掘調査は生じない。

表3 平成28年度 試掘確認調査・工事立会件数

区名	調査内容	事業者	件数		埋蔵文化財検出件数	割合(%)	
北区	確認調査	公共	1	5	13	1	20
		民間	4				
	試掘調査	公共	1	8		0	0
		民間	7				
東区	確認調査	公共	0	4	11	3	75
		民間	4				
	試掘調査	公共	2	7		1	14
		民間	5				
中央区	確認調査	公共	0	2	15	1	50
		民間	2				
	試掘調査	公共	4	13		2	15
		民間	9				
江南区	確認調査	公共	2	12	19	4	33
		民間	10				
	試掘調査	公共	2	7		1	14
		民間	5				
秋葉区	確認調査	公共	1	15	20	10	67
		民間	14				
	試掘調査	公共	1	5		1	20
		民間	4				
南区	確認調査	公共	0	4	8	0	0
		民間	4				
	試掘調査	公共	1	4		0	0
		民間	3				
西区	確認調査	公共	0	0	8	0	0
		民間	0				
	試掘調査	公共	1	8		0	0
		民間	7				
西蒲区	確認調査	公共	2	5	17	3	60
		民間	3				
	試掘調査	公共	4	12		3	25
		民間	8				
合計	確認調査	公共	6	47	111	22	47
		民間	41				
	試掘調査	公共	16	64		8	13
		民間	48				
工事立会	公共	15	46	8	17		
	民間	31					

表4 平成28年度経費（調査支援委託費のみ 単位：千円）

調査内容	対応内訳	金額
試掘・確認調査	国庫補助対応	26,887
	市費対応	553
管内踏査（工事立会）	国庫補助対応	3,426
	市費対応	324

表5 平成28年度試掘・確認調査一覧(調査番号順)

調査番号	道路名 道路番号	調査種別	開発種別		調査地	種別	道路の時代	調査で 確認された時代	調査 期間	調査 日数	調査面積 (調査対象面積) (㎡)	調査担当	検出遺構	出土遺物	取扱い	備考
			事業者	内容												
2016101	塩辛道跡 134	確認調査	民間	個人住宅	林業区 朝日字塩辛 157番3	遺物 包含地	弥生・古墳・ 古代・中世	古代	4/22	1	8 (354)	鎌山えりか	なし	土師器(古代)	継続協議後 慎重工事	
2016102	新飯田館跡 225	確認調査	民間	個人住宅	南区 新飯田字館 6312番	城館跡	中世	近世	4/19	1	3 (65)	鎌山えりか	なし	陶磁器(近世)	慎重工事	
2016103	-	試掘調査	民間	店舗	東区 御新町三丁目 16番31外	-	-	近世	5/2	1	114 (2986)	鎌山えりか	なし	陶磁器(近世)	取扱い不要	
2016104	-	試掘調査	民間	店舗	北区 木崎字引越山 3529番1内外	-	-	-	4/21	1	19 (2998)	鎌山えりか	なし	なし	取扱い不要	
2016105	津島屋の石仏 82	確認調査	民間	個人住宅	東区 津島屋三丁目 8番外	石仏	中世	近世	4/7	1	28 (337)	瀬田恵幸	なし	陶磁器(近世)	慎重工事	
2016106	砂岡道跡 406	確認調査	民間	個人住宅	江南区 砂岡三丁目 625番外	遺物 包含地	縄文・古代	縄文・近世	4/20	1	9 (659)	鎌山えりか	なし	縄文土器(縄文)、 陶磁器・砥石(近世)	慎重工事	
2016107	尾山人道跡 273	確認調査	民間	個人住宅	北区 木崎字尾山前 904番1外	散布地	古代	-	4/14	1	3 (221)	瀬田恵幸	なし	なし	慎重工事	範囲変更
2016109	(童子西道跡) 774	試掘調査	民間	工場 (加工)	和納一丁目 694番外	遺物 包含地	中世	中世	4/20	1	44 (1,400)	瀬田恵幸	溝・ピット(中世)、 土坑・溝	珠洲焼・ 土師器・礫(中世)	慎重工事	新発見遺跡
2016110	-	試掘調査	民間	宅地造成	秋葉区 川口字内 89番外	-	-	近世	4/21	1	29 (2,185)	瀬田恵幸	土坑・ピット(近世)	陶磁器(近世)	取扱い不要	
2016111	-	試掘調査	民間	集合住宅	中央区 新和一丁目 3番14外	-	-	-	4/25	1	34 (1,569)	瀬田恵幸	なし	なし	取扱い不要	
2016112	塩辛道跡 134	確認調査	民間	駐車場	秋葉区 朝日字塩辛 154番3外	遺物 包含地	弥生・古墳・ 古代・中世	古代	4/26	1	25 (322)	瀬田恵幸	溝・ピット(古代)	土師器・須恵器(古代)、 礫(不明)	慎重工事	
2016113	山水戸道跡 112	確認調査	民間	宅地造成	東区 山水戸三丁目 470番4	遺物 包含地	古墳・古代・ 中世・近世	古代・中世	4/27	1	51 (990)	瀬田恵幸	性格不明遺構・ ピット(古代～中世)	土師器・須恵器・土製品・ 鉄製品・礫(古代)、 珠洲焼(中世)	工事立会	範囲拡大
2016114	-	試掘調査	公共 (市)	市有地 売却他	中央区 上府三丁目 354番	-	-	近世	5/7・ 10-12	4	116 (37,100)	鎌山えりか	なし	陶磁器(近世)	取扱い不要	
2016115	庄瀬館跡 223	確認調査	民間	個人住宅	南区 庄瀬字腰廻 6509番	城館跡	中世	-	5/23	1	10 (654)	鎌山えりか	なし	なし	慎重工事	
2016116	(近世新沼町跡) 575	試掘調査	民間	集合住宅	中央区 西堀三丁目 713番3外	港町跡	近世	近世	5/10 ~12	3	84 (964)	瀬田恵幸	溝・柱列・ 敷石・ピット(近世)	陶磁器・土製品・ 鍛冶関連遺物(近世)	取扱い不要	*1 周知化予定
2016117	塩辛道跡 134	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 朝日字塩辛 143番1	遺物 包含地	弥生・古墳・ 古代・中世	古墳・中世	5/16	1	14 (298)	瀬田恵幸	なし	土師器(古墳)、 珠洲焼(中世)、 鉄製品・礫	慎重工事	
2016118	-	試掘調査	民間	宅地造成	秋葉区 古田二丁目 783番1内外	-	-	-	5/18	1	41 (1,982)	瀬田恵幸	なし	なし	取扱い不要	
2016120	上町道跡 464	確認調査	民間	個人住宅	西蒲区 和納二丁目 324番8	遺物 包含地	中世	中世・近世	5/9	1	12 (226)	鎌山えりか	井戸・溝・ 性格不明遺構 (中世・近世)	青磁・瀬戸焼・美濃焼(中 世)、 陶磁器(近世)、 鉄製品・木製品・ 石製品	慎重工事	
2016121	(近世新沼町跡) 575	試掘調査	民間	店舗解体	中央区 本町通六番町 1115番2	港町跡	近世	近世	5/24 ~26	3	26 (224)	鎌山えりか	なし	陶磁器・ 金属製品(近世)	取扱い不要	*1
2016122	-	試掘調査	民間	宅地造成	中央区 西大塚町字藤山 593番7外	-	-	-	6/1	1	12 (2,373)	鎌山えりか	なし	なし	取扱い不要	
2016123	-	試掘調査	民間	宅地造成	南区 白根字町浦 124番1外	-	-	-	5/30	1	36 (1,586)	鎌山えりか	なし	なし	取扱い不要	
2016124	(近世新沼町跡) 575	試掘調査	公共 (市)	小学校 解体他	中央区 四ツ楯町一丁目 5141番5外	港町跡	近世	近世	5/23 ~25	3	107 (13,122)	瀬田恵幸	なし	陶磁器(近世)	取扱い不要	*1
2016125	(吉岡道跡) 776	試掘調査	民間	店舗	秋葉区 田原一丁目 1653番1外	遺物 包含地	古代	古代・中世・ 近世	5/20	1	33 (1,187)	瀬田恵幸	なし	土師器・須恵器(古代)、 瀬戸焼・美濃焼(中世)、 陶磁器(近世)	慎重工事	新発見遺跡
2016126	法花鳥居D道跡 307	確認調査	民間	集合住宅	北区 太田字法花鳥居 甲57番1	遺物 包含地	縄文・弥生・ 古代	-	6/1	1	49 (802)	瀬田恵幸	なし	なし	工事立会・ 慎重工事	
2016127	山谷北道跡 189	確認調査	民間	区画整理	秋葉区 新津字山谷北 5149番外	遺物 包含地	古墳	古代	6/6 ~10	5	174 (56,402)	瀬田恵幸	なし	土師器(古代)	継続協議後 工事立会 追加調査 (2016245)	
2016128	(近世新沼町跡) 575	試掘調査	民間	店舗	中央区 上大川前通三番町 26番7	港町跡	近世	近世	4/25 ~27	3	9 (473)	鎌山えりか	ピット(近世)	陶磁器・木製品・ 金属製品(近世)	取扱い不要	*1
2016130	近世新沼町跡 575-18	確認調査	民間	市有地 売却	中央区 上大川前通二番町 135番外	港町跡	近世	近世	5/17	1	10 (1,825)	鎌山えりか	なし	陶磁器(近世)	継続協議後 工事立会	
2016132	腰廻道跡 157	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 大籠字腰廻 101番3外	遺物 包含地	中世	不明	6/2	1	11 (255)	鎌山えりか	土坑・ 性格不明遺構・ピット	土師器	工事立会	
2016133	荒木前道跡 418	確認調査	民間	集合住宅	江南区 横所一丁目 甲749番1外	集落跡	縄文・古代・ 中世	古代	6/9・10	2	21 (964)	鎌山えりか	溝(古代)	土師器・須恵器・ 金属製品(古代)	継続協議後 工事立会	範囲変更
2016134	川口甲道跡 192	確認調査	民間	集合住宅	秋葉区 川口甲字 321番1外	遺物 包含地	古代	-	6/13	1	11 (981)	鎌山えりか	なし	なし	慎重工事	
2016135	砂崩上ノ山道跡 401	確認調査	民間	集合住宅	江南区 砂山一丁目 544番	遺物 包含地	古代	-	6/13	1	34 (509)	瀬田恵幸	なし	なし	慎重工事	
2016136	-	試掘調査	民間	宅地造成	西蒲区 越前浜字下谷内 6757番1	-	-	-	6/7・8	2	112 (9,770)	鎌山えりか	なし	なし	取扱い不要	
2016137	三條岡道跡 400	確認調査	民間	店舗	江南区 三條岡一丁目 101番43外	散布地	古代	-	6/3	1	29 (875)	瀬田恵幸	なし	なし	慎重工事	
2016138	下郷道跡 367	確認調査	民間	工場 (加工)	江南区 横越東三丁目 7353番	遺物 包含地	古代	-	6/14	1	9 (718)	瀬田恵幸	なし	なし	慎重工事	
2016140	牛崎館跡 233	確認調査	民間	個人住宅	南区 牛崎字館 81番1外	城館跡	中世	-	6/28	1	5 (198)	鎌山えりか	なし	なし	慎重工事	
2016141	吉岡道跡 776	確認調査	民間	店舗	秋葉区 田原一丁目 1653番1外	遺物 包含地	古代	古代・近世	6/14	1	13 (1,187)	瀬田恵幸	溝(古代)	土師器・須恵器・石製品(古 代)、 金属製品(古代か中世)、 陶磁器(近世)	工事立会・ 慎重工事	
2016144	-	試掘調査	公共 (県)	県庁舎	南区 竹尾二丁目 367番1外	-	-	-	6/27	1	59 (6,751)	瀬田恵幸	なし	なし	取扱い不要	
2016145	諏訪神社古墳 767	確認調査	民間	集合住宅	東区 牡丹山三丁目 40番2外	古墳	古墳	古墳・近世	7/4~13	8	203 (577)	瀬田恵幸	周溝(古墳)、 土坑・溝・ピット	円筒埴輪(古墳)、 陶磁器・土製品(近世)、 石製品	工事立会・ 慎重工事	
2016148	-	試掘調査	民間	集合住宅	中央区 沼垂東六丁目 537番16外	-	-	-	9/23	1	41 (1,115)	鎌山えりか	なし	なし	取扱い不要	
2016149	-	試掘調査	公共 (国)	道路 (国道)	中央区 飯口 236番5外	-	-	-	5/27	1	29 (274)	石川智紀	なし	なし	取扱い不要	*2
2016150	(山水戸道跡) 112	試掘調査	民間	集合住宅	東区 山水戸四丁目 403番2外	遺物 包含地	古墳・古代・ 中世・近世	古代・中世	7/26・27	2	21 (806)	鎌山えりか	土坑・ 性格不明遺構 (古代・中世)	土師器・須恵器(古代)、 土師器・白磁・青磁・珠 洲焼・ 陶器(中世)、土製品・金属製 品	継続協議後 工事立会・ 慎重工事	範囲拡大
2016151	丸山道跡 13	確認調査	民間	個人住宅	江南区 丸山ノ内善之丞組 字前廻452番3外	遺物 包含地	古代	-	7/11	1	9 (392)	鎌山えりか	なし	なし	工事立会	
2016152	-	試掘調査	民間	集合住宅	西蒲区 念子南前安 甲1744番	-	-	-	7/12	1	28 (1,201)	鎌山えりか	なし	なし	取扱い不要	
2016153	大淵道跡 16	確認調査	民間	個人住宅	江南区 三白地 5189番7	遺物 包含地	古代・中世	-	7/8	1	9 (412)	鎌山えりか	なし	なし	慎重工事	
2016155	-	試掘調査	公共 (市)	道路 (市道)	西蒲区 大淵	-	-	-	7/19~ 22・25	5	135 (1,740)	鎌山えりか	なし	なし	取扱い不要	
2016156	-	試掘調査	公共 (市)	道路 (市道)	西蒲区 丹場外	-	-	-	8/4~10	5	132 (30,000)	瀬田恵幸	なし	なし	取扱い不要	
2016158	川口乙道跡 198	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 北上新田字御作 822番1	遺物 包含地	古代	中世	8/1	1	20 (442)	瀬田恵幸	溝・性格不明遺構・ ピット(中世)	土師器・珠洲焼(中世)	継続協議後 慎重工事	
2016159	-	試掘調査	民間	駐車場	西蒲区 松山字上七キ 56番1	-	-	-	8/3	1	34 (1,353)	瀬田恵幸	なし	なし	取扱い不要	

調査番号	道路名 道路番号	調査種別	開発種別		調査地	種別	道路の時代	調査で 確認された時代	調査 期間	調査 日数	調査面積 (調査対象面積) (㎡)	調査担当	検出遺構	出土遺物	取扱い	備考
			事業者	内容												
2016162	-	試掘調査	民間	店舗	西南区 海浜字川井前 2699番1 外	-	-	-	8/18	1	23 (2,028)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016163	-	試掘調査	民間	宅地造成	西区 鳥取字大明 2705番1 外	-	-	-	8/5	1	32 (1,676)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016164	-	試掘調査	民間	工場	北区 松浜町字小支畑 3309番	-	-	-	9/1・2	2	37 (2,500)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016165	(新田郷南道路) 775	確認調査	公共 (市)	市有地 売却	江南区 横越中央二丁目 4880番 外	遺物 包含地	古墳・古代	古墳・古代	8/23・24	2	39 (3,204)	鎌山えりか	溝・ピット(古墳)	土師器(古墳)、 土師器・須恵器・石製品(古 墳)	継続協議後 慎重工事	新発見遺跡
2016166	-	試掘調査	公共 (市)	市有地 売却	東区 大正三丁目 8番19	-	-	-	8/25	1	8 (1,119)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016167	-	試掘調査	公共 (市)	市有地 売却	南区 上下調部本字前 785番4	-	-	-	8/26	1	47 (1,849)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016168	狐山道路 403	確認調査	公共 (市)	市有地 売却	江南区 船戸山五丁目 363番10 外	散布地	古代	-	8/30	1	31 (1,498)	鎌山えりか	なし	なし	慎重工事	
2016169	-	試掘調査	民間	工場	江南区 駒込一丁目 423番6 外	-	-	-	8/17	1	26 (4,218)	蒲田恵幸	なし	なし	取扱不要	
2016170	-	試掘調査	公共 (市)	市有地 売却	江南区 大沼字荒原 1927番1 外	-	-	-	8/19	1	60 (6,000)	蒲田恵幸	なし	なし	取扱不要	
2016171	-	試掘調査	民間	宅地造成	北区 太夫浜字宮裏 1831番	-	-	-	8/29	1	25 (2,966)	蒲田恵幸	なし	なし	取扱不要	
2016172	-	試掘調査	民間	介護施設	中央区 神道寺一丁目 99番1 外	-	-	-	9/13	1	47 (4,174)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016175	-	試掘調査	公共 (県)	灌漑排水	西南区 福島地内	-	-	-	9/6・7	2	70 (3,300)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016176	-	試掘調査	公共 (市)	文化財 防災設備	中央区 緑町 3437番6 外	-	-	-	8/31	1	19 (110)	朝岡政康	なし	なし	継続協議後 工事立会	平成29年度 追加調査
2016177	-	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 天野字浦前 599番1の内	-	-	-	9/15・16	2	64 (7,067)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016178	(下郷西道路) 777	試掘調査	民間	集合住宅	江南区 横越山田四丁目 5282番1	遺物 包含地	中世	中世	9/12	1	54 (1,179)	蒲田恵幸	溝・ピット(中世)	珠洲焼(中世)	継続協議後 工事立会	新発見遺跡
2016179	(近世新沼町跡) 595	試掘調査	民間	集合住宅	中央区 上大川南通五番町 79番4 外	港町跡	近世	近世	9/27	1	61 (334)	蒲田恵幸	なし	なし	取扱不要	*1
2016180	繁ノ木原道路 771	確認調査	公共 (県)	開場整備	西南区 打越地内	遺物 包含地	中世	中世	10/3 ~11/21	50	1,719 (470,000)	蒲田恵幸	なし	なし	継続協議後 工事立会	
2016181	福島道路 552	確認調査	公共 (県)	開場整備	西南区 福島地内	遺物 包含地	中世	古代・中世	10/18 ~11/17	14	605 (150,000)	今井さやか	土坑・溝・ピット	土師器(古代)、 青磁・白磁・瀬戸焼・美濃焼 (中世)	継続協議	
2016182	浦木東道路 773	確認調査	公共 (市)	道路 (市道)	北区 浦木字浦木 2520番 外	遺物 包含地	古墳	古墳・古代	9/29・30、 11/30、 2/22	4	72 (1,334)	朝岡政康	溝(古墳)	土師器(古墳・古代)、鉄製品	本発掘調査	
2016183	牡丹山 諏訪神社古墳 767	確認調査	大学	学術調査	東区 牡丹山三丁目 106番1 外	古墳	古墳	古墳・中世・ 近世	9/11~23	13	90 (90)	橋本博文	造出部(古墳)他	円筒埴輪、 土製品、鉄製品(古墳)、 珠洲焼(中世)、近世陶磁器、 土製品、金銅製品(近世)	-	*2
2016184	-	試掘調査	公共 (県)	開場整備	秋葉区 銀柳字地内上 1750番 外	-	-	-	10/3・5	2	57 (90,642)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2016185	-	試掘調査	民間	保育園	江南区 松山字塔浦 796番 外	-	-	-	10/17	1	23 (2,733)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016186	(赤銅砂山道路) 778	試掘調査	民間	店舗	西南区 赤銅字砂山 327番 外	遺物 包含地	古代・中世	古代・中世	9/26~ 10/7	9	324 (26,336)	鎌山えりか	井戸・溝・性格不明遺構 ・ピット(中世・近世)	土師器・陶磁器、 石製品・青磁(古代・中世)	本発掘調査、 工事立会	新発見遺跡
2016187	-	試掘調査	民間	店舗	西区 榎尾前三依 326番1 外	-	-	-	10/15	1	44 (2,448)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016195	-	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 丸山ノ内字之丞 古原敷326番5 外	-	-	-	11/18	1	17 (1,238)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016196	-	試掘調査	民間	宅地造成	南区 七軒字佃 384番1 外	-	-	-	9/16・17	2	49 (3,038)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016197	-	試掘調査	民間	介護施設	西南区 松山字上七キ 62番1 外	-	-	-	10/29	1	68 (4,068)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016198	女池稲荷道路 93	確認調査	民間	保育園	中央区 女池一丁目 1527番 外	遺物 包含地	古代	古代	10/24	1	7 (1,588)	鎌山えりか	なし	鉄製品	慎重工事	
2016199	-	試掘調査	民間	倉庫	西区 鳥原字長井田 1815番 外	-	-	-	11/5	1	27 (1,808)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016200	前山道路 11	確認調査	民間	集合住宅	江南区 北山字前山 384番 外	遺物 包含地	古代	古墳・古代	11/8・9	2	21 (1,621)	鎌山えりか	なし	土師器・須恵器(古墳・古代)	工事立会、 慎重工事	
2016204	森田道路 218	確認調査	民間	集合住宅	秋葉区 朝日字森田 190番5 外	遺物 散布地	弥生・古墳、 古代・中世	古代・中世	11/2	1	21 (593)	鎌山えりか	ピット(古代・中世)	土師器・須恵器(古代)、 青磁(中世)	工事立会、 慎重工事	
2016205	山崎道路 127	確認調査	民間	宅地造成	秋葉区 程島字山崎 1107番1 外	遺物 包含地	縄文	近世	11/4	1	7 (861)	鎌山えりか	なし	陶磁器(近世)	工事立会	
2016206	砂岡道路 406	確認調査	民間	宅地造成	江南区 砂岡二丁目 1477番3 外	遺物 包含地	縄文・古代	近世	11/8	1	19 (454)	鎌山えりか	なし	陶磁器(近世)	慎重工事	
2016207	-	試掘調査	公共 (市)	小学校	西区 大野字村中 137番 外	-	-	-	10/26・27	2	170 (19,000)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016210	-	試掘調査	民間	店舗	西区 木山字榎敷裏 413番1 外	-	-	-	11/11	1	49 (1,394)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016212	-	試掘調査	民間	宅地造成	西区 青山一丁目 70番1 外	-	-	-	11/14	1	55 (3,279)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016214	(近世新沼町跡) 575-19	試掘調査	公共 (市)	下水道	中央区 古町通九番町 外	港町跡	近世	近世	11/16・17	2	3 (371)	鎌山えりか	柱(近世)	陶磁器(近世)	継続協議後 慎重工事	周知化 (西新沼地点)
2016215	法花鳥居B道路 307	確認調査	民間	集合住宅	北区 太田字法花鳥居 甲577番4	遺物 包含地	縄文・弥生・ 古代	-	11/24	1	33 (802)	鎌山えりか	なし	なし	慎重工事	
2016216	(赤銅砂山道路) 778	試掘調査	民間	店舗	西南区 赤銅字砂山 229番 外	遺物 包含地	古代・中世	古代・中世	12/19~21	3	49 (3,714)	鎌山えりか	性格不明遺構 (古代・中世)	なし	継続協議後 慎重工事	範囲拡大
2016217	西窪場道路 540	確認調査	民間	土地造成	南区 上曲字幸先 568番 外	遺物 包含地	弥生	近世	1/12	1	57 (4,609)	鎌山えりか	なし	陶磁器(近世)	継続協議後 慎重工事	
2016218	-	試掘調査	公共 (市)	道路 (市道)	西浦区 具柄 ~西区坂井	-	-	-	12/15~22	6	378 (55,281)	蒲田恵幸	なし	なし	取扱不要	
2016222	-	試掘調査	公共 (市)	道路 (市道)	鳥見町字前谷内 4787番1 外	-	-	-	12/8・9	2	72 (8,422)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016224	-	試掘調査	民間	宅地造成	北区 太田字法花鳥居 甲4700番3 外	-	-	-	12/2	1	40 (2,584)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016226	-	試掘調査	公共 (市)	市有地 売却	江南区 新野字西福尻 2883番 外	-	-	-	12/22	1	34 (5,819)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016227	山水戸道路 112	確認調査	民間	個人住宅	東区 山水戸四丁目 403番1 外	遺物 包含地	古墳・古代、 中世・近世	不明	12/27	1	3 (328)	鎌山えりか	性格不明遺構	なし	継続協議後 工事立会	
2016229	上沼道路 404	確認調査	民間	店舗	江南区 曙町四丁目 230番13 外	遺物 包含地	古代	-	1/11	1	31 (652)	蒲田恵幸	なし	なし	慎重工事	
2016230	-	試掘調査	民間	宅地造成	東区 海老ヶ瀬字長田 197番2	-	-	-	1/13	1	20 (1,255)	蒲田恵幸	なし	なし	取扱不要	
2016233	-	試掘調査	民間	送電線	西区 中橋字字道上 2679番2 外	-	-	-	12/5・6	2	25 (589)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2016234	-	試掘調査	民間	宅地造成	東区 林森一丁目 22番1 外	-	-	-	1/23	1	36 (2,065)	蒲田恵幸	なし	なし	取扱不要	
2016235	-	試掘調査	民間	宅地造成	秋葉区 結子苗代付 313番 外	-	-	-	2/3	1	44 (3,410)	蒲田恵幸	なし	なし	取扱不要	
2016236	-	試掘調査	民間	賃貸住宅	西区 坂井字村上 838番 外	-	-	-	1/31	1	31 (1,963)	蒲田恵幸	なし	なし	取扱不要	

調査番号	道跡名 道跡番号	調査種別	開発種別		調査地	種別	道跡の時代	調査で 確認された時代	調査 期間	調査 日数	調査面積 (調査対象面積) (㎡)	調査担当	検出土遺構	出土遺物	取扱い	備考	
			事業者	内容													
2016237	細池寺道上遺跡 571	確認調査	公共 (県)	圃場整備	秋葉区 飯柳字中沢 1026番1外	集落跡	古代・中世	不明	9/28	1	34 (15,508)	朝岡政康	溝・性格不明遺構	なし	継続協議後 工事立会		
2016239	大間船跡 171	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 大間字山ノ内 861番1の内	城館跡	中世	不明	2/8	1	2 (479)	鎌山えりか	なし	土師器・陶磁器	慎重工事		
2016240	赤鎧砂山遺跡 778	確認調査	民間	店舗	西蒲区 赤鎧字砂山 229番外	遺物 包含地	古代・中世	-	1/25	1	4 (3,714)	鎌山えりか	なし	なし	なし	2016216の 追加調査	
2016241	-	試掘調査	民間	店舗	東区 岡山字荒田 339番1外	-	-	-	2/20	1	28 (2,778)	鎌山えりか	なし	なし	なし	取扱い不要	
2016243	程島船跡 168	確認調査	民間	宅地造成	秋葉区 程島字船ノ内 1414番1外	城館跡	中世	古代	2/14	1	9 (1,030)	鎌山えりか	性格不明遺構・ ピット(古代)	土師器(古代)	継続協議後 慎重工事		
2016244	-	試掘調査	民間	宅地造成	北区 木崎字見岡山 2946番1外	-	-	-	2/21	1	21 (4,568)	鎌山えりか	なし	なし	なし	取扱い不要	
2016245	山谷北遺跡 189	確認調査	民間	区画整理	秋葉区 新津字山谷北 5195番1外	遺物 包含地	古墳	古代	2/21~24	4	152 (56,402)	蒲田恵幸	土坑・ 炭化物・焼土集(古代)	土師器・須臾器(古代)	継続協議後 工事立会	範囲拡大、 2016127の 追加調査	
2016246	-	試掘調査	民間	福祉施設	早通字前割 8番外	-	-	-	3/3	1	34 (1,511)	蒲田恵幸	なし	なし	なし	取扱い不要	
2016247	舟戸遺跡 132	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 古津字舟戸 1956番1外	集落跡	弥生・古墳・ 古代	古墳	3/1	1	9 (1,721)	蒲田恵幸	溝・ピット	土師器(古墳)	慎重工事		
2016248	岡新田遺跡 281	確認調査	民間	個人住宅	北区 岡新田字居浦 2346番外	遺物 包含地	古代	-	3/30	1	10 (135)	蒲田恵幸	なし	なし	なし	慎重工事	
2016251	-	試掘調査	民間	宅地造成	北区 下土地亀字種ノ内 3428番外	-	-	-	3/17	1	39 (4,538)	鎌山えりか	なし	なし	なし	取扱い不要	
2016252	(近世新潟町跡) 575-20	試掘調査	民間	店舗	中央区 東郷港入番町 1427番4	港町跡	近世	近世	3/7~9	3	9 (225)	鎌山えりか	ピット	陶磁器(近世)	継続協議	周知化 (東郷港 8番町地点)	
2016254	赤鎧砂山遺跡 778	確認調査	民間	店舗	西蒲区 赤鎧字砂山 324番4外	遺物 包含地	古代・中世	古代・中世	2/28	1	8 (26,336)	鎌山えりか	なし	土師器・石製品(古代)	本発掘調査・ 工事立会		
2016255	-	試掘調査	民間	店舗	南区 能登二丁目 359番1外	-	-	-	2/23~27	3	117 (13,277)	鎌山えりか	なし	なし	なし	取扱い不要	
2016256	-	試掘調査	公共 (国)	国道	中央区 能合間 65番3外	-	-	-	2/13~15	3	84 (2,800)	石川智紀 長谷川大祐	なし	なし	なし	取扱い不要	※2
2016257	(仲赤切遺跡) 572	試掘調査	公共 (県)	圃場整備	西蒲区 打越地区内	散布地	古代・中世	古墳・古代	10/3 ~11/21	50	1,719 (470,000)	蒲田恵幸	ピット・畝状遺構	土師器(古墳)、 土師器・須臾器(古代)	継続協議後 工事立会	範囲拡大、 2016180と 同じ調査	
2016258	(土向遺跡) 544	試掘調査	公共 (県)	圃場整備	西蒲区 福島地区内	遺物 包含地	古代・中世	古代・中世	10/18 ~11/17	14	605 (150,000)	今井さやか	土坑・溝・ピット (古代・中世)	なし	継続協議	範囲拡大、 2016181と 同じ調査	
2016259	(福島土手内遺跡) 779	試掘調査	公共 (県)	圃場整備	西蒲区 福島地区内	遺物 包含地	古代・中世	中世	10/18 ~11/17	14	605 (150,000)	今井さやか	ピット	青磁・白磁、 瀬戸焼・美濃焼(中世)	継続協議	新発見遺跡、 2016181と 同じ調査	
2016260	(宮下遺跡) 780	試掘調査	公共 (県)	圃場整備	西蒲区 打越地区内	遺物 包含地	中世	古代・中世	9/30 ~11/21	32	1,719 (470,000)	蒲田恵幸	土坑・ 炭化物集中範囲	土師器(古代)、 土師器(中世)	継続協議後 工事立会	新発見遺跡、 2016180と 同じ調査	

※1 近世新潟町跡特定範囲内の周知化しない試掘調査についても、範囲内と判断できるように道跡名と道跡番号を記載している。近世新潟町跡の取扱いの経緯は、「年報」第1号に記載されている。
 ※2 2016149(中央区北1236番5外)及び2016256(中央区能合間65番3外)は新潟県教育委員会が、2016183(牡丹山諏訪神社古墳)は牡丹山諏訪神社古墳発掘調査団が実施した発掘調査のため、新潟市が実施した発掘調査に含まれない。



確認調査風景 (2016145・牡丹山諏訪神社古墳)



確認調査風景 (2016237・細池寺道上遺跡)

試掘調査の意義と効果に対する理解が事業者に浸透してきていると思われる。

平成28年度 表1・3のとおり、60件の試掘調査、48件の確認調査の計108件(表3では試掘調査で遺跡が発見されたため、遺跡の範囲確認調査を実施したものが3件含まれているので、重複分を除いた件数は108件)の調査を実施した。平成27年度の件数と比較すると試掘調査が18件増え、確認調査が16件増えている。試掘調査では宅地造成に係る開発事業や店舗建設が増加した。確認調査では個人住宅やアパートなどの集合住宅に係る調査が増加した。また、道路建設や農業基盤整備事業など1件あたりの事業規模(調査対象面積)が大規模なものにも対応しており、業務量は調査件数のみでは測れない。なお、市職員の実地調査日数は平成27年度よりも多い。

地域別では、秋葉区・江南区が多い。遺跡数も多いが、両区は公共事業・民間事業ともにほかの区より多い。

今年度の試掘調査で新しく発見された遺跡は、童子西遺跡(西蒲区)・吉岡遺跡(秋葉区)・赤鎧砂山遺跡(西蒲区)・下郷西遺跡(江南区)・福島土手内遺跡(西蒲区)・宮下遺跡(西蒲区)・近世新潟町跡2地点の計7遺跡である。福島土手内遺跡と宮下遺跡は西蒲区の圃場整備に伴う試掘調査で新たに発見された遺跡である。ほかの遺跡は民間開発に伴う試掘調査で発見された。

(3) 工事立会

概要 工事立会は、遺跡の範囲内で行われる各種土木工事などに対し、原則として事前の試掘・確認調査で遺跡の内容を十分把握した上で、『埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について(通知)』(平成10年9月29

日付庁保記第75号 各都道府県教育委員会教育長宛文化庁次長通知、以下『文化庁標準』)及び『発掘調査の要否等の判断基準』(平成11年9月10日付教文第578号、以下『新潟県基準』)に従って実施している。具体的には、

- ・「土木工事などにより、明らかに遺跡の一部が破壊されるが、掘削範囲がきわめて狭小(『新潟県基準』により原則として掘削幅1m以下)であるため、記録保存を目的とした本発掘調査の実施が困難であるもの」
- ・「掘削が遺物包含層などにおよばず、保護層も確保できる見込みであるが、施工が設計通りであるか立会によって確認する必要がある場合」などである。

工事立会にあたっては、『法』第93条の届出・同第94条の通知に対する取扱い指示文を事業者へ通知する。事業者は工事日程が決定次第当課へ連絡する。工事立会は、事業者の工程に従って新潟市の埋蔵文化財担当専門職員が現地に訪れている。

ただし、直前の連絡だけでは工事日程との調整が難しいため、特に長期間にわたる大規模な工事の場合、事業者の協力をえて、あらかじめ施工者代理人を交えた打合せを綿密に行うようにしている。これにより、保護施策の意義を理解してもらうことができ、工程の一部変更などの早期連絡体制が強化されてきている。

工事立会により遺物や遺構が発見された場合は、その場で記録を取り、出土遺物や記録類は、試掘・確認調査に準じた取扱いとしている。遺跡によっては相当量の遺物が出土することがあり、多量の遺物の注記を外部に委託することがある。貴重な遺跡の情報としての工事立会結果を十分に生かすため、重要と判断したものは『年報』で報告している。

また、大規模開発や圃場整備などに伴う長期間の工事立会では、限られた人数の市職員での対応に困難な場合があり、かつ経費も相当にかかる。人員の体制など今後検討していく必要がある。さらに、民間事業者に対して工事立会指示が出ているにもかかわらず、施工業者との連絡不足から掘削日の連絡がないまま工事を行い、事業者へ注意を行った事案も発生していることから、事業者への注意喚起の徹底についても課題が出てきた。

平成28年度 表6のとおり51件の工事立会を行った。平成27年度の35件から16件の増である。秋葉区・西蒲区での圃場整備関係が対象面積も大規模で長期間におよんでいる。工事内容では個人住宅関係などの建物の案件が多い。

主要な試掘・確認調査の概要をⅡ2に示した。

(朝岡政康)

表6 平成28年度工事立会(管内踏査)一覧(調査番号順)

調査番号 ※1	遺跡名 遺跡番号	所在区	工事原因	調査担当	踏査 期間	検出 遺構	出土 遺物
2016119	舟戸遺跡 132	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	5/12	×	×
2016129	五本田館跡 347	秋葉区	倉庫	諫山えりか	5/24	×	×
2016131	砂崩遺跡 389	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	5/24	×	×
2016139	舟戸遺跡 132	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	6/10	×	×
2016142	吉岡遺跡 776	秋葉区	店舗	諫山えりか	6/18	×	×
2016143	秋葉遺跡 182	秋葉区	カーポート	諫山えりか	8/22	×	×
2016146	砂崩遺跡 389	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	8/2	×	×
2016147	山木戸遺跡 112	東区	宅地造成	諫山えりか	9/1~ 5	×	○
2016154	結七島遺跡 209	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	7/27	×	×
2016157	草水町一丁目竪跡 194	秋葉区	車庫	潮田憲幸	5/27	×	×
2016160	日水遺跡 348	江南区	個人住宅	諫山えりか	7/22	×	×
2016161	丸山遺跡 13	江南区	個人住宅	諫山えりか	7/28	×	×
2016173	山木戸遺跡 112	東区	集合住宅	諫山えりか	8/23~ 31、 9/3	×	×
2016174	新久免の塚 148	秋葉区	下水道	諫山えりか	10/19・ 20	×	×
2016188	烏瀬瀬遺跡 623	西蒲区	圃場整備	諫山えりか	10/6 ~1/27	○	○
2016189	下新田遺跡 573	西蒲区	圃場整備	諫山えりか	9/26~ 29	×	○
2016191	仲歩切遺跡 572	西蒲区	圃場整備	諫山えりか	10/11 ~2/16	○	○
2016192	近世新潟町跡 575-18	中央区	下水道	諫山えりか	9/1 ~1/31	○	○
2016193	天ヶ沢上谷内遺跡 770	秋葉区	道路	諫山えりか	9/8、 10/3	×	×
2016194	高矢C遺跡 135	秋葉区	個人住宅解体	諫山えりか	10/11~ 15	×	×
2016201	丸山遺跡 13	江南区	下水道	諫山えりか	11/24~ 25	×	×
2016202	日水南遺跡 391	江南区	個人住宅	諫山えりか	4/6	×	×
2016203	桜大門遺跡 164	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	11/21	×	×
2016208	荒木前遺跡 418	江南区	集合住宅	諫山えりか	6/17	×	×
2016209	天神遺跡 461	西蒲区	電柱	諫山えりか	11/15	×	×
2016211	牡丹山諏訪神社古墳 767	東区	集合住宅	諫山えりか	8/6~ 8	×	×
2016213	芥木遺跡 764	江南区	道路	遠藤恭雄	11/24	×	○
2016219	三條岡遺跡 400	江南区	携帯電話 基地局	諫山えりか	12/8	×	×
2016220	下久保遺跡 214	秋葉区	暗渠排水	諫山えりか	12/8~ 15	×	○
2016221	道上遺跡 213	秋葉区	暗渠排水	諫山えりか	12/8~ 15	×	×
2016223	下郷西遺跡 780	江南区	集合住宅	諫山えりか	11/10~ 30、 12/1~ 8	×	×
2016225	浦ノ沢遺跡 576	秋葉区	事務所	諫山えりか	12/22	×	×
2016228	細池寺道上遺跡 151	秋葉区	圃場整備	諫山えりか	12/7~ 26	×	×
2016231	細池寺道上遺跡 151	秋葉区	圃場整備	諫山えりか	12/21 ~3/18	○	○
2016232	湯前遺跡 751	西蒲区	圃場整備	諫山えりか	12/19・ 20	×	×
2016238	居平遺跡 131	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	2/10	×	×
2016242	山木戸遺跡 112	東区	個人住宅	諫山えりか	12/19・ 20、 2/14	×	×
2016249	細池寺道上遺跡 151	秋葉区	圃場整備	諫山えりか	3/8~ 22	×	○
2016250	法花鳥屋A遺跡 239	北区	個人住宅	諫山えりか	3/8	×	×
2016253	近世新潟町跡 575-18	中央区	解体	諫山えりか	3/13・ 14	×	×
2016261	腰廻遺跡 157	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	6/2	×	×
2016262	近世新潟町跡 575-11	中央区	自転車等 駐車場	諫山えりか	9/8	×	×
2016263	大関館跡 171	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	2/4	×	×
2016266	赤鎗山遺跡 783	西蒲区	店舗	諫山えりか	11/26	×	×
-	砂崩遺跡 389	江南区	個人住宅	-	※2	-	-
-	森田遺跡 218	秋葉区	個人住宅	-	※2	-	-
-	森田遺跡 218	秋葉区	共同住宅	-	※2	-	-
-	新田郷南遺跡 775	江南区	宅地造成	-	※2	-	-

※1 遺物などの記録をまとめるため、工事立会にも発掘調査番号を付している。
 ※2 工事実施日の連絡がなく、工事実施時に工事立会ができなかったため、口頭注意を行った。

2 平成28年度の事前審査に係る試掘・確認調査及び工事立会の概要

(1) 童子西遺跡 第1次調査 (2016109)

所在地 新潟市西蒲区和納一丁目694番 外
 調査の原因 農産物加工施設建設 (民間事業)
 調査期間 平成28年4月20日 (1日間)
 調査面積 44㎡ (調査対象面積1,400㎡)
 調査担当 潮田憲幸
 処置 慎重工事

調査に至る経緯 農産物加工施設建設に伴い埋蔵文化財の有無を確認するため、4月19日付で着手報告を提出し (新歴F第7号の3)、試掘調査 (第1次・2016109) を実施した。

位置と環境 童子西遺跡は西川の自然堤防右岸に位置し、標高は5.5m前後、現況は水田である (図1)。周囲には中世の遺跡が点在し、北東約200mには和納館跡、北西約320mには和納八幡前遺跡、南西約420mには原館跡、南東約710mには童子遺跡などがある。

概要と層序 トレンチを4か所設定した (図2)。基本層序はI層：耕作土、II a層：明灰褐色砂質シルト、II b層：褐灰色砂質シルト、III層：暗青灰色粘質シルト (上層遺物包含層)、IV a層：暗色粘質シルト (上層遺構確認面)、IV b層：暗色粘質シルト (下層遺物包含層あるいは遺構覆土)、V層：緑灰色砂質シルト (下層遺構確認面)、VI層：緑灰色粘質シルト、VII層：暗褐色粘質シルト (有機質)、VIII層：緑灰色砂質シルトである。遺物包含層は上層がIII層、下層がIV b層である。1 TのII a層上面と2 TのII b層上面には噴砂による堆積が確認できる (図3)。

検出遺構 上層 (IV a層) では1 Tで溝 (SD) 3条、2 Tで土坑 (SK) 1基を検出した。下層 (V層) では1 Tで溝2条、3 Tで溝2条とピット (SP) 2基を検出した。上層の遺構は中世の遺物包含層を切っていることから中世以降で、下層の遺構は中世の遺物が出土することから中世に属する。

出土遺物 1 T下層 (V層) の溝より珠洲系陶器1点 (図4-2) と焼礫1点、3 T下層 (V層) の遺構より中世土師器1点 (図4-1)、4 T IV a・b層より中世土師



図1 調査位置図 (1/10,000)

器2点が出土し、うち2点を図化した (図4)。

まとめ 試掘調査の結果、中世の遺構・遺物を検出し、遺物包含層が良好な状態であることが確認され、「童子西遺跡」として周知化した。今回の事業に関しては、協議の結果、盛土を行い、この盛土までの掘削による地盤改良及び基礎工事となったことから慎重工事での対応とした。
 (相澤裕子)

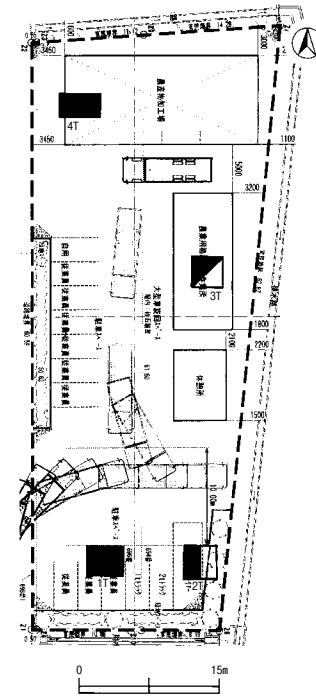


図2 トレンチ位置図 (1/800)

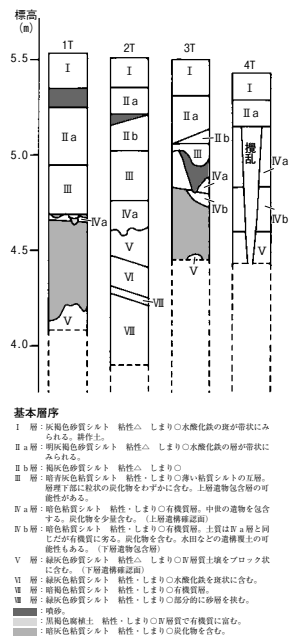


図3 土層柱状図 (1/40)

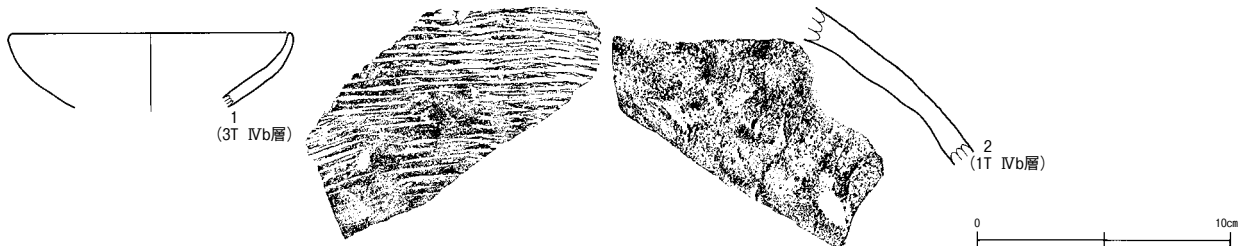


図4 遺物実測図 (1/3)

(2) 塩辛遺跡 第9・10次調査 (2016112・117)

A 塩辛遺跡 第9次調査 (2016112)

所在地 新潟市秋葉区朝日字塩辛154番3 外

調査の原因 駐車場建設 (民間事業)

調査期間 平成28年4月26日 (1日間)

調査面積 25㎡ (調査対象面積522㎡)

調査担当 潮田憲幸

処置 慎重工事

調査に至る経緯 駐車場建設に伴う土地の売買に係り、平成28年3月23日付で歴史文化課に埋蔵文化財の調査の依頼があった。これを受けて、同年4月22日付で着手報告を提出し (新歴B第5号の2)、確認調査を実施した。

位置と環境 位置と環境については『年報』第2号を参照されたい〔渡邊2015〕。調査地は、遺跡の北端に位置し、現標高約8mである (図1)。

概要と層序 トレンチを2か所設定した (図2)。基本層序はI層：盛土、II層：青黒色粘質シルト、III層：黒灰色粘質シルト、IV・V層：暗灰色粘質シルト、VI層：明青灰色シルト、VII層：明青灰色～青灰色粘質シルト、VIII層：黒色粘質シルト、IX層：暗青灰色シルトである。このうち、遺物包含層はIV・V層、遺構確認面はVI層上面である。また、本遺跡はこれまでの調査で少なくとも上下2面の遺構確認面が存在することが判明している。今回の調査で遺構・遺物は確認されていないが、VIII層は下面の遺物包含層にあたる可能性がある。

検出遺構 1Tでピット (SP) 1基、2Tで溝 (SD) 1条をいずれもVI層上面で確認した (図2)。

出土遺物 1TではI・IV～VI層から32点、2TではIV・V層及び溝の覆土から76点の計108点 (破片数) 出土した。内訳は、土師器68点、須恵器36点、土製品1点、礫3点である。そのうち、須恵器6点が溝覆土から出土した。

図4の1～7が1T、8～11が2T出土である。1～3はI層出土で、1・2は須恵器杯蓋、3は須恵器有台杯。4～7はIV～VI層出土で、4は須恵器有台杯、5・6は土師器甕、7は羽口である。8・9は溝出土である。8は須恵器有台杯で全体の9割程残存する。9は須恵器甕。10・11はIV・V層出土で、10は土師器甕、11は須恵器有台杯で焼成温度が低温のため軟質である。

8は春日氏の編年〔春日1999〕のIV期に位置づけられ、1Tを含むほかの資料もIV期前後と考えられる。

まとめ 調査後に『法』第93条の届出が提出された (平成28年5月16日付)。基礎工事は計画地内を20cm掘削する内容で、調査結果から工事に伴う掘削が盛土内でおさまることから慎重工事とした。

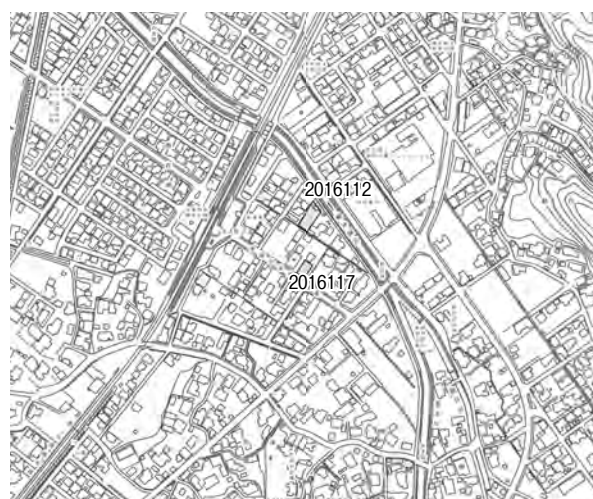


図1 調査位置図 (1/10,000)

B 塩辛遺跡 第10次調査 (2016117)

所在地 新潟市秋葉区朝日字塩辛143番5

調査の原因 個人住宅建設 (民間事業)

調査期間 平成28年5月16日 (1日間)

調査面積 14㎡ (調査対象面積298㎡)

調査担当 潮田憲幸

処置 慎重工事

調査に至る経緯 個人住宅建設に伴い『法』第93条の届出が提出された (平成28年5月2日付)。基礎工事内容は、計画建物内に柱状改良 (ピュアパイル工法) を36か所 (直径20cm、深度8.75m) 行い、ベタ基礎部分を深度45cmで掘削する計画である。取扱いを決めるため、着手報告を提出し (平成28年5月13日付、新歴B第36号の3)、調査を実施した。

位置と環境 調査地は遺跡の中央付近に位置し、現標高約7.5mである (図1)。

概要と層序 トレンチを1か所設定した (図3)。基本層序はI層：盛土、II層：黒色粘質シルト、III層：青黒灰色粘質シルト、IV層：黒灰色粘質シルト、V層：暗灰色粘質シルト、VI層：灰色粘質シルト、VII層：黒色シルト、VIII層：灰白色シルト、IX層：明褐色細砂である。IV層が中世、V・VI層が古墳時代の遺物包含層である。

検出遺構 遺構は検出されなかった。

出土遺物 1TではIV～VII層から破片数で計63点出土した。このうちIV層では珠洲焼1点のみが出土している。内訳は、土師器60点、珠洲焼1点、礫1点、鉄滓1点である。図化した資料のうち、図4の12～18がVI・VII層、19がIV層出土である。12・13は土師器杯である。12は内面が黒色処理される。両者とも内外面に横方向のヘラミガキが認められる。14～16は高杯で、いずれも杯部内面は黒色処理される。14の杯部は内外面とも横方向のヘラミガキ。17は土師器直口壺の口縁部で調整は粗い。

18は土師器甕の体部と推測され、底部に近い破片と考える。19は珠洲焼である。土師器は、杯や高杯の形態や調整はこれまでの報告資料〔渡邊・立木ほか2004、相田2015〕と類似しており、古墳時代後期前半頃の資料と考えられ

る。

まとめ 確認調査の結果、今回のベタ基礎工事による遺跡への影響は少なく、柱状改良による掘削も小規模であることから慎重工事の取扱いとした。

(相田泰臣)

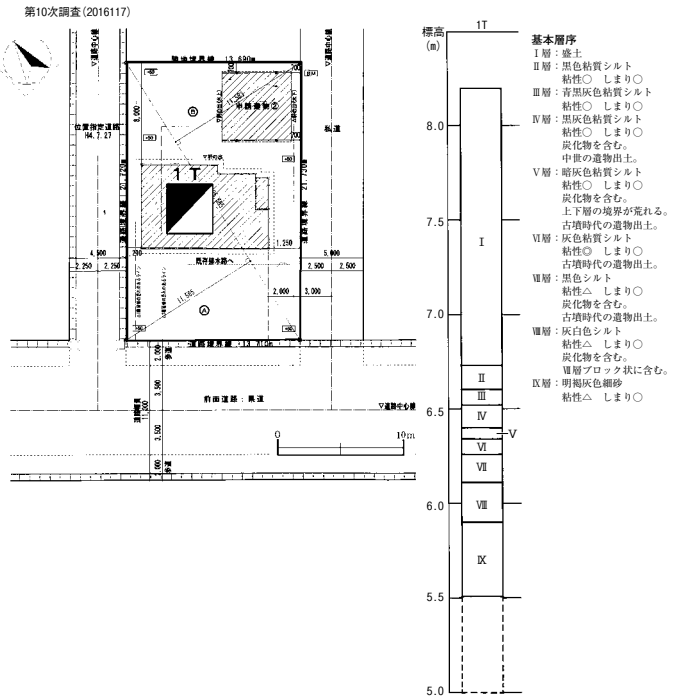
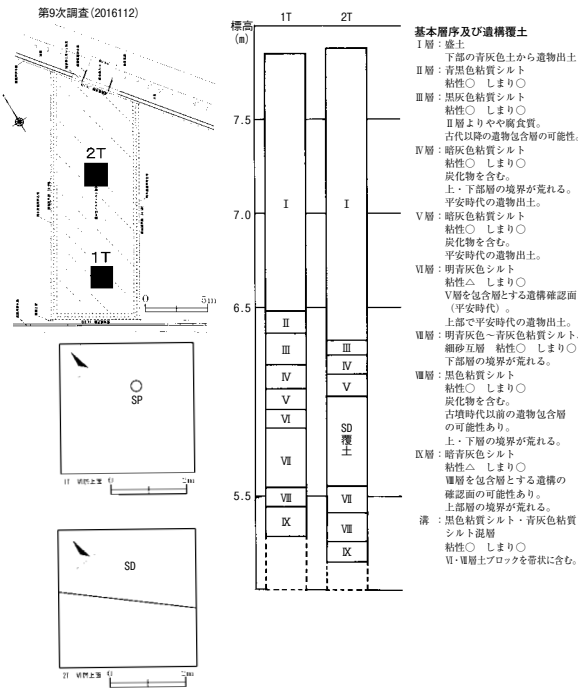
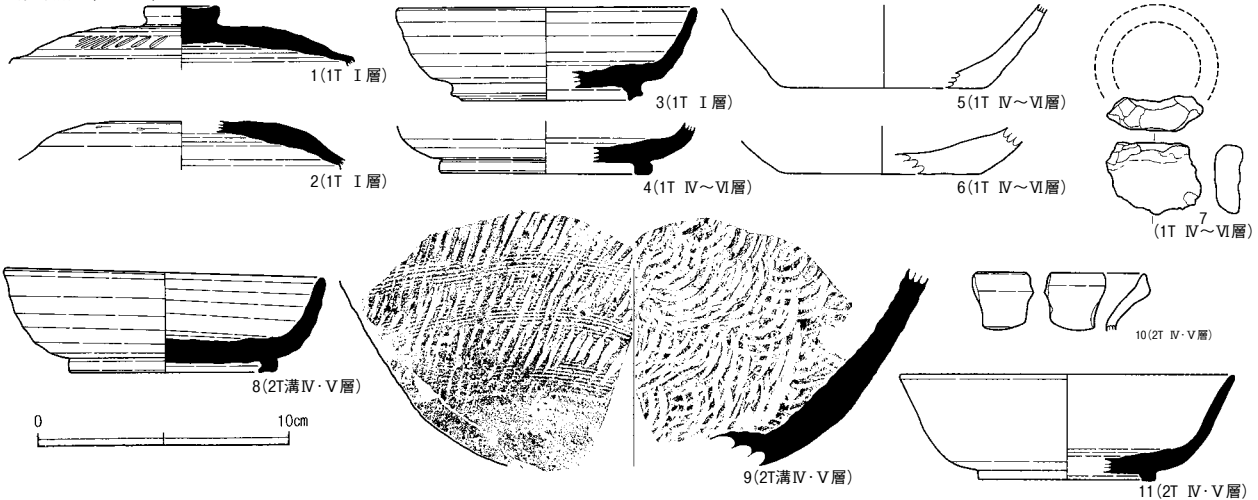


図2 第9次調査トレンチ位置図(1/600)・平面図(1/200)・土層柱状図(1/40)

図3 第10次調査トレンチ位置図(1/600)・土層柱状図(1/40)

第9次調査(2016112)



第10次調査(2016117)

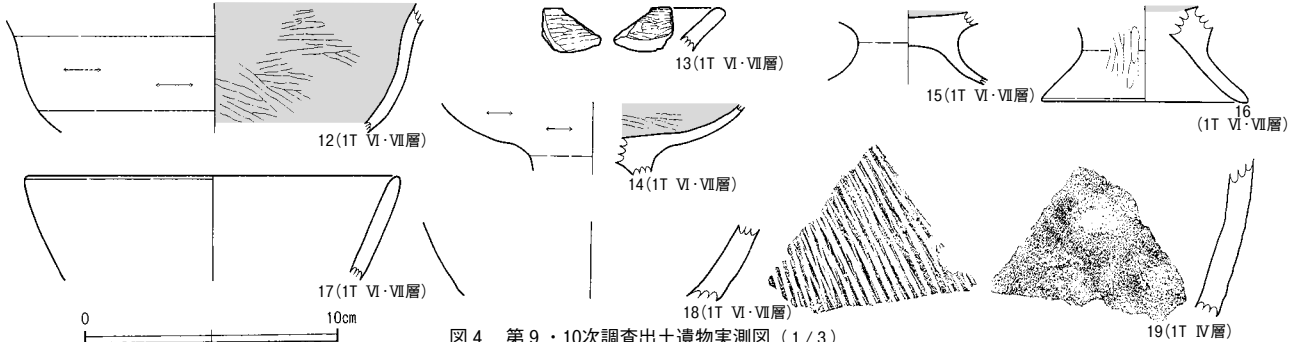


図4 第9・10次調査出土遺物実測図(1/3)

(3) 山木戸遺跡 第7・8次調査(2016113・2016150)

A 山木戸遺跡 第7次調査(2016113)

所在地 新潟市東区山木戸四丁目470番4

調査の原因 宅地造成(民間事業)

調査期間 平成28年4月27日(1日間)

調査面積 51㎡(調査対象面積990㎡)

調査担当 潮田憲幸

処置 工事立会

調査に至る経緯 宅地造成に伴い歴史文化課へ照会があった。開発範囲の一部を除いて大部分が遺跡に該当するため4月26日付で着手報告を提出し(新歴F第35号)、確認調査(第7次・2016113)を実施した。

位置と環境 山木戸遺跡は新潟砂丘の新砂丘Ⅱ-4列の北側裾部に位置し、現況は宅地である。調査地は山木戸遺跡の北東端に位置し、標高は0.3m前後である(図1)。周囲には西約110mに山木戸居付遺跡(弥生時代後期・平安・中世)などがある。

概要と層序 トレンチを4か所設定した(図2)。基本層序はⅠ層:表土、Ⅱa層:黒色腐植中粒砂(遺物包含層)、Ⅱb層:黒色腐植中粒砂(遺物包含層)、Ⅲ層:明灰黄色中粒砂(遺構確認面)である(図3)。2Tでは埋設管のためⅡa層途中で掘削を止めた。各トレンチの層序から、遺構確認面は南に向かって低くなっていることがわかる。

検出遺構 1Tでピット(SP)9基と性格不明遺構(SX)2基、3Tでピット6基、4Tで溝(SD)1条をⅢ層で検出した。

出土遺物 Ⅱa・b層とⅢ層及び溝より接合後の破片数で299点出土した。内訳は土師器(古代)174点、黒色土器2点、須恵器(古代)107点、珠洲焼4点、土錘2点、礫9点、羽口1点である。うち10点を図化した(図4)。1は土師器無台碗で底部外面に「小□」の墨書があり、2は内面黒色土器である。3はハケメ調整の甕、4は土師器長甕。5～9は須恵器で5は9世紀後半の無台杯、6は有台杯、7は有台碗、8は杯蓋、9は大甕。10は珠洲焼壺、11は土錘である。

まとめ 遺物包含層及び遺構が良好に残っていることが確認できた。1・2Tは遺跡範囲外であったが、遺構・遺物が確認されたため遺跡範囲を拡大した。造成工事では最大45cmの盛土を行い、U字溝やマンホール・下水管道などを敷設するが、これらの工事では遺跡への影響は軽微であると判断し、取扱いは工事立会とした。

B 山木戸遺跡 第8次調査(2016150)

所在地 新潟市東区山木戸四丁目403番2外

調査の原因 集合住宅建設(民間事業)

調査期間 平成28年7月26・27日(2日間)

調査面積 21㎡(調査対象面積806㎡)



図1 調査位置図(1/10,000)

調査担当 諫山えりか

処置 工事立会・慎重工事

調査に至る経緯 集合住宅建設に伴い埋蔵文化財の有無を確認するため、7月26日付で着手報告を提出し(新歴B第97号の2)、試掘調査(第8次調査・2016150)を実施した。

位置と環境 調査地は範囲拡大前の山木戸遺跡から西へ約10mの地点で、標高は0.5m前後である(図1)。

概要と層序 トレンチを6か所設定した(図5)。基本層序はⅠ層:表土、Ⅱ層:暗褐色砂、Ⅲ層:黒褐～暗褐色砂(遺物包含層)、Ⅳ層:黄褐色～褐色砂で、Ⅲ層はさらに色調により5層に細分できる。第7次調査同様に、南に向かって低くなっている(図6)。

検出遺構 1Tで土坑(SK)1基、2Tと6Tで性格不明遺構(SX)各1基がⅣ層上面で検出された。4TではⅢd層上面で炭化物や淡褐色粘土ブロックを含む盛土状の高まりが確認された。

出土遺物 接合後の破片数で176点出土した。内訳は土師器(古代)105点、須恵器(古代)19点、白磁1点、青磁3点、中世土師器37点、珠洲焼3点、中世陶器1点、粘土塊2点、金属製品5点である。うち6点を図化した(図7)。1は須恵器無台杯、2・3の中世土師器は14世紀後半、4は青磁香炉、5の珠洲焼播鉢は吉岡氏の編年I期〔吉岡1994〕。

まとめ 遺物包含層は調査区北側の1T・5T・6Tでは掘削を受けているが、南側の2～4Tでは良好に残っている。第7次調査に比べて中世の遺物が多いことから、時代が下るにつれて遺跡の主体は西へ移動したものと考えられる。今回の調査により遺構・遺物が確認され、遺跡範囲を拡大した。工事では土留め・伐根に伴う掘削については工事立会、ベタ基礎工事については慎重工事とした。(相澤裕子)

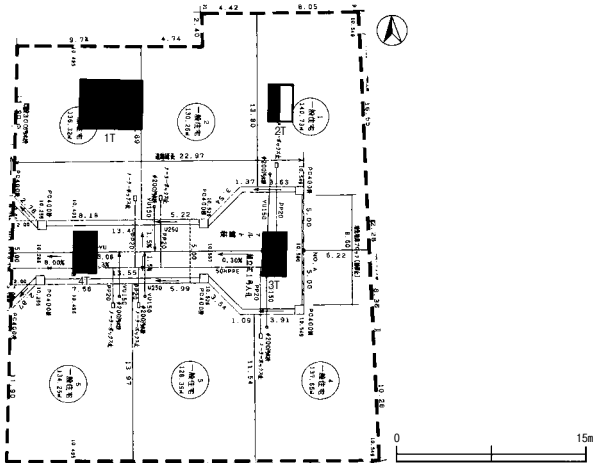


図2 第7次調査トレンチ位置図 (1/600)

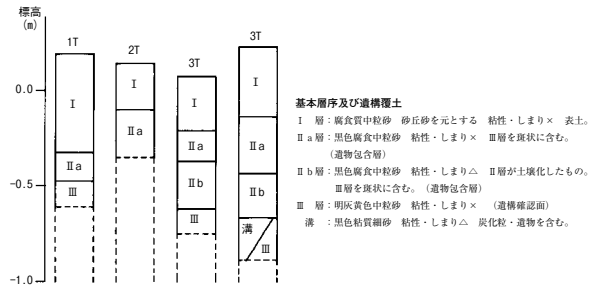


図3 第7次調査土層柱状図 (1/40)

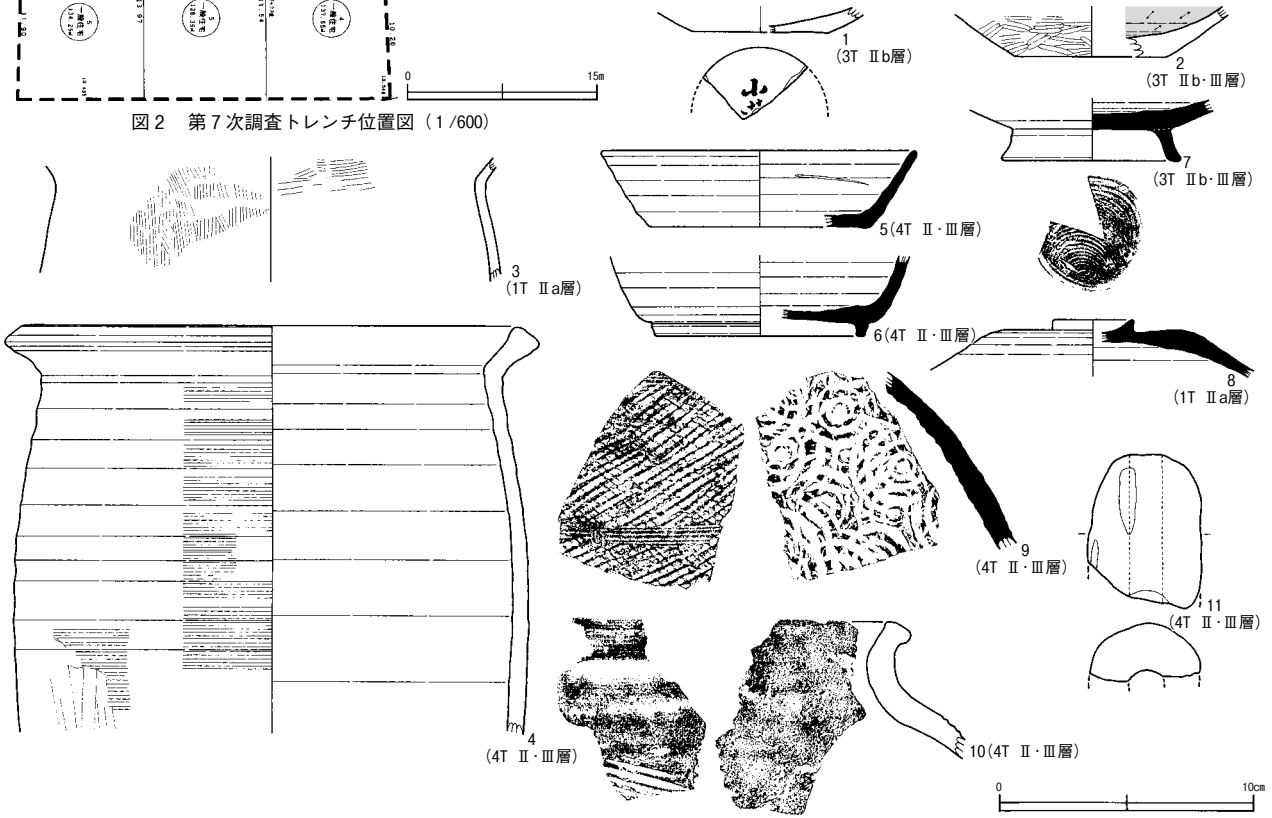


図4 第7次調査遺物実測図 (1/3)

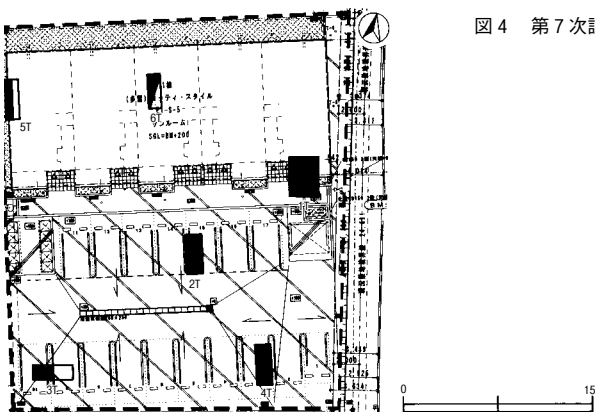


図5 第8次調査トレンチ位置図 (1/600)

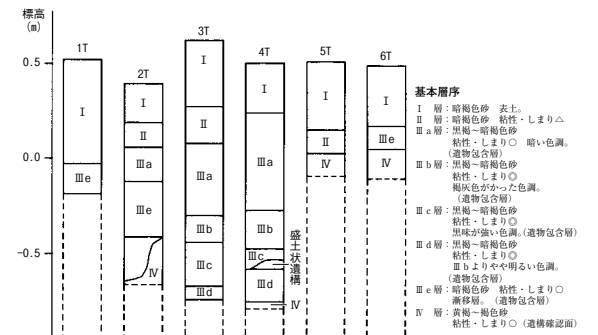


図6 第8次調査土層柱状図 (1/40)

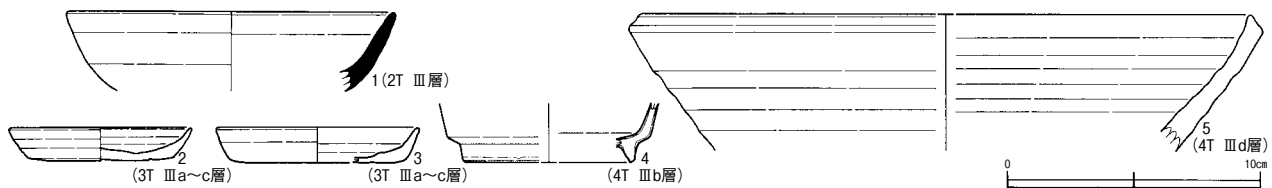


図7 第8次調査遺物実測図 (1/3)

(4) 上町遺跡 第2次調査 (2016120)

所在地 新潟市西蒲区和納二丁目29番33

調査の原因 個人住宅建設

調査期間 平成28年5月9日(1日間)

調査面積 12㎡(調査対象面積226㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 慎重工事

調査に至る経緯 上町遺跡は昭和49(1974)年刊行の『岩室村史』に遺物出土地点として記載されている〔井上・萩野ほか1974〕。

個人住宅建設が計画され、土地所有者より事前調査の依頼が提出された(平成28年3月17日付)。そこで、同年5月9日付で着手報告を提出し(新歴F第29号)、確認調査(第2次・2016120)を実施した。その後、『法』第93条の届出が提出された(平成28年6月16日付)。基礎工事内容は、ベタ基礎部分を深度35cmで掘削し、柱状改良を48か所(直径60cm、長さ7.5m)行う計画であった。

位置と環境 上町遺跡は西川右岸の自然堤防上に立地する。調査地は遺跡範囲の北部に位置する(図1)。現地標高は7.1m前後である。現況は宅地となっている。

平成20年の確認調査(第1次・2008107)で、15世紀頃の珠洲焼が出土し、同時期の遺構が確認されている。

遺跡のすぐ南側には、上町遺跡と同時期の遺跡と考えられている和納八幡前遺跡や中世の城館跡として多数の遺構や遺物が見ついている和納館跡が位置している。

概要と層序 トレンチを2か所設定した(図2)。基本層序は、I層：盛土、II a・b層：砂混粘土、III a～d層：暗灰色シルト質粘土、IV a～c層：シルト質粘土、V a・b層：シルト質粘土、VI層：暗灰褐～黒褐色シルト質粘土、VII層：灰褐色～灰黄色細砂～シルト質粘土(遺構確認面)である(図3)。

検出遺構 1TのVII層から井戸1基(SE1)、2TのIII層から性格不明遺構1基(SX2)、VII層から溝1基(SD4)と性格不明遺構1基(SX3)を検出した。

出土遺物 III～VII層及び遺構より破片数で77点出土した。内訳は青磁3点、瀬戸焼・美濃焼1点、近世陶磁器69点、石4点である。うち4点を図化した(図4)。1は青磁稜花皿の口縁部破片資料である。内面に沈線が施される。2は青磁碗の底部破片資料である。3は瀬戸焼・美濃焼瓶子の肩部破片資料である。2条の沈線を巡らせている。4は越前焼播鉢の口縁部破片資料である。8条の卸目がある。全て中世と考えられる。

まとめ 中世の遺構確認面が良好に残っていることが確認された。和納館跡と同時期の遺跡であり、同じ自然堤防上に立地していることから、何らかの関係が考



図1 調査位置図(1/10,000)

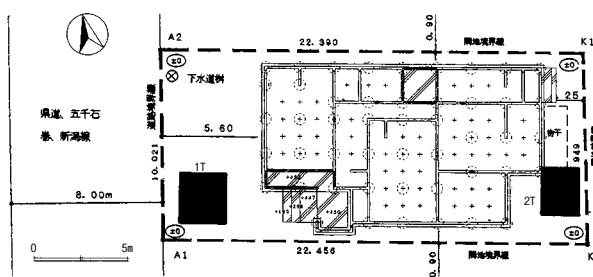


図2 トレンチ位置図(1/400)

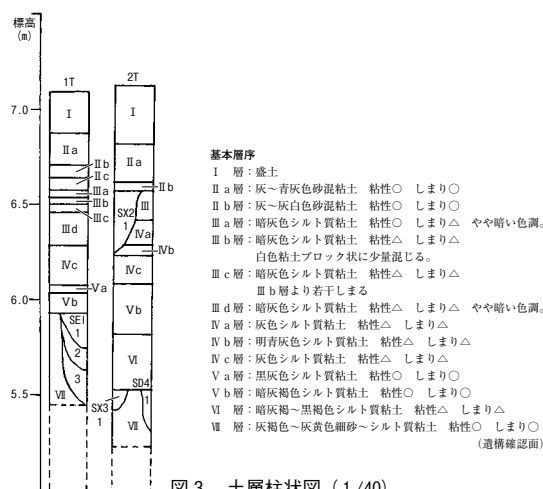


図3 土層柱状図(1/740)

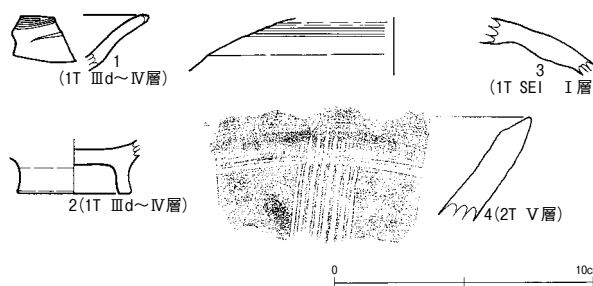


図4 遺物実測図(1/3)

えられる。

取扱いは、工事による遺跡への影響がほぼない、または遺跡への損傷の恐れのある掘削が小規模にとどまるため慎重工事とした。(金田拓也)

(5) 吉岡遺跡 第1・2次調査 (2016125・2016141)

所在地 新潟市秋葉区田家一丁目1653番1 外

調査の原因 店舗建設 (民間事業)

調査期間 平成28年5月20日 (1日間・2016125)

平成28年6月14日 (1日間・2016141)

調査面積 33㎡ (調査対象面積1,187㎡・2016125)

13㎡ (調査対象面積1,187㎡・2016141)

調査担当 潮田憲幸

処置 慎重工事 (2016125)、

工事立会・慎重工事 (2016141)

調査に至る経緯 店舗建設に伴い埋蔵文化財の有無を確認するため、平成28年5月19日付で着手報告を提出し (新歴B第21号の4)、試掘調査 (第1次・2016125) を実施した。調査の結果、遺物包含層が確認され新たな遺跡の存在が判明した。これにより『法』第93条の届出が提出された (平成28年6月7日付)。店舗建設に伴う工事内容は布基礎敷設・柱状改良・排水路・フェンスなどの掘削を伴う工事である。特に店舗基礎は布基礎部分を幅約35cm、深度約75cmで掘削し、柱状改良を58か所 (直径60cm、杭深さ地表面から3.7m) 行う計画であった。なお、第1次調査の結果から取扱いは、布基礎敷設・排水路・フェンスなどの工事は遺跡への影響がほぼないことが見込まれ、また柱状改良の施工部分は遺跡を損傷する恐れのある掘削が小規模にとどまることから慎重工事とした。

その後、店舗の自立看板設置に伴い『法』第93条の届出が提出された (平成28年6月10日付)。基礎工事内容は長辺約2.4m、短辺約2.0m、深度約1.3mで掘削し、柱状改良を6か所 (直径60cm、杭深さ地表面から6.0m) 行う計画であった。この取扱いを決めるため、平成28年6月10日付 (新歴B64号の3) で着手報告を提出し、確認調査 (第2次・2016141) を実施した。

位置と環境 吉岡遺跡は新津丘陵北西側の丘陵裾部から広がる沖積地に立地する (図1)。調査地付近の現地標高は9m程度で、周辺は宅地となっている。

概要と層序 トレンチを第1次調査で3か所、第2次調査で1か所設定した (図2)。

基本層序は、I層:盛土、II層:暗灰色粘質シルト (近世以降の生活面がIII層を攪乱した層のため、平安時代・中世・近世の遺物を含む。第1次調査ではI層による攪乱によりほぼ削平のため不明瞭で分層していないがII層の存在は認識している)、III層:黒灰色粘質シルト (平安時代・中世遺物包含層)、IV層:青灰色粘質シルト (平安時代の遺構確認面)、V層:青灰色中粒砂、VI層:明灰白色粘質シルト、VII層:黒灰色粘質シルト、VIII層:暗灰色粘質シルトである (図3)。

検出遺構 第2次調査の1TIV層上面で、溝を1条



図1 調査位置図 (1/10,000)

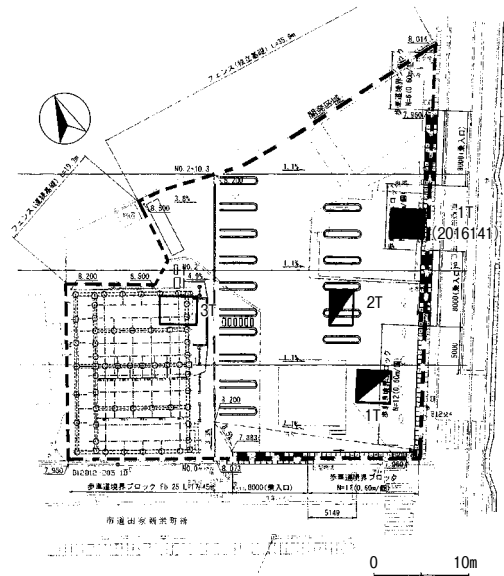


図2 トレンチ位置図 (1/800)

(SD1) 検出した。長軸はトレンチの外にのびるが、幅は約70cmを測る。覆土から平安時代の土師器と砥石が出土した。

出土遺物 第1次調査の1・2Tから土師器12点、須恵器2点、中世陶器1点、近世陶磁器1点、第2次調査の1Tから土師器35点、黒色土器2点、須恵器3点、近世陶磁器8点、砥石1点、椀形滓2点である (表1)。このうち5点を図化した (図4)。

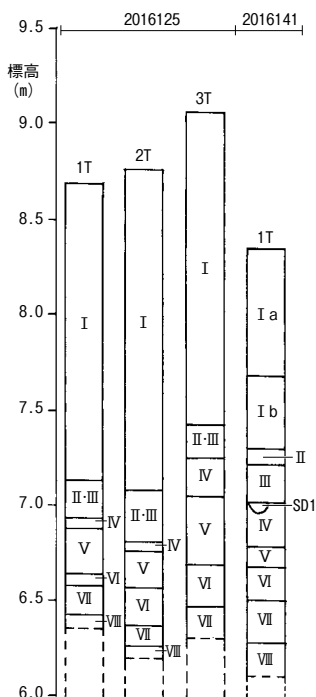
1・2が第1次調査1T、3～5が第2次調査1Tから出土した資料である。1は新津丘陵家跡群産の須恵器無台杯で、8世紀末頃のものと考えられる。2は古瀬戸の天目茶碗。体部下半は回転ヘラケズリが施され、高台は削り出しの輪高台である。内面に灰釉が薄く認められる。藤沢氏の編年による古瀬戸後期様式の後I期〔藤澤1991〕頃であろうか。1・2はII・III層より出土した。3は平安時代の土師器無台椀で、溝覆土中より出土した。

4は平安時代の土師器で体部が直線的に外にのび、浅い皿形を呈するように思えたため有台皿と考えたものであ

る。底部糸切りののち高台を貼り付けている。5は椀形滓である。4・5はⅢ層より出土した。

ま と め 第1次調査の結果、新遺跡として周知化され、第2次調査では平安時代の遺構が検出された。この第2次調査による取扱いは、看板基礎敷設に伴う工事については工事立会、柱状改良の施工部分は小規模な掘削にとどまるため慎重工事とした。

なお、1の須恵器については春日真実氏（(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団）よりご教示いただいた。ただし文責は筆者にある。（八藤後智人）



基本層序及び遺構覆土（第1次・2次調査の土層注記を年報用に統一表記とした）

- I a・I b層：盛土
- II層：暗灰色粘質シルト 粘性◎ しまり○ 旧表土。Ⅲ層土をブロック状に含む。近世以降の地表面と思われる。攪乱が激しくI層により攪乱を受ける一方、Ⅲ層を攪乱している。平安時代・中世・近世の遺物を含む。第1次調査（2016125）でもII層を認識しているが、I層による攪乱により明瞭な層の境界ではなく、また残存も不良のため分層していない。
- Ⅲ層：黒灰色粘質シルト 粘性◎ しまり○ 粒状炭化物を帯状に含む。上部はII層により攪乱されている。下部の層の境界は荒れる。平安時代・中世の遺物を包含する。
- IV層：青灰～明緑灰色粘質シルト 粘性◎ しまり○ 平安時代の遺構確認面。炭化物を含む。
- V層：青灰色中粒砂 粘性× しまり△
- VI層：明灰白色粘質シルト 粘性◎ しまり○
- Ⅶ層：黒灰～暗灰色粘質シルト 粘性○ しまり○ 炭化物を含む。遺物は確認されていないが有機質土壌のため遺物包含層の可能性を示唆。下部の層の境界は荒れる。
- Ⅷ層：暗灰色粘質シルト 粘性○ しまり○
- SD1 1層：黒灰色シルト 粘性◎ しまり○

図3 土層柱状図（1/40）

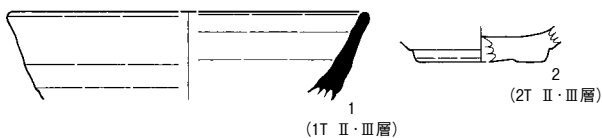


第2次調査 1 T溝（SD1）検出状況（西から）

表1 出土遺物集計表

調査回数(%)	調査番号	出土位置		種別(破片数)						小計		
		トレンチ	層位	土師器	黒色土器	須恵器	中世陶器	近世陶磁器	石製品		鉄滓	
1	2016125	1 T	Ⅱ・Ⅲ層	7		2					9	
1	2016125	2 T	Ⅱ・Ⅲ層	5			1		1		7	
2	2016141	1 T	Ⅱ層	17		2			8		27	
2	2016141	1 T	Ⅲ層	16	2	1				2	21	
2	2016141	1 T	SD1 1層	2					1(碱石)		3	
合計				47	2	5	1		9	1	2	67

第1次調査(2016125)



第2次調査(2016141)

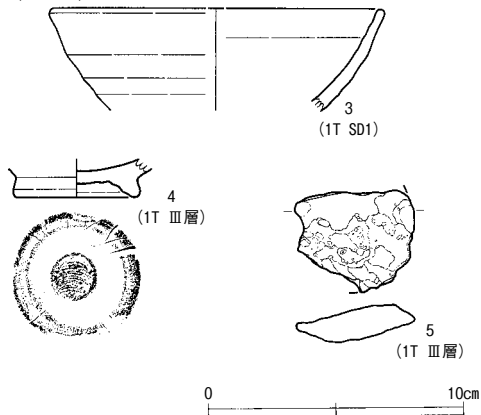


図4 遺物実測図（1/3）



第2次調査 1 T東壁土層断面（西から）

(6) 山谷北遺跡 第4・5次調査(2016127・2016245)

所在地 新潟市秋葉区新津字山谷北5149番 外

(2016127)

新潟市秋葉区新津字山谷北5195番 1 外

(2016245)

調査の原因 宅地造成(民間事業・2016127)

店舗など建設(民間事業・2016245)

調査期間 平成28年6月6日～10日(5日間・2016127)

平成29年2月21日～24日(4日間・2016245)

調査面積 174㎡(調査対象面積56,402㎡・2016127)

152㎡(調査対象面積56,402㎡・2016245)

調査担当 潮田憲幸

処置 工事立会

調査に至る経緯 土地区画整理事業に係る宅地造成計画に伴い、平成28年5月13日付で埋蔵文化財の事前調査の依頼が提出された。宅地造成は南北に分かれている遺跡範囲の南側を含む範囲であるが、東側を走る市道の拡幅が北側の遺跡範囲にもおよぶ。その範囲について同年6月3日付で着手報告(新歴B第44号の2)を提出し、確認調査を実施した(第4次・2016127)。

第4次調査では2点の土師器が出土したのみであったが、北側の範囲で湛水により調査できなかった部分があることや、希薄ながらも遺構・遺物が存在する可能性が残されることから、少数の遺構であれば確認調査内で対応することとし、計画の具体化を待って、平成29年2月20日付で着手報告(新歴B第44号の11)を提出し、遺物の出土した16T周辺と水田耕作時に湛水により調査不能であった地点で追加調査を行った(第5次・2016245)。

位置と環境 調査地は能代川左岸から約1,200m西の後背低地中にあり(図1)、標高は2.5～3mを測る。500m東に埋堀遺跡(中世)が存在するが、近接する周知の遺跡は現時点で発見されておらず、低湿地中に孤立して存在する。昭和54年に排水路改修に伴い丸木舟が出土したことで遺跡の存在が判明した(北側の範囲)[川上1989]。

その後事業用地開発に伴い、平成10年度に今回調査地の東側で113か所の試掘調査を行っている(1998137)。この地点では非常に散漫に遺物・遺構が検出されたのみで、水田や畑などではないかと考えられた。平成11年度の確認調査では今回開発計画地と同じ範囲において68か所のトレンチを設定し、古墳時代の土器がまとまって出土したことから南側に範囲が追加された(1999121)。北側はその後大部分が国道460号線の法線下になったが、南側は一部が店舗敷地となったものの、遺跡の主体とみられる部分は事業実施されず、水田のまま利用されてきた。南北に分かれる両者の距離は、130m程度である。

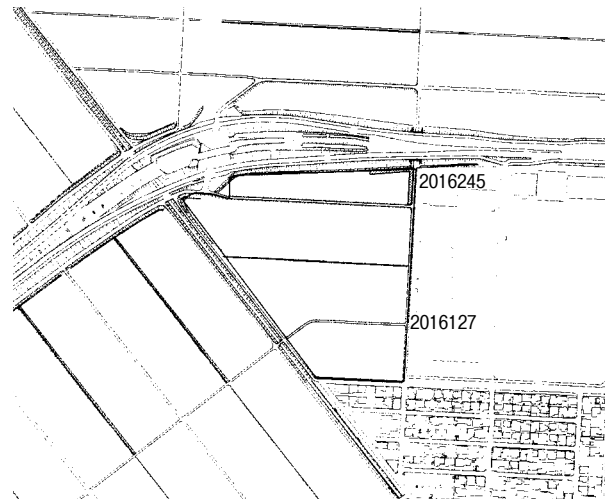


図1 調査位置図(1/10,000)

概要と層序 第4次調査では道路拡幅部分に19か所のトレンチ(1T～19T)、第5次調査では第4次調査の16T周辺に6か所のトレンチを設定した(20T～25T)(図2)。土質は低湿地性堆積で、I層:暗灰色シルト(表土)、II層:灰白色シルト(水田床土)、III層:褐色～暗褐色シルト(古代の遺物包含層)、IV層:明灰白色の均質な粘土、V層:灰白色～黒灰色シルト(古代の遺物包含層、3・13Tでは腐植質土を含む)、VI層:暗褐色～黒褐色シルト(層と層の境が乱れており、耕作痕の可能性ある)、VII層:灰褐色シルト、VIII層:明青灰色シルト、IX層:青灰色シルト、X層:青灰色粘土質シルト、XI層:青灰色シルト・細砂互層である。5・13Tでは川跡と思われる腐植質土層が検出されている(図4)。

検出遺構 第4次調査では遺構は検出されなかった。第5次調査では21・23・25TのVIII層上面で土坑4基(SK1・3・4・7)、炭化物・焼土集中3基(SX2・5・6)が検出された。SK1以外の土坑は隅丸長方形の平面形と逆台形の断面形を呈し、主軸方向がほぼ同一で規格性が認められる。SK1は出土土師器と周辺出土の土器からみて平安時代の遺構の可能性が高い。

出土遺物 第4次調査では16TでIII層とV層から1点ずつ土師器が出土した。III層の1点は無台椀、V層の1点は小片で磨滅が激しく器形も不明だがいずれも平安時代のもので推定される。第5次調査では16Tの西に隣接する21Tの北半部で土器が出土した。SK1底面から1点出土したほかはV層出土である。総破片数は須恵器30点、土師器94点である。7点を図化した(図5)。須恵器は壺瓶類の口縁部かと思われるごく薄手のもの(1)、環状つまみをもつ杯蓋(2)のほかはすべて無台杯で最低6個体あり、いずれも3とほぼ同様の形態のものである。土師器には全形のわかるものはないが、4は底部糸切りの無台椀、5はロクロ使用の長甕口縁部、6はタタ

キメのある長甕体部、7はタタキメのある鍋体部で、図化できなかったが小甕もある。SK1出土の1点は小片で鍋か長甕体部であろう。須恵器は佐渡小泊窯跡群産とみられ、土器全体として概ね9世紀代のものとする。

まとめ これまで当遺跡では南側の範囲で古墳時代後期の土器の出土が知られていたのみであったが、今回北側で平安時代の土器が出土し、遺構の存在も確認されたことで、古代にも生活痕跡のあることが明らかにな

った。遺構が検出されたトレンチのうち23Tと25Tはこれまでの遺跡範囲の外であり、遺跡がより南に広がっていることが捉えられたため、遺跡範囲を拡大した(平成29年2月24日付)。取扱いは継続協議としたが、その後、宅地造成ではなく商業地造成と計画変更になり、『法』第93条の届出が提出された(平成29年4月28日付)。取扱いは、4T北側に計画されたマンホール施行部のみ、旧地盤に達するため工事立会とした。(奈良佳子)

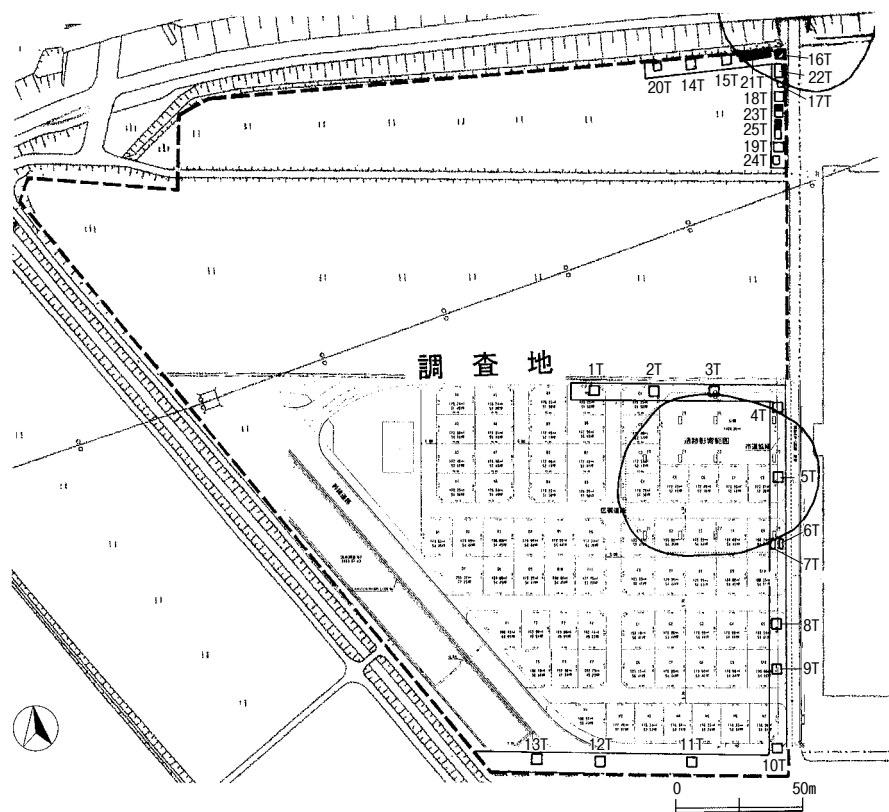


図2 トレンチ位置図 (1/3,000)

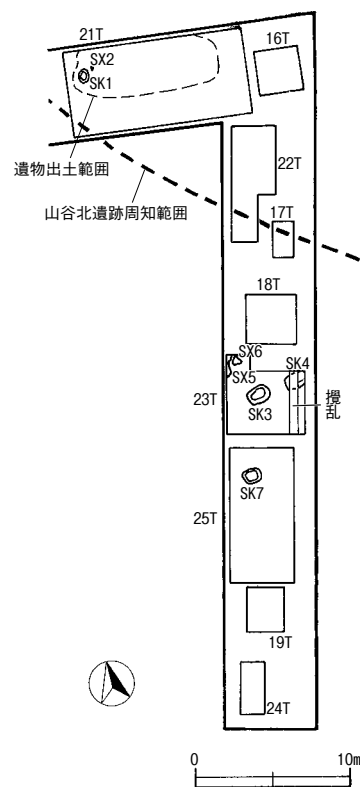
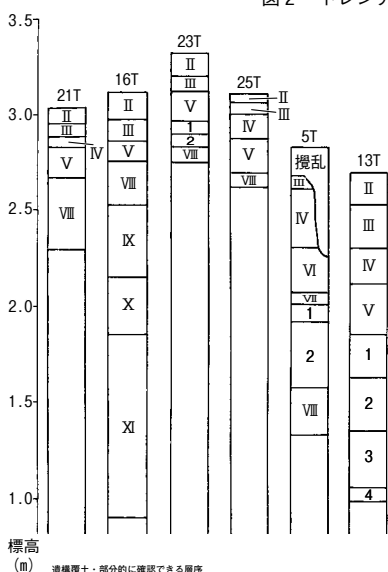


図3 遺構平面図 (1/500)



遺構覆土・部分的に確認できる層序
 23T 1層 明灰白色粘土 (SXG-6を覆う) 2層 炭化物・焼土 (SXG覆土)
 13T 1層 濃灰色シルト・明灰白色粘土・細砂互層 腐植質土を多く含む。
 2層 灰色シルト
 3層 濃灰色中粒砂・腐植質土互層
 4層 腐植質土・未分解の植物遺体のみからなる。

図4 土層柱状図 (1/40)

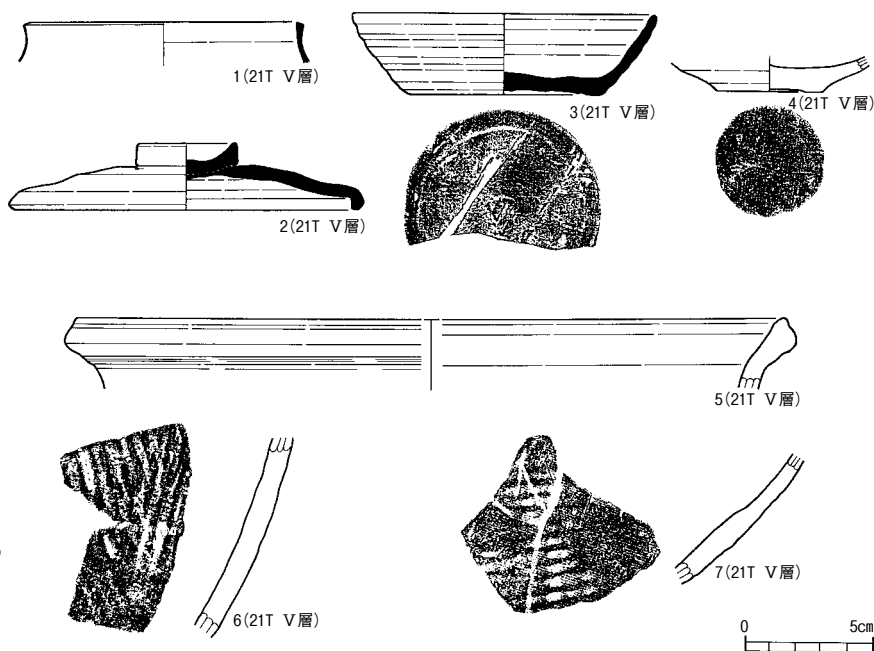


図5 遺物実測図 (1/3)

(7) 牡丹山諏訪神社古墳 第4次調査 (2016145)

所在地 新潟市東区牡丹山三丁目40番23 外

調査の原因 集合住宅建設 (民間事業)

調査期間 平成28年7月4日～13日 (8日間)

調査面積 203㎡ (調査対象面積577㎡)

調査担当 潮田憲幸

処 置 工事立会・慎重工事

調査に至る経緯 平成27年度からの継続事案である。平成27年度の調査に至る経緯については〔相田2017〕を参照されたい。集合住宅建設に伴い『法』第93条の届出が提出された (平成28年6月22日付)。計画は、対象地西側を建物、東側を駐輪場・駐車場とするもので、建物の基礎工事内容は、布基礎部分を幅50cm、深度47cmで掘削し、計画建物内に柱状改良を125か所 (直径60cm、深度2.5m) 行う計画である。

取扱いを決めるため、同年7月1日付新歴B第70号の3で報告をして確認調査を実施した。

位置と環境 牡丹山諏訪神社古墳は、信濃川と阿賀野川に挟まれた新砂丘Ⅱ-4列の北側に位置する (図1)。現在の海岸線からは約3km内陸に位置し、今回報告する調査地の標高は約0.3mをはかる。これまでの調査によって、本古墳は出土遺物から古墳時代中期前半の古墳であることが判明しており、現状で新潟県における北限の中期古墳として位置づけられる。なお、同じ砂丘列上の西側約700mには、古墳時代から中世の遺物や遺構が確認されている山木戸遺跡が存在する。

概要と層序 5か所のトレンチ (1～5 T) を設定した (図2・4)。このうち3 Tは1 Tで検出したSD5の広がりを確認する目的で設定した1 Tの拡張区である。結果、1・3・5 Tで遺構が確認された。なお、調査中に新潟大学橋本博文教授から現地を確認していただき、指導をえた。基本層序は、Ⅰ層：盛土・攪乱土、Ⅱ層：黒色砂、Ⅲ層：褐色～黄褐色砂 (Ⅱ層との漸移帯：Ⅲa層、より黄みが強い部分：Ⅲb層。砂丘基盤層) である。このうちⅡ層は遺物包含層の可能性がある。また、Ⅲa層上面が遺構確認面である。表層部は広範囲に攪乱を受けており、攪乱は一部Ⅲ層にまでおよぶ。Ⅱ層の遺存状態も悪い。

検出遺構 1・3 Tで土坑1基 (SK7)、溝4条 (SD4～6・10)、ピット4基 (SP1～3・8) が、5 Tで溝1条 (SD9) が確認された (図2・4・表1)。1 TのSD4は、牡丹山諏訪神社古墳発掘調査団実施の確認 (学術) 調査 (第2次調査・2015260、平成27年9月12日～23日)〔橋本・平形ほか2016〕及び新潟市教委実施の確認調査 (第3次調査・2015157、平成27年9月16日～18日)〔相田2017〕で検出された周濠推定ラインと矛盾せず、古墳の周濠と推

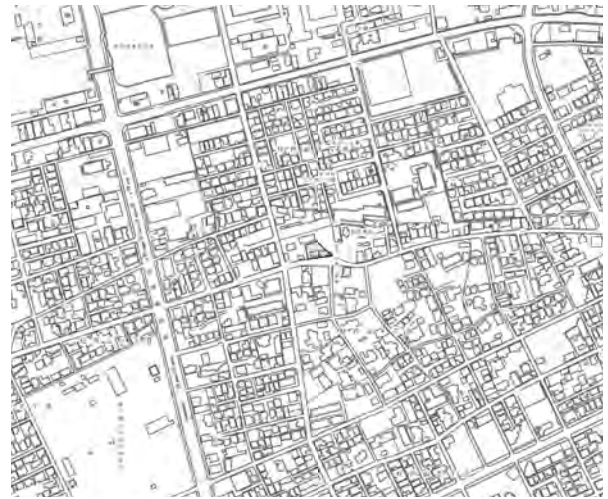


図1 調査位置図 (1/10,000)

測される (図2)。2層から円筒埴輪3点が出土したが細片のため図化しえなかった。SD5は1 Tと3 Tにまたがり存在し、西端はSD10に切られる。1層及び3層で円筒埴輪4点が、5層から砥石が1点出土している。調査区内での最大幅3.5m、深さ0.55mを測る。古墳時代の遺構の可能性があるが詳細は不明である。

出土遺物 円筒埴輪7点と砥石1点のほか、近世陶磁器2点、泥メンコ1点が出土した。

1・2は円筒埴輪^{注)}で、いずれもSD5の3層出土。1は突帯部で内面は剥離している。2は胴部破片で外面にタテハケ、内面に粘土紐の積み上げ痕及び指頭圧痕が認められる。3は泥岩製の砥石で、SD5の5層出土。表裏・両側面と下端の破損面が平滑に磨耗し、上端面に粗い線条痕が残る。4・5は1 TのSD4を切る攪乱からの出土。4は唐津の小壺で外面の高台を除く部分に釉薬を施す。18世紀。5は肥前の青絵染付皿で、17世紀半ばから後半。6は泥メンコで5 Tの攪乱出土。直径1.7cmで、鳥の意匠をもつ。

まとめ 1 Tで古墳の周濠と考えられる溝を検出し、古墳の規模などを復元するためのデータをえた。取扱いは、遺構・遺物が確認された計画地東側は駐輪場・駐車場部分にあたり、工事の影響が表層部に限定されることから慎重工事とし、建物部分の計画地西側については工事立会とした。なお、報告にあたり陶磁器は渡邊ますみ氏 (新潟市小針青山公民館) よりご教示いただいた。

注 出土した円筒埴輪2点の含有物が近似する点について、前山精明は以下のように指摘する。粒子の大きさは最大2mm台。磨耗度の高い粗大な岩石粒子が大多数を占め、磨耗及び破碎石英・破碎岩石・角閃石・ガラス状粒子がこれに付随する。1は少量の雲母も含む。粒子組成と粒度の両面で新潟丘陵北部の河川砂や周辺遺跡の土器混和材と類似している。

(相田泰臣)

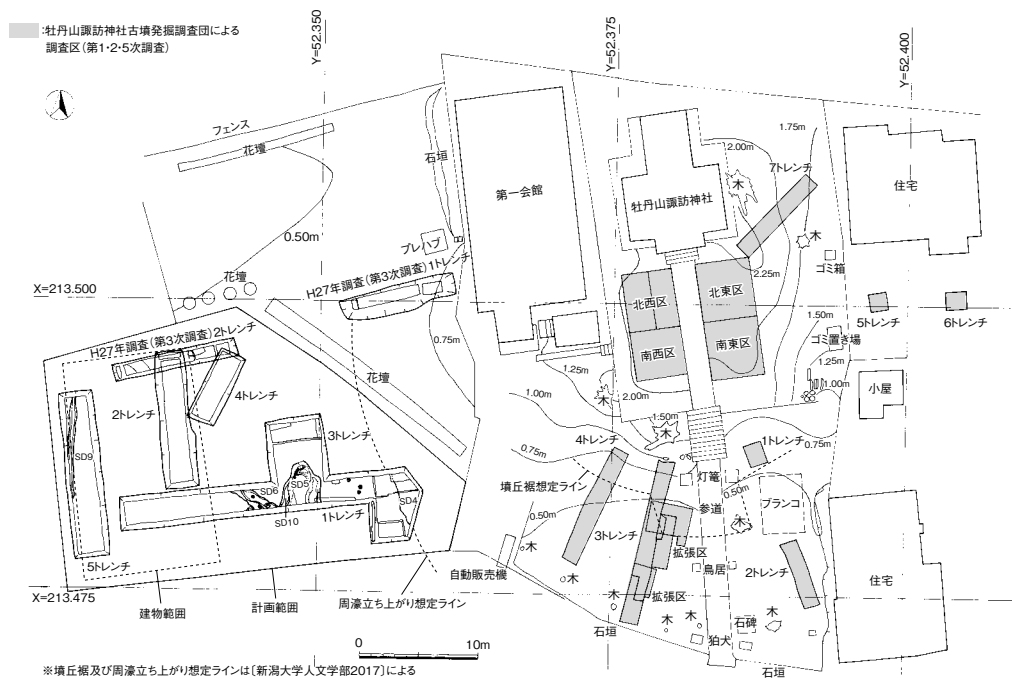


図2 トレンチ位置図 (S=1/500)

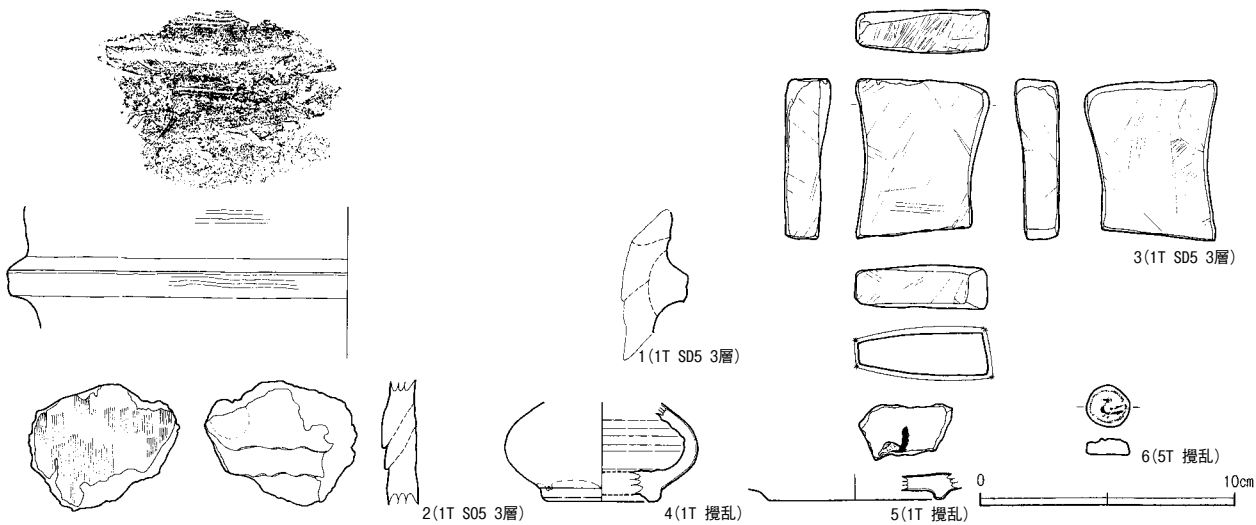


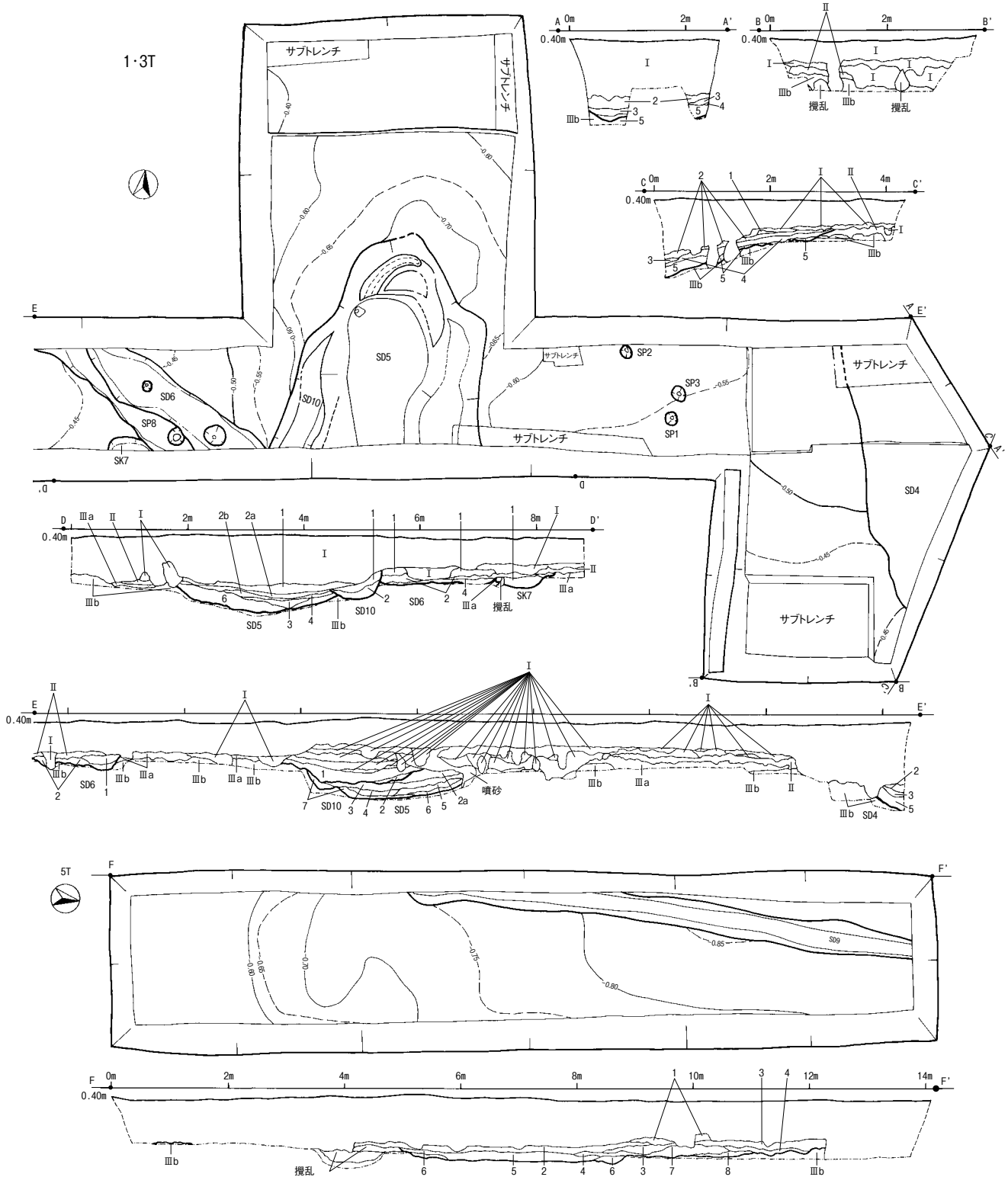
図3 遺物実測図 (1/3)



第4次調査 1TSD4断面(西から)

表1 第4次調査検出遺構一覧

遺構名	トレンチ	前後関係	調査区内最終掘削状況	出土遺物
SP 1	1T		半截	
SP 2	1T		半截	
SP 3	1T		半截	
SD 4	1T		サブトレンチ	円筒埴輪 3点 (2層)
SD 5	1・3T	SD10に切られる	完掘	円筒埴輪 4点 (1・3層)、紙石 1点 (5層)
SD 6	1T	SK 7を切る SD10に切られる	完掘	
SK 7	1T	SD 6に切られる	完掘	
SP 8	1T		半截	
SD 9	5T		完掘	
SD 10	1T	SD 5・SD 6を切る	完掘	



基本層序

I層：盛土及び攪乱。砂丘砂である。粘性× しまり× 近世以降の遺物及び近・現代の産業廃棄物を含む。
 II層：黒色中粒砂(クロスナ) 粘性× しまり△ 腐食質のシルト層。本来の堆積土の一部と思われるが、削平・攪乱が激しく、部分的に残存するのみ。遺物包含層の可能性があるが、今回の調査では遺物は出土していない。
 III層：褐色～黄褐色中粒砂 粘性× しまり× II層との漸移帯をIII a層、より黄み強い部分をIII b層とした。遺構はIII a層上面で確認される。砂丘基盤層であり本層より下は同様な土壌が続く。

遺構覆土

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>SD4 1層：灰白色中粒砂 粘性△ しまり△ 炭化物を含む。攪乱を受ける。
 2層：黒灰色中粒砂 粘性× しまり× III層を覆状に含む。炭化物を含む。円筒埋出土。
 3層：黒色腐食シルト・粘土互層 粘性○ しまり△ 薄い粘質シルト層と粘土層からなる。
 4層：黒灰色中粒砂 粘性△ しまり△ 炭化物を含む。未分解の植物遺体を含むことがある。
 5層：暗灰色中粒砂 粘性× しまり△ 4層質土を覆状に含む。炭化物・水酸化鉄を覆状に含む。
 SD5 1層：黒灰色粘質シルト 粘性× しまり× 炭化物を含む。SD4の2層と対応。円筒埋出土層。細砂を主体とする下部堆積層を2 b層とした。
 2層：黒色腐食中粒砂・粘土互層 粘性△ しまり△ 円筒埋出土。
 3層：灰褐色中粒砂 粘性× しまり×
 4層：黒色腐食細砂 粘性△ しまり△ 成石出土層。
 5層：暗灰色中粒砂 粘性× しまり× 黒色腐食砂及び炭化物を帯状に含む。
 6層：暗灰色中粒砂 粘性× しまり× 黒色腐食砂を覆状に含む。
 7層：灰褐色中粒砂 粘性× しまり× 黒色腐食砂を含む。
 SD6 1層：黒色腐食中粒砂 粘性× しまり× 炭化物を含む。
 2層：黒灰色中粒砂 粘性× しまり×
 3層：黒灰色中粒砂 粘性× しまり× III b層を覆状に含む</p> | <p>SD9 1層：暗灰色中粒砂 粘性× しまり×
 2層：灰色中粒砂 粘性× しまり×
 3層：黒色中粒砂 粘性× しまり×
 4層：黒灰色中粒砂 粘性× しまり× III b層を覆状に含む。
 5層：灰褐色中粒砂 粘性× しまり×
 6層：褐色中粒砂 粘性× しまり×
 7層：灰褐色中粒砂 粘性× しまり×
 8層：褐色中粒砂 粘性× しまり× III b層を覆状に含む。
 SD10 1層：黒色中粒砂 粘性× しまり× III b層を覆状に含む。
 2層：暗灰色中粒砂 粘性× しまり× 炭化粒を含む。
 SK7 1層：黒色細砂 粘性× しまり× III b層を覆状に含む。炭化粒を含む。SD6に切られる。
 SP1 1層：黒色中粒砂 粘性× しまり△
 2層：黒灰色中粒砂 粘性× しまり× 炭化粒を含む。
 SP2 1層：黒色中粒砂 粘性× しまり△
 2層：黒灰色中粒砂 粘性× しまり×
 SP3 1層：暗灰色中粒砂 粘性× しまり×
 SP8 1層：黒灰色中粒砂 粘性× しまり△</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

図4 1・3・5 T平・断面図 (1/100)

(8) 新田郷南遺跡 第1次調査 (2016165)

所在地 新潟市江南区横越中央二丁目4880番 外

調査の原因 市有地売却

調査期間 平成28年8月23・24日 (2日間)

調査面積 59㎡ (調査対象面積3,204㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 継続協議後、慎重工事

調査に至る経緯 市財務部財産活用課より歴史文化課に横越中央保育園跡地を売却予定である旨の連絡があった。売却に当たっては埋蔵文化財の有無を確認するため試掘調査の実施などについて協議が必要と回答したところ、平成28年8月2日付新歴B122号で調査依頼が提出され、同年8月23日付新歴B第122号の2で着手報告を提出し、試掘調査(2016165)を実施した。

位置と環境 新田郷南遺跡は阿賀野川と新砂丘Iと小阿賀野川に囲まれた沖積地内の埋没した自然堤防上に立地する(図1)。現地標高は3.9~4.7m前後で、現況は宅地として開発が行われている。

概要と層序 8か所のトレンチを設定した(図2)。基本層序はI a・b層:表土、II a~f層:粘土~シルト質粘土、III a・b層:粘質シルト~砂質シルト、IV a~d層:粘質シルト~粘質砂である(図3)。II b層及びII f層が遺物包含層で、II b層からは平安時代、II f層からは古墳時代の土器が主に出土した。層位的に出土していることから、地点により遺物包含層が2層存在することが確認された。III a層は遺構確認面である。

検出遺構 1Tで溝(SD)1条、2Tでピット(SP)3基、6Tでピット1基を検出した。いずれもIII a層で検出している。6TではIII a層がII f層の直下で確認されていることから、古墳時代の遺構の可能性はある。

出土遺物 II b層及びII f層より190点出土した。古墳時代の土師器73点、平安時代の須恵器17点、土師器99点、軽石製石製品1点である(表1)。190点のうち、14点を図化した(図4)。

1~4は古墳時代の土師器である。1は古墳時代中期の高杯脚部である。杯部と脚部の接合部分が出土した。杯部内面にはミガキが施されている。2は古墳時代後期の高杯杯部破片である。内面が黒色処理された内黒の土器で、口縁部と体部との境に段を持つ。内外面にはミガキが施される。3・4は古墳時代の甕の口縁~頸部資料である。3は口縁部資料で、口縁は外反してのびる。4は頸部破片資料である。頸部はくの字に屈曲し、体部内面には横方向にハケメが施される。

5~13は平安時代の土器で、時期は9世紀後半と考える。5~7は須恵器無台杯である。器壁は薄く、底部へ



図1 調査位置図 (1/10,000)

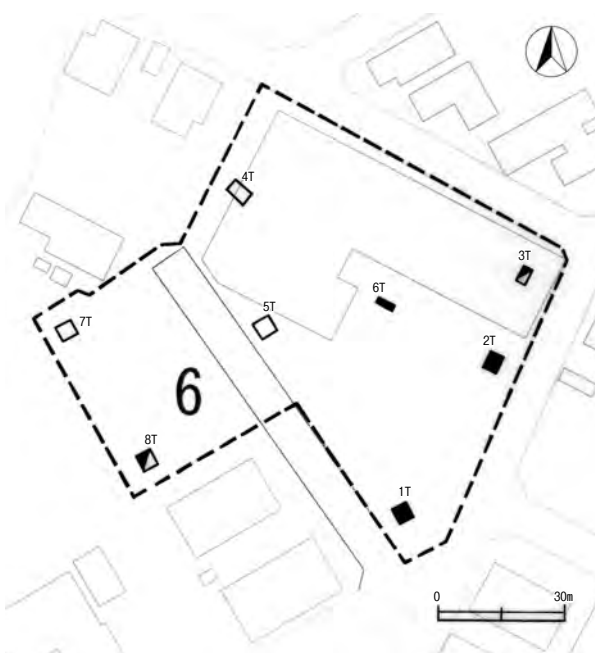


図2 トレンチ位置図 (1/1,200)

ラ切りは左回転である。8は須恵器杯蓋の口縁部破片で、端部は丸みを帯びる。9は須恵器大甕の体部破片で、外面は平行タタキメ、内面には同心円当て具痕が見られる。須恵器はいずれも佐渡小泊窯跡群産であろう。10・11は土師器無台碗である。いずれも底部資料で、薄手の作りである。底部切り離しは糸切りであった。12は土師器小甕の底部資料である。外面の底部近くにロクロケズリを施す。底径が5.0cmと小さく、通常の煮炊具とは違う用途が想定される。13は土師器長甕の体部破片で、外面は平行タタキメ、内面には同心円当て具痕が見られる。14は軽石製石製品である。II b層から出土していることから、平安時代の遺物と推定される。

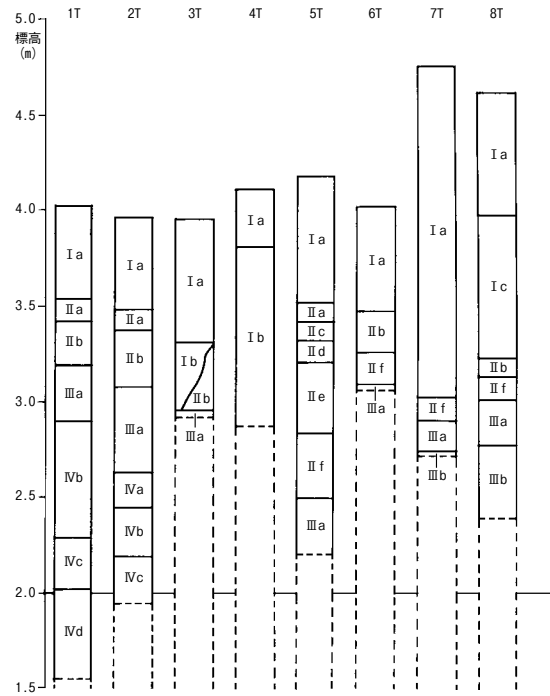
まとめ 調査の結果を受け、「新田郷南遺跡」として新たに周知化された。新田郷南遺跡が所在する阿賀野川左岸周辺域では下郷南遺跡(相澤2015)や上郷北遺跡(遠

藤2017) など、近年、新たな遺跡の発見が続いている。本節(Ⅱ2(9))に記載されている下郷西遺跡も本遺跡から約1km西の同じ自然堤防上で発見された新遺跡である。いずれも古代から中世の遺跡であることから、当該期の遺跡が周辺に広く分布している可能性が考えられる。また、今回の調査では古墳時代中期から後期の土器も出土した。周辺の古墳時代の集落分布の中心は砂丘上と推察されるが、中期以降は低地の自然堤防上にも拡大する傾向がうかがえる。新田郷南遺跡はその中の一つと考えられ、本遺跡が立地する自然堤防上で今後、古墳時代の遺跡が新たに発見される可能性もある。

取扱いは継続協議とした。その後、調査地は平成28年10月に民間企業へ売却され、宅地造成の計画が示された。遺跡への影響は少ないと判断し、慎重工事としたが、古墳時代と平安時代の遺物包含層及び遺構確認面が良好に残存していることが確認されているため、住宅建築の際には逐次協議が必要である。(澤野慶子)

表1 出土遺物集計表

出土位置・層位	土師器 (古墳時代)	土師器 (古代)	須恵器 (古代)	石製品 (古代)
1 T II b		2		
2 T II b	6	90	11	
3 T II b		1		
6 T II b	40	5	6	1
6 T II f	27			
8 T II b		1		



基本層序

- I層: 表土 (碎石等混じる)
a: 褐色土 b: 暗灰色粘土
- II層: 粘土~シルト質粘土 (遺物包含層)
a: 暗灰色○ b: オリーブ黒色△ c: 緑灰色○ d: 灰色○ e: 褐色○ f: 黒褐色○
- III層: 粘質シルト~砂質シルト
a: 暗灰色と青灰色斑に混じる○ (遺構確認面) b: 青灰色○
- IV層: 粘質シルト~粘質砂
a: 灰色粘質シルト△ b: 灰白色粘土混じる× c: 灰白色細砂混粘質シルト△ d: 青灰色粘質砂△

図3 土層柱状図(1/40)

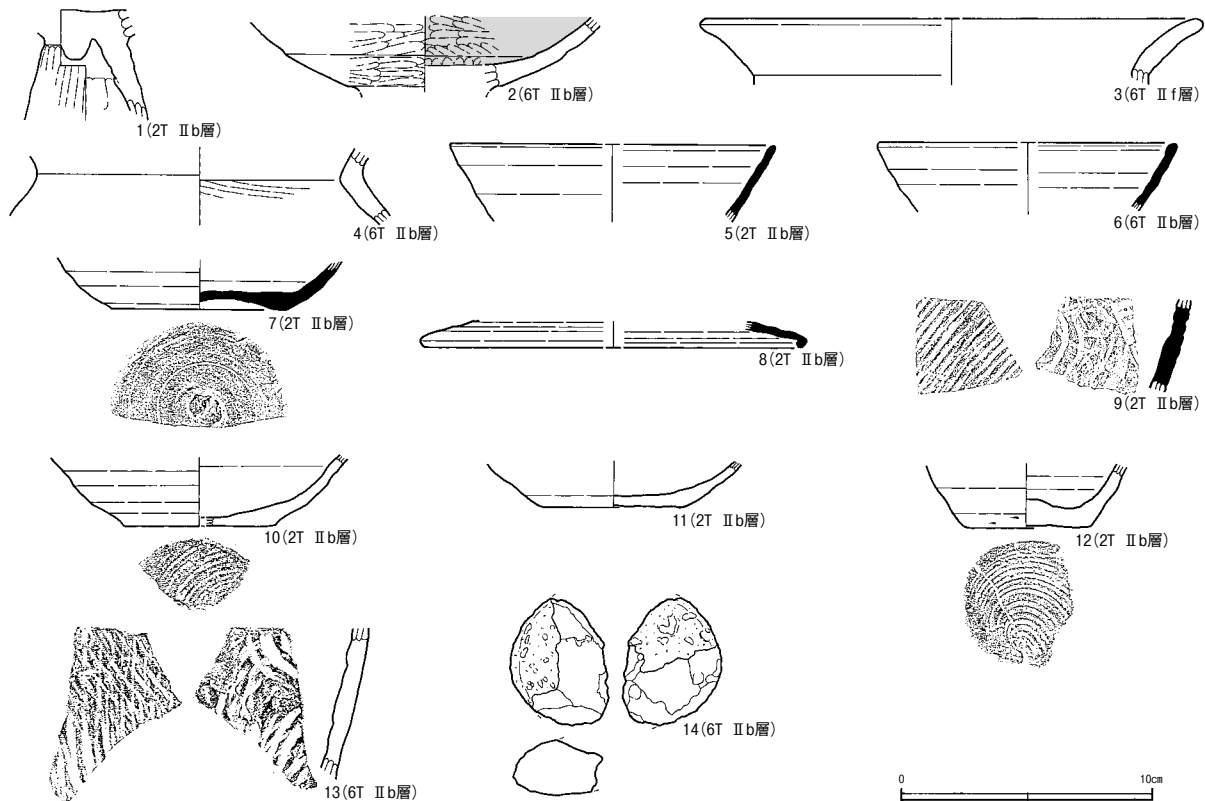


図4 遺物実測図(1/3)

(9) 下郷西遺跡 第1次調査 (2016178)

所在地 新潟市江南区横越川根町四丁目5282番1外

調査の原因 集合住宅建設 (民間事業)

調査期間 平成28年9月12日 (1日間)

調査面積 54㎡ (調査対象面積1,179㎡)

調査担当 潮田憲幸

処置 継続協議後、工事立会

調査に至る経緯 集合住宅建設に伴い、平成28年7月に江南区建設課より歴史文化課に当該地の遺跡の有無について紹介があり、周知の埋蔵文化財包蔵地には該当しないが、その有無を確認するため試掘調査の実施について協議が必要と回答した。これを受けて、平成28年9月1日付新歴B99号の3で調査依頼が提出され、同年9月9日付で着手報告を提出し (新歴B第99号の4)、試掘調査 (第1次・2016178) を実施した。

位置と環境 調査地は阿賀野川の旧流路もしくは支流と推定される河川跡の右岸に立地する (図1)。現地標高は3m前後で、現在は畑地となっている。周辺には上郷C遺跡・川根谷内遺跡・笨木遺跡などの中世の遺跡が分布しており、これらの遺跡は同河川の自然堤防上に位置していると考えられ、本遺跡も一連の遺跡として捉えられる可能性がある。

概要と層序 5か所のトレンチを設定した (図2)。基本層序はI層：盛土、II層：黒灰色粘質シルト (旧表土)、III層：黄灰色シルト (遺構確認面)、IV層：青灰色シルト、V層：灰色粘質シルトである (図3)。II層中から珠洲焼が出土していることから、遺物包含層相当層とした。遺物量は希薄である。III層上面が遺構確認面で、IV層以下は人為性の認められない基盤層である。3Tと5Tで攪乱が著しいが、それ以外ではII層以下の残存状態は比較的良好であった。

検出遺構 1Tでピット5基 (SP1~5)、2Tで溝1条 (SD6) を検出した (図4)。いずれもIII層上面で検出されている。これらの遺構のうちピット2基 (SP1・2) と溝 (SD6) を部分的に掘削したところ、II層相当の覆土を確認した。なお、掘削した範囲では遺構内から遺物は出土しなかった。

出土遺物 1T II層より1点のみ出土した (図5)。珠洲焼の甕の体部破片で、外面に綾杉文状のタタキメが見られる。破片資料であるため詳細は不明である。

まとめ 中世の遺物包含層及びその層を覆土とする遺構が確認されたため、調査地を新遺跡とし、「下郷西遺跡」として周知化した。取扱いについては、継続協議後に遺跡に与える影響が軽微であると考えられるため、工事立会とした。 (澤野慶子)



図1 調査位置図 (1/10,000)

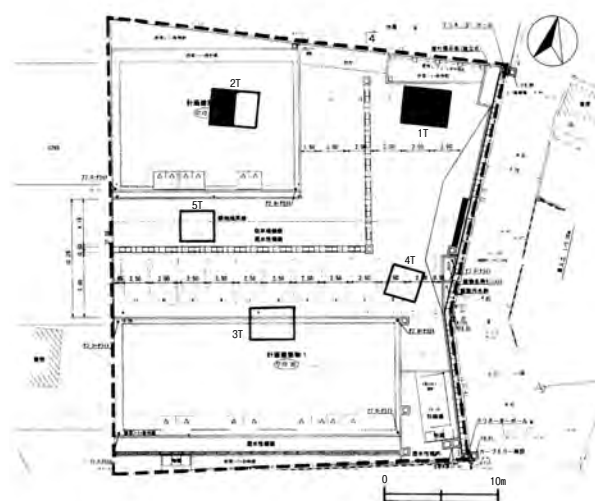


図2 トレンチ位置図 (1/600)

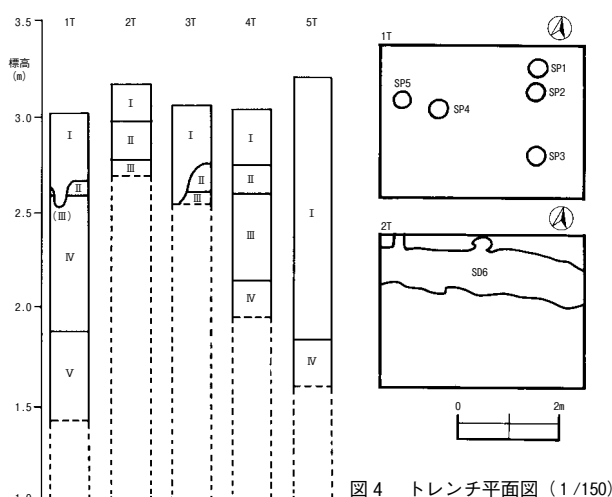


図4 トレンチ平面図 (1/150)

基本層序
 I層：盛土
 II層：黒灰色粘質シルト 粘性○ しまり○
 腐植質のシルト層 遺物包含層 遺物量は希薄
 下部層部見れる
 III層：黄灰色シルト 粘性△ しまり△ 遺構確認面
 植生視感により腐植土が混入する
 IV層：青灰色シルト 粘性△ しまり△ III層と類似
 III層より植生視感が少なく、還元している
 V層：灰色粘質シルト 粘性○ しまり△



図5 遺物実測図 (1/3)

図3 土層柱状図 (1/40)

(10) 森田遺跡 第7次調査 (2016204)

所在地 新潟市秋葉区朝日字森田190番5 外
 調査の原因 集合住宅建設 (民間事業)
 調査期間 平成28年11月2日 (1日間)
 調査面積 21㎡ (調査対象面積593㎡)
 調査担当 諫山えりか
 処置 工事立会・慎重工事

調査に至る経緯 集合住宅建設が計画され、土地所有者より事前調査の依頼が提出された (平成28年10月20日付)。そこで、同年11月1日付で着手報告を提出し (新歴B第180号の2)、確認調査 (第7次・2016204) を実施した (図1)。その後、工事内容が固まっていなかったため遅れていた『法』第93条の届出が提出された (平成28年11月28日付)。基礎工事内容は、布基礎部分を幅15cm、深度50cmで掘削し、計画建物内に柱状改良 (ピュアパイル工法) を86か所 (直径20cm、深さ6.0~7.0m) 行う計画である。

位置と環境 森田遺跡は新津丘陵北西側の麓の旧金津川などにより形成された扇状地に立地する。調査地は遺跡範囲の南部に位置する (図1)。現地標高は9.5m前後である。現況は宅地となっている。これまでの調査で、弥生・古墳時代及び古代・中世の土器などが確認されている。

周辺は舟戸遺跡や塩辛遺跡などの同時代の遺跡が同じ扇状地上に集中しており、近隣の新津丘陵上にある古津八幡山遺跡や古津八幡山古墳との関係が注目されている。

概要と層序 トレンチを3か所設定した (図2)。基本層序は、I層：表土、II a層：暗灰褐色砂及びシルト混粘土 (遺物包含層)、II b層：暗灰色砂及びシルト混粘土 (遺物包含層)、III層：淡灰褐色粘土、IV層：青灰色粘質砂 (遺構確認面)、V層：淡褐色粗粒砂である (図3)。

検出遺構 2T IV層上面でピット (SP) 2基を検出した。

出土遺物 II a層より破片数で45点出土した。内訳は土師器36点、須恵器8点、青磁1点である。うち3点を図化した (図4)。1は土師器無台碗の底部破片資料である。2は須恵器無台杯の口縁部破片資料である。3は青磁碗の口縁部破片資料である。比較的色調が薄い。1・2は平安時代、3は中世と考えられる。

まとめ 古代から中世の遺物包含層及び遺構確認面が比較的良好に残存している。平成27年度に実施した第6次調査 (2015124) と隣接しており、第6次調査でも古代から中世の遺物包含層及び遺構確認面が確認されている [金田2017]。取扱いは、表土が厚く布基礎工事による遺跡への影響が狭小なため工事立会とし、柱状改良による掘削は小規模にとどまることから慎重工事とした。

(金田拓也)



図1 調査位置図 (1/10,000)

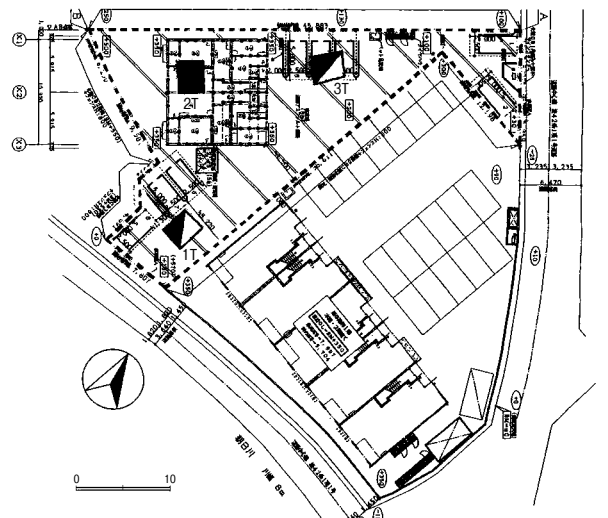


図2 トレンチ位置図 (1/800)

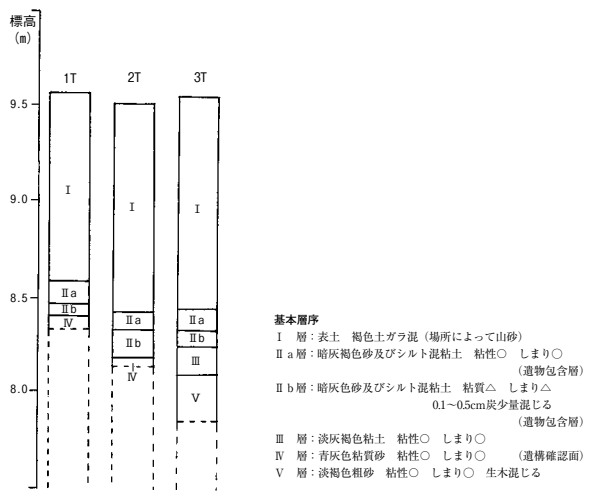


図3 土層柱状図 (1/40)

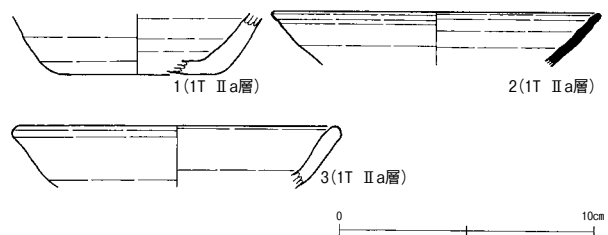


図4 遺物実測図 (1/3)

(11) 近世新潟町跡第32・38次調査、第27次調査に伴う工事立会 (2016116・2016252・2016192)

A 近世新潟町跡の周知化と取扱い

新潟町は日本海有数の湊町である。17世紀半ばに現在の信濃川左岸の河口付近へ移転し、その後拡大しながら現在に至るが、その移転当初の町を「近世新潟町跡」としている。

現在、近世新潟町跡の周知化は、試掘調査によって江戸時代の遺構及び遺物が確認された地点について行っている。平成28年度末で周知化された地点は19か所である(図1)。なお、年報1号において近世新潟町の調査履歴を掲載したが、掲載時から周知化地点が10地点増えたため、今回平成28年度末時点の調査履歴を記載する(表1)。

B 平成28年度の試掘・確認調査

平成28年度に実施された試掘・確認調査は、公共事業に伴うものが3件、民間事業に伴うものが5件である。公共工事は校舎解体や下水道工事に伴うもので、民間事業は再開発事業が多く既存施設の解体のタイミングで試掘調査になる事例が増えている。

今年度行った試掘調査のうち、江戸時代の遺物包含層が確認され周知化を行ったのは2件である。周知化された1件(第37次調査・2016214)については、翌平成29年度に工事立会が行われたことから、その成果と併せて次号に掲載する予定であるため、本稿には掲載しない。民間事業に伴う試掘調査2件、工事立会1件を報告する。

(今井さやか)

(a) 近世新潟町跡第32次調査 (2016116)

(図1～7・10・11)

所在地 新潟市中央区西堀前通二番町713番3 外

調査の原因 マンション及び立体駐車場建設

調査期間 平成28年5月10～12日(3日間)

調査面積 84㎡(調査対象面積964㎡)

調査担当 潮田憲幸

処置 取扱不要

調査に至る経緯 近世新潟町跡の範囲内で13階建てのマンション及び立体駐車場建設計画があり、歴史文化課に照会があった。埋蔵文化財の取扱いの有無を判断するため試掘調査を行った(第32次・2016116)。計画地は駐車場や一部建物があったが、調査前に除却され更地となっていた。調査の結果、近世の鑄造関連遺物や陶磁器類が出土した。

概要と層序 試掘調査では6か所のトレンチを設定した(図3)。現地標高は約0.5m、トレンチの掘削深度は湧水のために2.2m程であった。

基本層序は、I層：明黄褐色土層。盛土。攪乱層。層

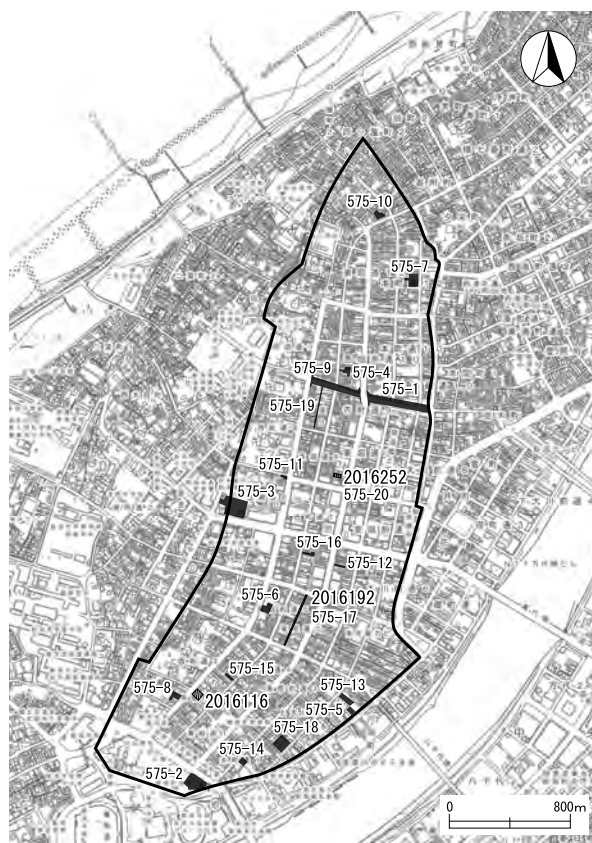


図1 近世新潟町周知化位置図・試掘確認位置図(1/25,000)



第38次調査 1T北壁土層堆積状況(南から)

厚50～100cm。II層：暗黒色細砂層。層厚20～40cm。炭化物含む。近世・近代遺物出土。粘性・しまり弱く、炭化物を含む。III層：青灰色シルト層。層厚20～80cm。粘性・しまりあり。近世遺物出土。IV層：青黒色中粒砂層。粘性・しまり弱く、近世遺物少量出土。V層：青灰色中粒砂層で、粘性・しまりが極めて弱く、礫・焼礫・鑄造関連遺物が主体で、陶磁器類は少ない。

I層の盛土がいつ行われたのかは判然としないが、駐車場として利用する前に入れられたものと推測される。II層上面は3T→2T→1T、4T→5T→6Tと北西方向に傾斜し、西側では標高約-0.4mを測る。III層上面も3T→2T→1Tと北西方向に緩やかに傾斜している。III b層で検出された板材はちょうど図6の③714・715間

表1 近世新潟町跡調査履歴(調査日順)

調査 回数	調査番号	調査地点	調査種別	着手日	終了日	調査担当者	検出遺構	出土遺物	調査主体	周知化No 575枝番
1	2004146	広小路堀地点	試掘調査	2004/7/16	2004/7/23	滝沢朗朗	杭・杭列	近世陶磁器類・漆器・木簡	県教委	1
	2005320	一番堀通地点	工事立会	2006/1/25	-	尾崎高宏	-	近世陶磁器	県教委	2
2	2006015	広小路堀地点	本調査	2006/6/1	2006/10/31	佐藤友子	柱根・礎石・礎板・杭 他	近世陶磁器・中国製磁器	県教委	1
3	2006147	西堀通6番町(旧長善寺)地点	試掘調査	2006/7/24	2006/8/1	相田泰臣	土坑・骨蔵器埋納遺構	近世陶磁器・木製品・石製品	市教委	3
4	2006216	古町通10番町1722-1他地点	試掘調査	2007/1/24	2007/1/25	相田泰臣	土坑・溝・杭	近世陶磁器・木製品・銭貨	市教委	4
5	2006198	上大川前通4番町37-2他地点	試掘調査	2007/2/20	-	今井さやか	-	近世陶磁器・石製品	市教委	5
	2007107	西堀通6番町(旧長善寺)地点	工事立会	2007/2/21	-	福田仁史	-	-	市教委	3
6	2007179	上大川前5番町73-3番地地点	試掘調査	2007/4/18	-	今井さやか	木製構造物	-	市教委	
7	2007244	西堀前通5番町751他地点	試掘調査	2007/11/1	2007/11/2	相田泰臣	溝	陶磁器類・貝類 1箱	市教委	6
8	2007232	学校町通1番町1	試掘調査	2008/3/8	-	今井さやか	-	-	市教委	
9	2008247	上大川前通12番町2733番地他地点	試掘調査	2008/11/11	2008/11/13	渡邊ますみ	溝	近世陶磁器・木製品・石製品	市教委	7
10	2008259	西堀通1番町766-1番地他地点	試掘調査	2009/1/20	-	今井さやか	-	近世陶磁器	市教委	8
	2008142	上大川前通12番町2733番地他地点	工事立会	2009/1/27	2009/3/13	龍田優子	道具蔵・主屋の建物基礎	近世陶磁器・石製品・銭貨	市教委	7
11	2009241	西堀前通9番町1544番地他地点	試掘調査	2009/8/24	2009/8/28	田海義正	井戸・土坑他	近世陶磁器	県教委	9
12	2009242	上大川前通12番町2733番地他地点	試掘調査	2010/2/10	2010/2/20	立木宏明	新座敷基礎9基	近世陶磁器	県教委	7
	2010177	上大川前通12番町2733番地他地点	工事立会	2010/7/1	2010/10/6	今井さやか	-	近世陶磁器	市教委	7
	2011212	古町通7番町1009番地3地内	その他調査	2012/3/13	-	立木宏明	-	-	市教委	
	2012119	西堀前通9番町1544番地他地点	工事立会	2012/5/30	2012/3/31	諫山えりか	-	近世陶磁器・木製品	市教委	9
13	2012142	東堀通9番町他地点	確認調査	2012/7/2	2012/7/4	渡邊ますみ	屋敷境の溝・建物の基礎	近世陶磁器	市教委	9
	2012191	西堀前通5番町751番地他地点	工事立会	2012/10/11	2012/10/19	廣野耕造	-	近世陶磁器	市教委	6
14	2012201	本町通14番町3040-5番地他地点	試掘調査	2012/10/26	-	渡邊ますみ	板組	近世陶磁器	市教委	10
15	2012202	西堀通6番町891-2番地他地点	試掘調査	2012/11/1	-	渡邊ますみ	土坑・ビット・整地跡	近世陶磁器・木製品	市教委	11
16	2012255	西堀前通9番町1544番地他地点	工事立会	2012/11/9	2013/1/7	渡邊裕之	-	近世陶磁器	県教委	9
17	2012254	西堀前通9番町1544番地他地点	確認調査	2013/1/21	2013/1/23	渡邊裕之	土坑・桶状遺構 他	近世陶磁器・木製品・焼骨 他	県教委	10
18	2012243	西堀通6番町872-2番地他地点	試掘調査	2013/3/4	-	渡邊ますみ	-	-	市教委	
	2012256	西堀前通9番町1544番地他地点	工事立会	2013/3/5	2013/3/7	諫山えりか	-	近世陶磁器	市教委	9
	2012257	西堀前通9番町1544番地他地点	工事立会	2013/3/12	2013/4/16	諫山えりか	-	近世陶磁器	市教委	9
	2012258	西堀前通9番町1544番地他地点	工事立会	2013/3/18	2013/8/3	諫山えりか	-	近世陶磁器	市教委	9
	2012262	西堀前通9番町1544番地他地点	工事立会						市教委	9
	2012268	西堀通6番町891番2他地点	工事立会						市教委	11
	2013101	西堀前通9番町1544番地他地点	工事立会	2013/4/8	2013/4/22	諫山えりか	-	近世陶磁器	市教委	9
	2013103	西堀前通9番町1544番地他地点	工事立会	2013/5/7	2013/8/21	諫山えりか	-	近世陶磁器	市教委	9
	2013133	古町通10番町地点	工事立会	2013/5/13	2013/5/18	諫山えりか	-	近世陶磁器	市教委	9
19	2013110	学校町通1番町5番2他地点	試掘調査	2013/5/23		朝岡政康	桶・井戸・土坑	近世陶磁器・木製品	市教委	
	2013132	西堀通6番町地点	工事立会	2013/6/7	2013/6/24	諫山えりか	-	近世陶磁器	市教委	3
	2013275	東堀通10番町地内	工事立会	2013/6/24	2013/7/10	諫山えりか	-	近世陶磁器	市教委	9
	2013128	西堀前通9番町1544番地他地点	工事立会	2013/6/28		諫山えりか	-		市教委	9
	2013277	西堀前通9番町1544番地他地点	工事立会	2013/7/4	2013/11/9	諫山えりか	-	近世陶磁器	市教委	9
20	2013131	東堀前通6番町1061番地地点	試掘調査	2013/8/7	-	朝岡政康	-	近世陶磁器・木製品	市教委	12
	2013239	西堀通6番町地点	工事立会	2013/9/18	2013/9/20	諫山えりか	-	-	市教委	3
21	2013195	古町通5番町622地点	試掘調査	2013/12/25	2013/12/25	朝岡政康	-	近世陶磁器	市教委	
	2013247	上大川前通3地点	その他調査	2014/1/17	-	朝岡政康	-	近世陶磁器	市教委	
22	2014101	本町通1番町172-2地点	試掘調査	2014/4/14	2014/5/13	朝岡政康	土坑・溝・井戸	近世陶磁器・木製品・石製品	市教委	14
23	2014105	上大川前通4番町40-1地点	試掘調査	2014/4/18	2014/4/19	諫山えりか	性格不明遺構・溝・柱	近世陶磁器・木製品・金属製品	市教委	13
24	2014126	上大川前通4番町40-1地点	確認調査	2014/5/26	2014/5/29	諫山えりか	溝・焼土	近世陶磁器・木製品・金属製品	市教委	13
	2014231	本町通1番町172-2地点	工事立会	2014/6/9	-	朝岡政康	-	-	市教委	14
25	2014145	古町通3番町654番地地点	試掘調査	2014/7/29	2014/7/30	朝岡政康	-	近世陶磁器・漆器	市教委	15
	2015131	上大川前通4番町35番地	工事立会	2015/6/9	-	諫山えりか	-	近世陶磁器	市教委	
	2015139	古町通3番町654番地地点	工事立会	2015/6/11	-	諫山えりか	-	近世陶磁器	市教委	15
26	2015140	古町通6番町978番地他地点	試掘調査	2015/7/16	-	諫山えりか	土坑・性格不明遺構	近世陶磁器・木製品・石製品	市教委	16
27	2015116	古町通5番町地内	試掘調査	2015/7/27	2015/7/30	諫山えりか	土坑	近世陶磁器・木製品・石製品	市教委	17
	2015148	古町通6番町978番地他地点	工事立会	2015/8/24	2015/10/1	諫山えりか	-	近世陶磁器・木製品・石製品	市教委	16
28	2015183	本町通7番町1146番地	試掘調査	2015/12/22	2015/12/24	諫山えりか	性格不明遺構	近世陶磁器・木製品	市教委	
29	2015235	上大川前通9番町1287番地7他地点	試掘調査	2016/2/10	-	諫山えりか	建物・溝・性格不明遺構	近世陶磁器・木製品	市教委	
30	2015240	上大川前通2番町135番地1地点	試掘調査	2016/3/9	2016/3/11	諫山えりか	柱・溝	近世陶磁器・木製品・金属製品	市教委	18
31	2016128	上大川前通3番町26番地7地点	試掘調査	2016/4/25	2016/4/27	諫山えりか	ビット	近世陶磁器・木製品	市教委	
32	2016116	西堀前通2番町713-3番地他	試掘調査	2016/5/10	2016/5/13	瀬田憲幸	杭列・ビット	近世陶磁器・鋳造関連遺物	市教委	
33	2016130	上大川前通2番町135番地1地点	確認調査	2016/5/17	-	諫山えりか	-	近世陶磁器	市教委	18
34	2016124	古町通13番地内	試掘調査	2016/5/23	2016/5/25	瀬田憲幸	-	-	市教委	
35	2016121	本町通6番町1115番地	試掘調査	2016/5/24	2016/5/26	諫山えりか	-	近世陶磁器・金属製品	市教委	
	2016192	古町通5番町地内	工事立会	2016/9/1	2017/1/31	諫山えりか	-	近世陶磁器・漆器	市教委	17
	2016262	東堀前通6番町1061番地地点	工事立会	2016/9/8	-	諫山えりか	-	-	市教委	12
36	2016179	上大川前通5番町79番地4	試掘調査	2016/9/27	-	瀬田憲幸	-	-	市教委	
37	2016214	古町通9番町地内	試掘調査	2016/11/16	2016/11/17	諫山えりか	柱	近世陶磁器	市教委	19
38	2016252	東堀通8番町1427番地4他地点	試掘調査	2017/3/8	2017/3/9	諫山えりか	ビット	近世陶磁器・金属製品・漆器	市教委	20
	2016253	上大川前通2番町135番地1地点	工事立会	2017/3/13	2017/3/14	諫山えりか	-	-	市教委	18

註：年報3号(2016)より調査番号に加え調査年次を記載しているが、年次の数え漏れがあったため、上記の表を最新のものと訂正する。

の地境の位置に近い。当該地は寛文年間から藤田家の鋳物師屋敷として間口25間①や31間3尺②もあったので、それ以降に作られた地境ではないかと考えられる。出土遺物も幕末から明治頃なので矛盾はない。粘性・しまりがある安定した土層であることから、鋳物師屋敷廃絶後の整地層であろう。V層は礫・焼礫・鋳造関連遺物が主体で、陶磁器類が少ないことから見て鋳物師屋敷操業時の堆積層と考えられる。17世紀後半から18世紀前半にかけての陶磁器に19世紀代のものが混じる。

出土遺物 鋳造関係遺物・陶磁器の主要なものを図化した(図10・11)。Ⅲ層から幕末・明治期の陶磁器、V層以下と5Tの溝状遺構とされる10層より下層から17世紀末から18世紀前半の陶磁器と鋳造関連遺物が多量に出土した(表2～4)。炉壁や鋳型に鉄錆が付着するものが主体で緑青が付着するものが少ないことから、製品は鉄製品が主体で銅製品は少なかったのではないかと推測される。遺物は、三叉状土製品(1～4)・鋳型(5～11)・羽口(12～17)・炉壁(18～22)・鉄置換木炭(23)・磁器(24・25)である。三叉状土製品は10点出土したが2TV層で5点と多い。小形のもの(1)から大形のもの(4)まで様々な大きさがある。鋳型は鍋形の外型が主体。内型は良くわからない。10・11は鍋の把手型である。羽口は使用状況を復元し、上下左右を判断して図示した。内径は10cm～15cm程であるが、17は断面隅丸長方形で左側基部が大きく右側に窄まる。羽口と考えたが不明。炉壁は5TV層から13点と多く出土している。24は紅皿。25の刷毛目碗は5T10層出土。17世紀末から18世紀前半の所産である。

まとめ 江戸時代、新潟町には近江国栗太郡辻村から来た神明町藤田家と片原小揚町相場家の2軒の鋳物師がいて、鍋・釜を作り、信濃川などの河川交通を使って製品を流通させていた。原料である鉄は海運で出雲や石見から、鋳型や炉の材料となる砂や粘土も新潟町で採取されたものが用いられた〔武田・南1995、山田1988〕。

開発範囲と鋳物師屋敷の位置関係を確認するために、文政6(1823)年から現在の公園まで順を追って示した(図6)。明治40年代の更正図では分筆され、さらに現在は合筆されてわかりにくい。図④の714番地と715番地にまたがる場所であることがわかる。まさに、文政10(1827)年以前は藤田(銅屋)六郎右衛門家、以後は市島家の鋳物師屋敷図の「金屋」があった場所である。ここで鍋や釜が作られていたと推測される。

藤田家の子孫である藤田作二の研究によれば〔藤田1970・1972・1973・1974〕、藤田家は当初古新潟町にあったが、寛文年間の末頃、神明町に長岡藩牧野家から890坪

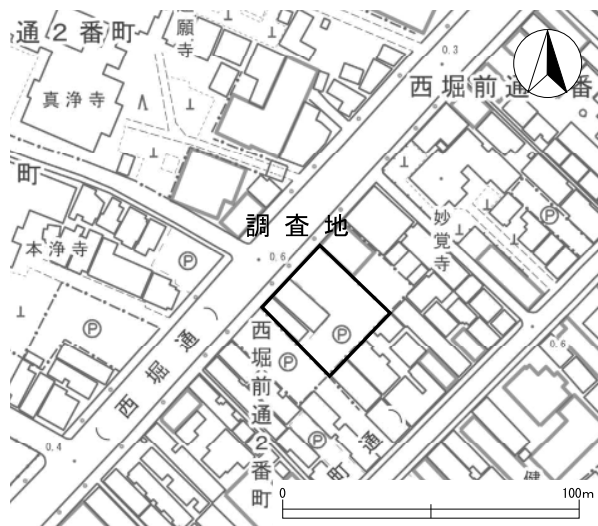


図2 第32次調査位置図(1/2,500)

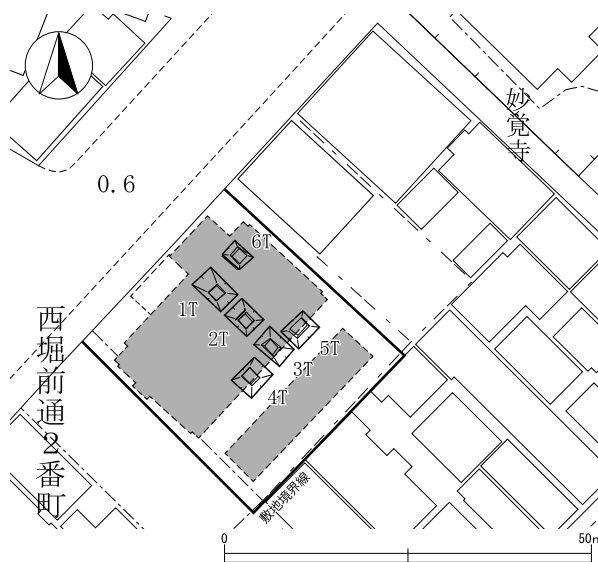


図3 第32次調査位置図(1/1,000)

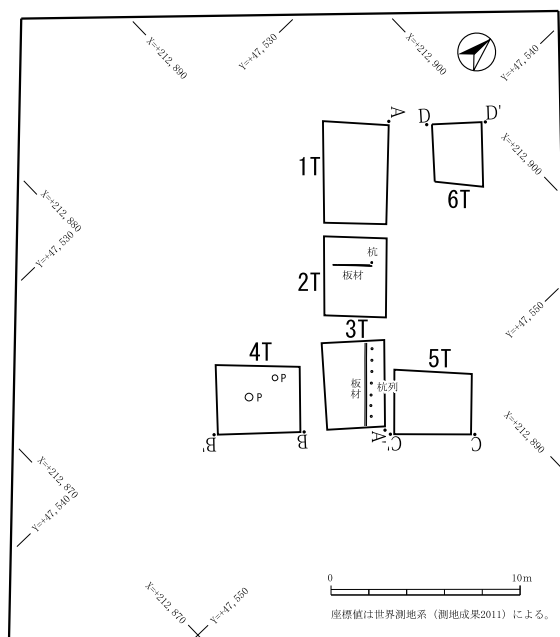
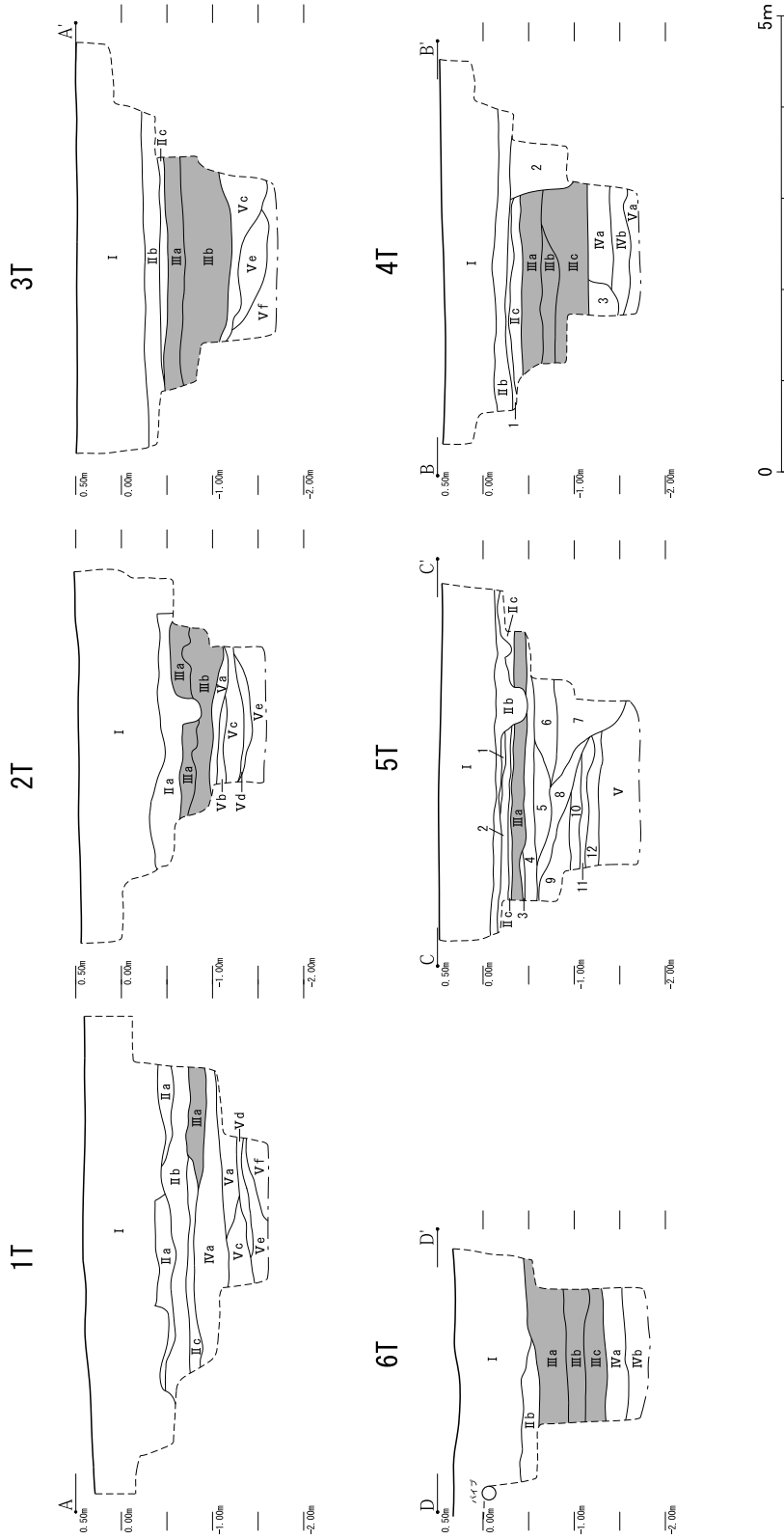


図4 第32次調査Ⅲ層遺構配置図(1/400)



基本層序

- I 層 明緑褐色土層、礫土、撈乱層、層厚50～100cm。
- II 層 青灰色細砂層、層厚20～40cm、炭化物を含む。
- III 層 近世・近代遺物出土、粘性・しまり弱い、炭化物を含む、色調で3層に分層。
- II 層上面は3T→2T→1T、4T→5T→6Tと北西方向に傾斜し、西側では標高約0.4m。
- II a 層 青灰色細砂層
- II b 層 暗灰色シルト層
- II c 層 暗灰色細砂層
- III 層 青灰色シルト層、層厚20～80cm、粘性・しまりあり、近世遺物出土。色調で3層に分層。
- III 層上面は3T→2T→1Tと北西方向に傾斜し、西側では標高約0.4m。
- III a 層 暗灰色粘質シルト層
- III b 層 暗灰色粘質シルト層
- III c 層 暗灰色シルト層

遺構覆土・部分的に確認できる層序

- IV 層 青黒色中粒砂層、粘性・しまり弱い、近世遺物少量出土。色調で2層に分層。
- IV a 層 暗青灰色中粒砂層
- IV b 層 暗青灰色中粒砂層
- V 層 青灰色中粒砂層、粘性・しまり弱い、炭化物の多量で分層。
- 機・埴輪・埴輪・埴輪・埴輪が主体で、陶器類は少ない。埴輪類は少量で分層。
- 土質・埴輪状況ともに不安定で分層は著しい。埴輪類は少量で分層。
- V a 層 暗青灰色中粒砂層、粘性・しまり弱い、炭化物の多量で分層。
- V b 層 暗青灰色中粒砂層、粘性・しまり弱い、炭化物の多量で分層。
- V c 層 暗青灰色中粒砂層、粘性・しまり弱い、炭化物の多量で分層。
- V d 層 暗青灰色中粒砂層、粘性・しまり弱い、炭化物の多量で分層。
- V e 層 暗青灰色中粒砂層、粘性・しまり弱い、炭化物の多量で分層。
- V f 層 暗青灰色中粒砂層、粘性・しまり弱い、炭化物の多量で分層。

図 5 第32次調査土層断面図 (1/80)

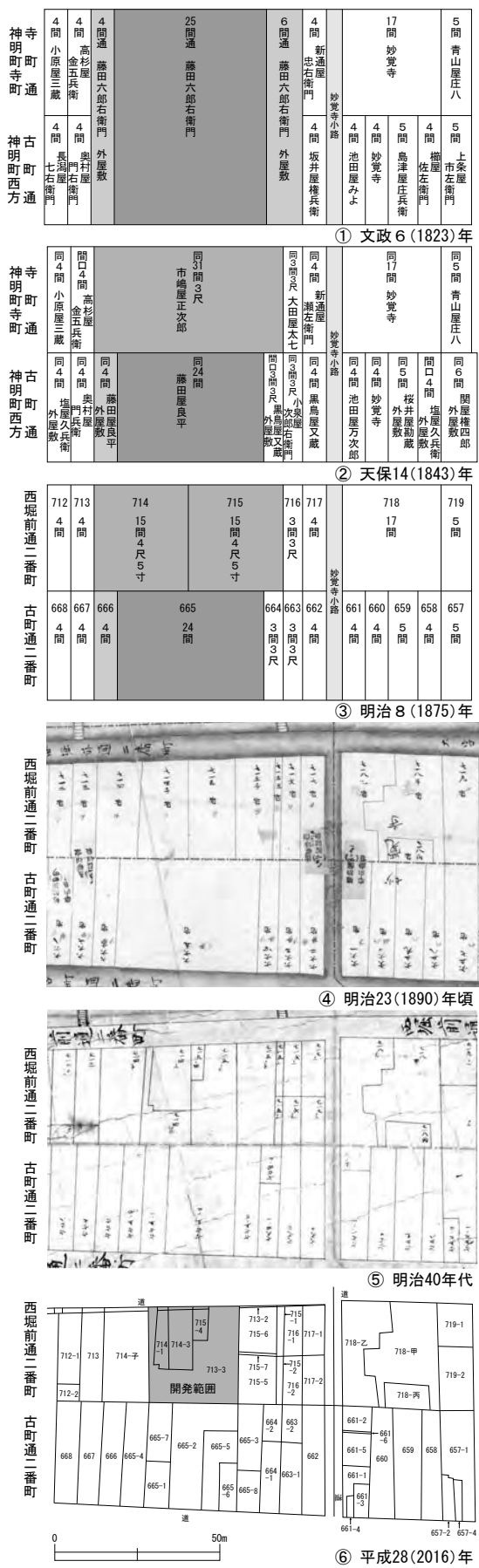


図6 鋳物師屋敷の変遷図(1/2,000)

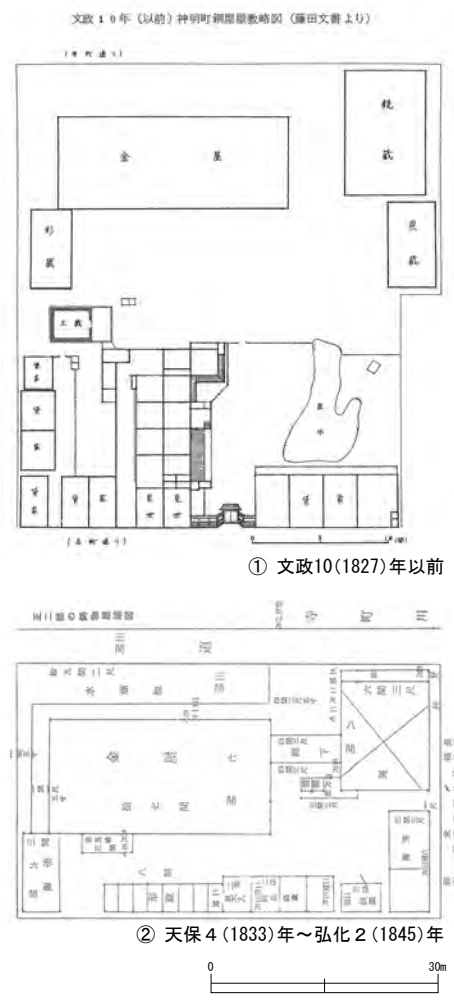


図7 鋳物師屋敷略図(1/1,000)

注 図6①・②・③は下記資料より作成した略図である。間口(小間)を基準にし、奥行きは17間3尺で統一した。奥行きは③以外は不明であるが町割りの大きな変化はないと考え③と同じにした。③記載の奥行は不同である。③では714は「小間拾五間四尺五寸、奥行 南拾六間五尺八寸 北拾七間四尺」と南と北で奥行きが異なるが、煩雑になるので上記に併せた。

- ・図① 文政6(1823)年『新潟神明町・上巻ノ町御地子石高間数家並町』(佐藤家文書・新潟市歴史文化課所蔵)
- ・図② 『天保14年新潟町地子帳』(『新潟市史 資料編2』1990)
- ・図③ 『明治8(1875)年新潟神明町・上巻ノ町御地子石高間数家並町』(新潟市歴史文化課所蔵)
- ・図④ 『明治23(1890)年頃土地更正図』(新潟市歴史文化課所蔵)
- ・図⑤ 『明治40年代土地更正図』(新潟市歴史文化課所蔵)

図7①②は下記文献から引用転載した。

- ・図①文政10(1827)年以前神明町銅屋敷略図(藤田作二「新潟町在住一鋳物師業者のあゆみ(一) <銅屋六郎右衛門家略歴>」『郷土新潟』第14号 1972)
- ・図②天保4(1833)年~弘化2(1845)年正二郎の鋳物屋鋪図(新潟県農地部農地開拓課『市島家土地集積の展開 新潟県大地主所蔵資料第2集』1960)

②は、新潟県立文書館に寄託されている市島家文書に(M98)『新潟銅屋鋪図』として台帳に記載されている原因を確認した。原因を実見して気づいた点を記す。2間×2間3尺の鍋蔵が3棟あるように書かれているが、古町側の「鍋蔵」2棟の間仕切りはなく、桁行「四間」の記載がある。また、2間×8間の形蔵から2間×2間の鍋蔵にかけて図面の上に別の薄い和紙が貼られている。図右側の記載は約20×20cmの別紙に書かれたもの。「末二月改」は天保6年2月に改められたことを示すものか。

の土地を与えられて移転した。第2次世界大戦時の金属供出前の記録として梵鐘などの紀年銘をまとめた『新潟県史蹟跡名勝天然記念物第12輯』〔斉藤1944〕によれば、17世紀以前の新潟鋳物師銘のある梵鐘として、藤田家3点：延宝7（1679）年・貞享2（1685）年・元禄11（1698）年、相場家1点：元禄13（1700）年がある。これによっても、藤田家が寛文年間頃から鋳物操業を行っていたことが確認される。

文政7年以前には、金屋・銑蔵・炭蔵・形蔵などの工場を西堀（寺町）側、店・住家・土蔵を古町側に設ける1247坪もの敷地を有していた（図6①・図7①）。ところが、文政10（1827）年に鋳物師職を水原町市島栄吉に売却し、天保4（1833）年にはさらに市島正次郎に転売された〔新潟県農地部1960〕。図6②は天保14（1843）年の地子帳を基に作成した図であるが、西堀側が市島正次郎、古町側が10代藤田良平所有になっている。図7②はその頃の鋳物師屋敷の配置図である。主要な施設は①と殆ど変わっていない。間に塀が作られているだけである。新潟市歴史博物館には藤田家文書として文政10年以前・以後の家相図が残されており、①はそれに基づいて作られたものである。その後、弘化3（1846）年には土屋庄吉へ譲渡され、土屋家と統合される。弘化4（1847）年の川村修就奉行の在勤日記に「片原町式之町鋳物師忠左衛門方に而、大筒地銅砂流いたす」と書かれた頃には新潟町の鋳物師職を土屋家が独占していたことになる〔新潟市1990〕。元治元（1864）年の『新潟町家並帳』には神明町寺町通の土屋分家の屋敷は跡形もなくなるというから〔藤田1974〕、この頃には当該地での鋳造は行われなくなったことがわかる（補注）。

さらに下層の未調査部分に寛文年間の鋳物師関連の資料があったものと推測されるが、未調査のためわからない。文献や伝世品から判断して、この場所に17世紀代には鋳物師屋敷があったことは明確であるが、残念ながら未調査のまま破壊されてしまった。

遺構・遺物が検出されたが、埋蔵文化財包蔵地としての周知化、出土遺物の文化財認定は行われなかった。

本稿をなすにあたり、鋳造関連遺物は穴澤義功氏（たたら研究会委員）、新潟町全般に関して伊東佑之氏（新潟市歴史博物館）、陶磁器に関して渡邊ますみ氏（新潟市小針青山公民館）にご教示をえた。また、藤田家文書・土屋家文書などの閲覧には新潟県立文書館・新潟市歴史博物館・歴史文化課の協力をえた。（渡邊朋和）

(b) 古町通5番町昭和新道地点工事立会(2016192)
(図1・11)

所在地 新潟市中央区古町通五番町

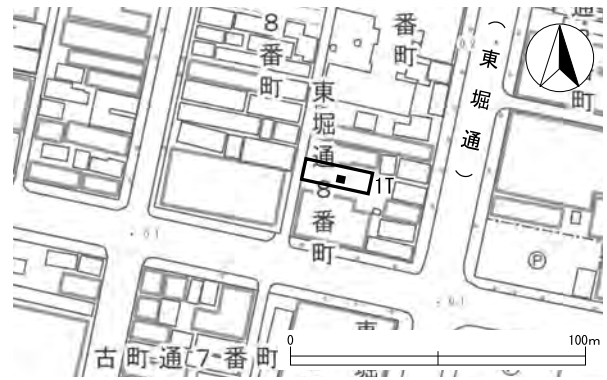


図8 第38次調査トレンチ位置図(1/2,500)

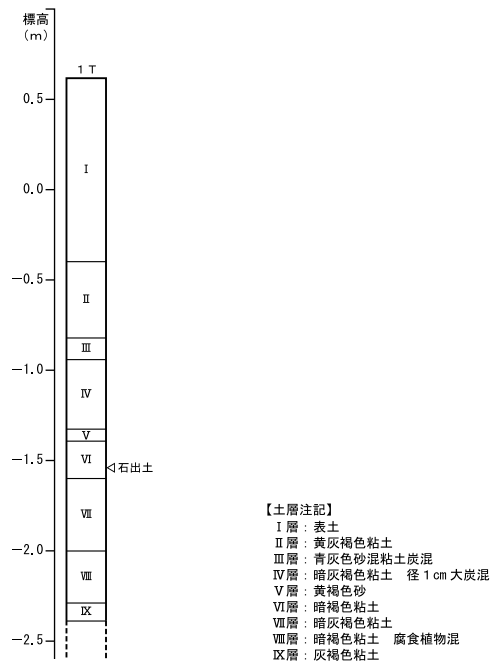


図9 第38次調査土層柱状図(1/40)



第38次調査 1T西壁土層堆積状況(東から)

調査の原因 下水道敷設(公共事業)
調査期間 平成28年9月1日～平成29年2月4日
調査面積 705㎡
調査担当 諫山えりか
処置 工事立会

調査概要 調査地は平成27年度試掘調査（第27次調査・2015116）を行い、18世紀代江戸期の遺物包含層が残っていることから新たに周知化された地点である〔今井2017〕。

平成28年度は9月1日から翌年2月4日まで工事立会を行いコンテナ19箱の近世陶磁器が出土した。そのうち7点を図化した（図11）。

26は17世紀半ばの肥前陶磁器皿である。高台畳付部分が釉はぎされている。27・29・32はいずれも肥前磁器の中でも高級品とされる有田産と考えられる。

**(c) 東堀通8番町1427番地4地点試掘調査
第38次調査（2016252）（図1・8・9・11）**

所在地 新潟市中央区東堀通八番町1427番地4
調査の原因 店舗建設
調査期間 平成29年3月7日～9日（3日間）
調査面積 9㎡（調査対象面積225㎡）
調査担当 諫山えりか
処置 工事立会

調査概要 店舗建設に伴い事前に試掘調査を実施した。調査地は、享保14（1729）の新潟町地子帳によると片原五ノ町にあたる。東堀は当時片原川と呼ばれていたことに由来する。なお、明暦の町建て段階には、片原町という町名はなく、古五ノ町東側にあたる。

試掘調査ではトレンチを1か所設定した（図8）。地表下0.5mに焼土や炭が多量に出土し、1908年の大火の痕跡と考えられるが、その下には江戸時代の層が残っていた。GL-2.0mからは建物礎石と考えられる直径30cm前後の石が3点出土した。さらに下層のGL-3.0mではピットが見つかっていることから、近世新潟町に特有の同じ場所に何度も地業し建て替えていると考えられる。

遺物はコンテナ1箱が出土し、そのうち3点を図化した（図11）。最下層のⅧ層から17世紀代と考えられる青磁碗（35）が出土している。このほか図化していないが、

煙管や銭貨、漆器碗が出土している。

試掘調査で遺構・遺物が検出されたため、埋蔵文化財包蔵地としての周知化および出土遺物の文化財認定を行った。（今井さやか）

補注 脱稿後、歴史文化課の佐藤家文書を閲覧し確認できたことを記す。まず、当該地の鋳物師屋敷の上限は、延宝7（1679）年12月の地子帳に「表口式拾五間 藤田理兵衛」の記載があることがわかった。新潟初代の理兵衛は延宝3（1675）年に没したとされている〔藤田1972〕ので年代があわないう恐らく同一人物であろう。下限は、文久3（1853）年の南組家並地子帳に神明町寺町には土屋家の名前はなく、既に15間4尺5寸の2筆に分割されている。弘化2年に土屋家の所有になってから10年もたないうちに当該地での操業をやめたことがわかる。さらに、神明町西方に残った24間の藤田家の屋敷もなくなっている。

表2 第32次調査遺物集計表

トレンチ番号	層位	陶磁器類						鋳造関連遺物				備考 (陶磁器の年代等)		
		磁器	陶器	土器	土製品	瓦	三叉状土製品	鋳型	羽口	炉壁	洋		鉄置換木炭	
1T	Ⅱc層					1								
1T	Ⅱ層	14	4	1				2						19世紀以降
1T	Ⅱ層耕土	2			1									
1T	Ⅱa層	3	4											
1T	Va-Vd層	1	4	1			1	4		2				17世紀後半～18世紀前半、19世紀以降含む
2T	Ⅱa層	2	2	1	1									18世紀以降
2T	Ⅱ層	1												18世紀末以降
2T	Ⅱe層						5	3	3	7				
3T	Ⅱb層	19	7	2	1									18世紀～明治、紅皿
3T	V層						1							
4T	Ⅱa・Ⅱb層	6	5	1										18世紀代、幕末・明治主体
4T	Ⅱa層						1	2						
4T	Va層								3	4				
5T	4層	1												
5T	Ⅱa層	1												明治以降
5T	10層		4					1		1				17世紀末～18世紀前半、刷毛目碗
5T	10層-V層					1	1	2		3	1	1		
5T	V層						1	1	1	13				
6T	Ⅱc層	1												18世紀代

表3 鍛冶関連遺物観察表

掲載No	出土位置		器種	法量
	トレンチ	層位		
1	2T	Ⅱe層	三叉状土製品	—
2	2T	Ⅱe層	三叉状土製品	—
3	2T	Ⅱe層	三叉状土製品	—
4	3T	Vf層	三叉状土製品	—
5	1T	Va-Vd層	鋳型 上釜?	—
6	1T	Va-Vd層	鋳型	—
7	1T	Va-Vd層	鋳型 外型 鍋	—
8	4T	Va層	鋳型状土製品 外型 鋳型の基部	22.0
9	2T	Ⅱe層	鋳型 鋳口縁部	—
10	1T	Ⅱ層	鋳型 埋型 把手	—
11	1T	Va-Vd層	鋳型 埋型 鋳 把手	—
12	2T	Ⅱe層	羽口	11.6
13	2T	Ⅱe層	羽口	12.0
14	4T	Va層	羽口	11.0
15	5T	V層	羽口	15.0
16	4T	Va層	羽口	9.8
17	4T	Va層	羽口	—
18	5T	V層	炉壁	—
19	1T	Va-Vd層	炉壁	—
20	5T	V層	炉壁	—
21	5T	V層	炉壁	—
22	5T	V層	炉壁	(16.4)
23	5T	Ⅱ-V層	鉄置換木炭	10.0

表4 土器・陶磁器観察表

掲載No	出土位置		種別	器種	産地	年代	法量 (cm)			器形・調整・文様・釉薬等
	トレンチ	層位					口径	底径	器高	
24	3T	Ⅱb層	磁器	紅皿	肥前	18世紀	4.4	1.4	1.5	
25	5T	10層	陶器	碗	肥前	17世紀末～18世紀	11.2	—	(6.0)	灰軸 刷毛目 現川窯か

掲載No	出土位置		種別	器種	産地	年代	法量 (cm)			器形・調整・文様・釉薬等
	トレンチ	層位					口径	底径	器高	
26	坑1	GL-1.2～2.0	磁器	皿	肥前	1640～1650年代	—	5.8	(3.7)	染付 内：草花文 底部：高台畳付無軸
27	坑5	GL-1.2～2.0	磁器	皿	肥前(有田)	18世紀前半	21.0	12.0	4.5	染付 口紐 内：草花文 外：蔓草文 口縁：口紐
28	坑6	GL-1.2～2.0	磁器	碗	肥前	17世紀末～18世紀	9.0	3.7	4.8	染付 外：コンニャク印判
29	坑6	GL-1.2～2.0	磁器	掛花入	肥前(有田)	1670～1710年代	6.0	—	(18.5)	染付 外：山水文・松
30	坑7	GL-0.7～1.2	磁器	碗	肥前	18世紀後半	10.5	6.2	5.9	染付 内：見込み山水文 外：樂 店東
31	坑18	GL-1.0～1.2	陶器	碗	瀬戸美濃か	—	10.3	4.6	5.8	鉄軸 丸軸
32	坑18	GL-1.0～2.0	磁器	皿	肥前(有田)	1780～1790年代	20.8	14.3	3.5	染付 内：花文 外：幾何学文 高台内：富貴長春

掲載No	出土位置		種別	器種	産地	年代	法量 (cm)			器形・調整・文様・釉薬等
	トレンチ	層位					口径	底径	器高	
33	1T	GL-1.7	陶器	打明皿	不明	18世紀	11.0	4.1	2.8	鉄軸 底部糸切り
34	1T	GL-1.7	磁器	碗	肥前(有田)	17世紀末	12.0	4.5	(4.7)	染付 外：一重銅目・梅文
35	1T	Ⅷ	磁器	碗	肥前	17世紀	12.0	—	(4.2)	青磁

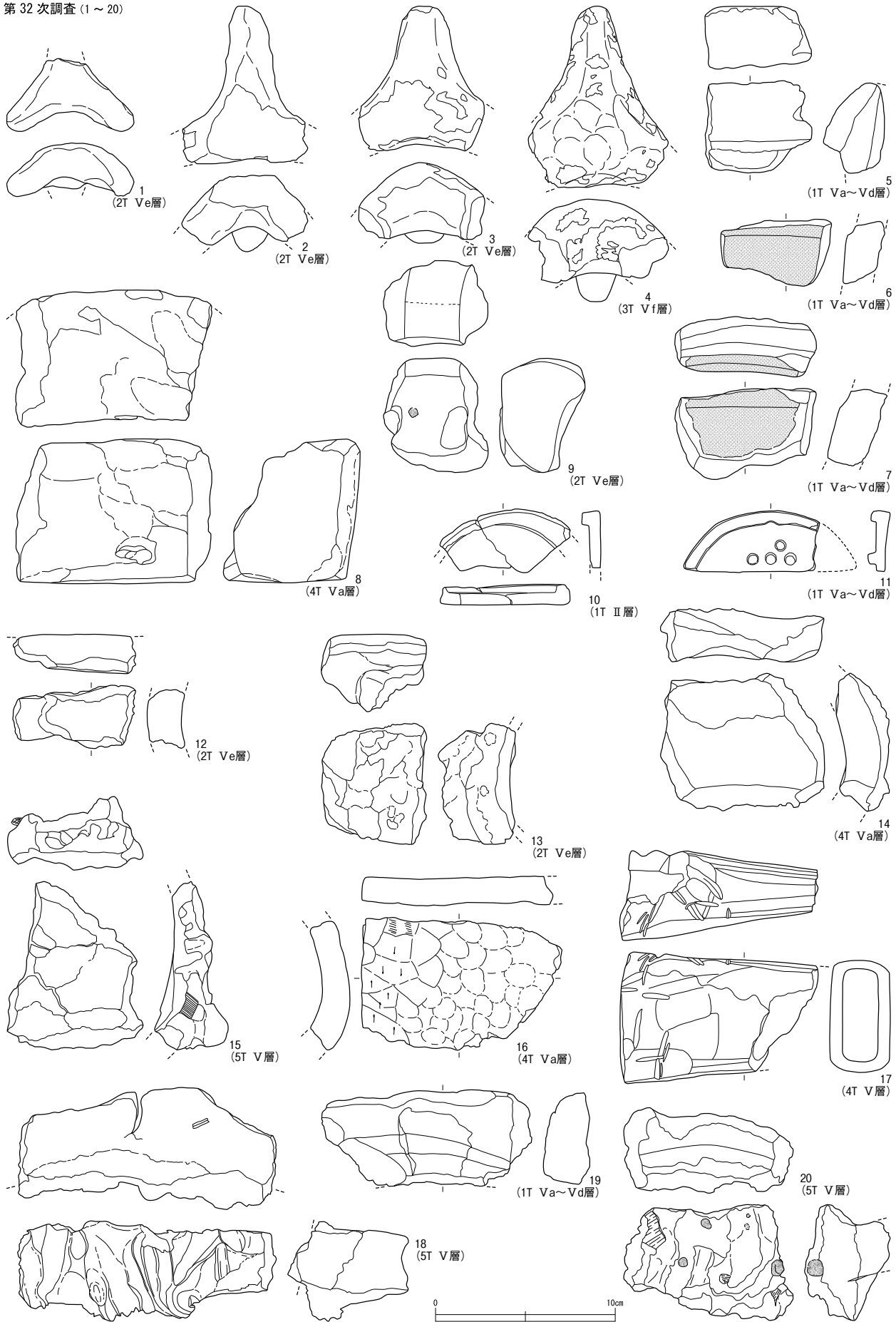
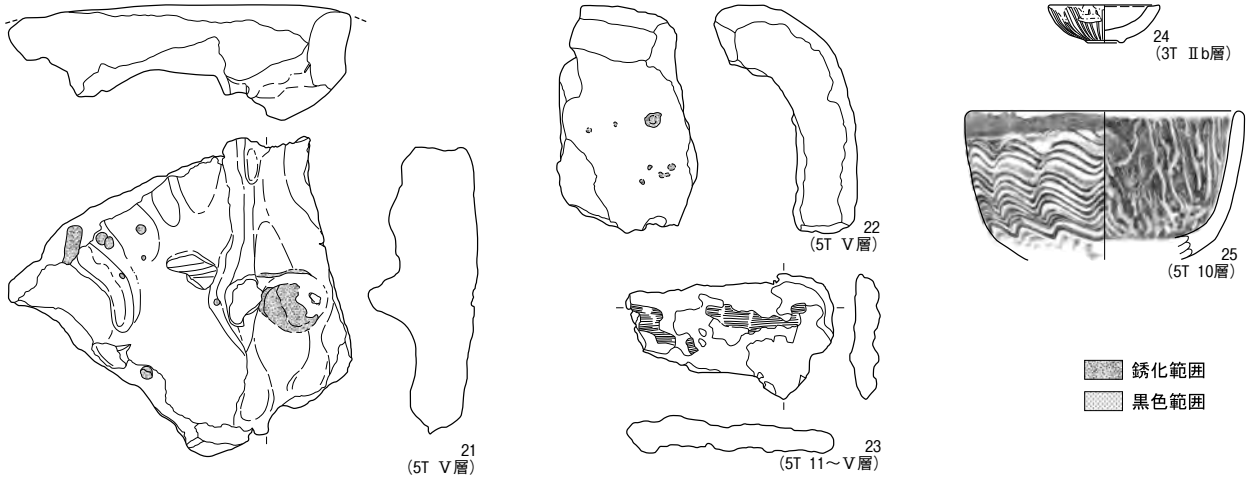
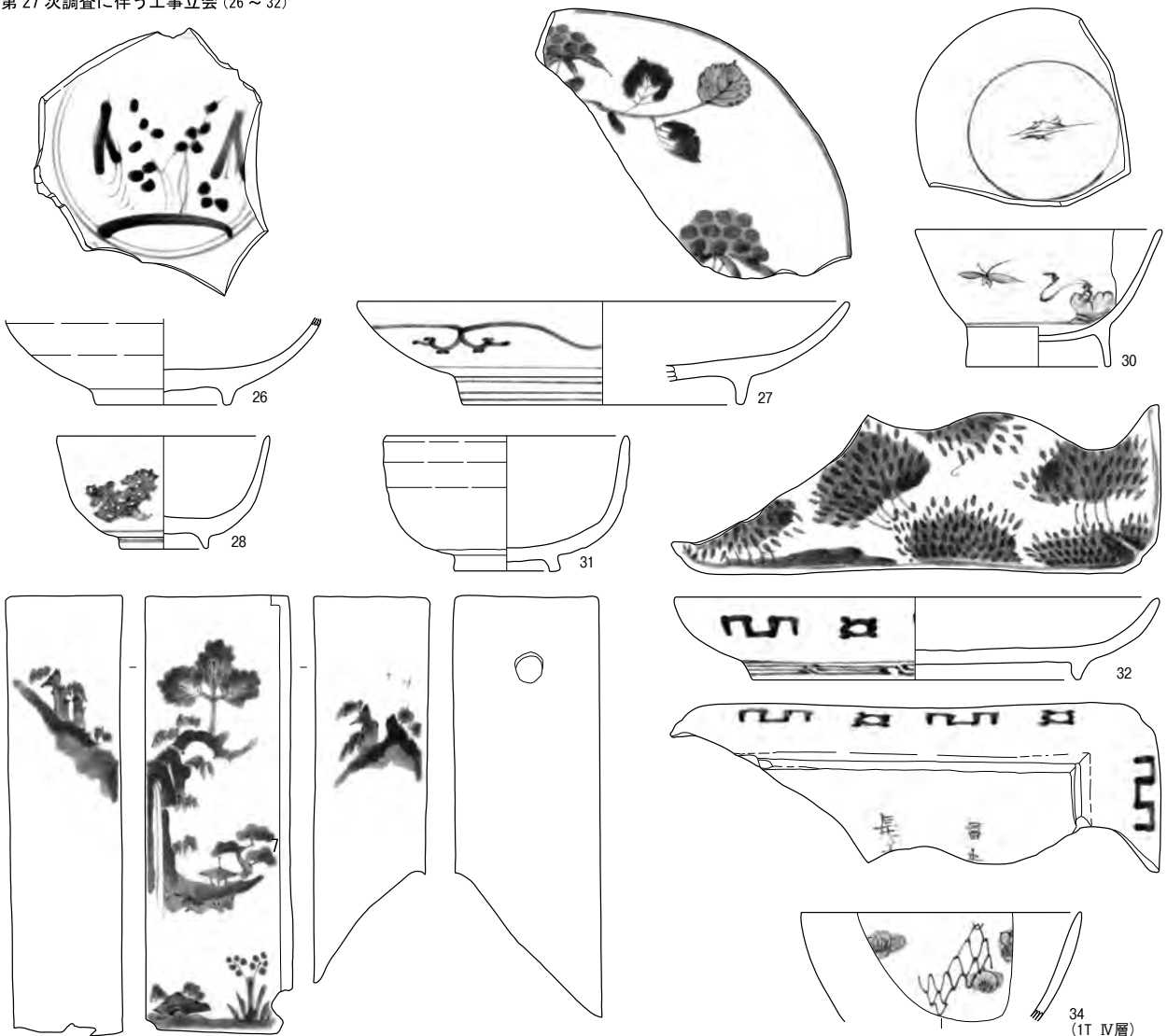


図10 遺物実測図(1/3)

第32次調査 (21 ~ 25)



第27次調査に伴う工事立会 (26 ~ 32)



第38次調査 (33 ~ 35)

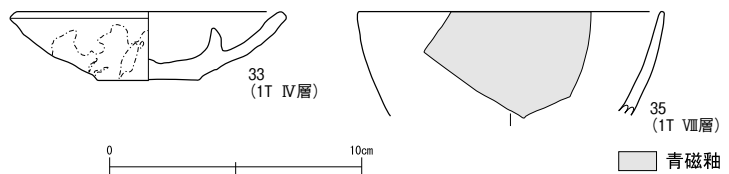


図11 遺物実測図 (1/3)

III 文化財センターの事業

1 本発掘調査の概要

(1) 本発掘調査について

埋蔵文化財包蔵地は現状のまま保存され、後世に継承されることが望ましい。しかし工事によって掘削されるなど、現状保存が不可能な場合は、記録による保存を目的とした発掘調査が必要となる。これを本発掘調査と呼んでいる。本発掘調査は報告書の刊行をもって完了する。

新潟市では、『法』第94条の通知については、事前に試掘・確認調査を実施して遺跡の内容等を把握し、文化庁の示した標準（『文化庁標準』）及びそれを受けて細目を設定した新潟県教育委員会の基準（『新潟県基準』）に則して取扱いに関する意見を付して県教育委員会へ副申している。これを受けて県教育委員会が判断した遺跡の取扱いに関する指示を通知者へ示している。

一方、『法』第93条の届出については、『新潟県基準』とこれを参考に新潟市が定めた『新潟市埋蔵文化財事務取扱要綱』（平成19年4月1日施行）に則して取扱いを決定し、届出者へ通知している。

本発掘調査が必要な場合は、遺跡内の掘削面積を最小限にするため、開発事業者などと遺跡の取扱いについて協議している。しかし、公共事業では各種法令に基づき設計されていることから、設計変更し遺跡の現状保存を図ることは困難な場合が多い。また、民間事業でも大規模な設計変更はできないのが現状である。

本発掘調査実施にあたっては、『法』第99条により、新潟市教育委員会が実施するものとし、直営体制で実施している。新潟市では、歴史文化課が教育委員会事務を補助執行しており、埋蔵文化財担当が本発掘調査に係る全体協議を、文化財センターが本発掘調査を担当している。しかし、調査の件数・規模に対し、市専門職員は人数が限られていることから、市専門職員による調査担当

（正）及び調査員（副）の正副調査員の配置が困難で、調査担当のみの配置となっている。また、発掘作業と並行して現年度調査分及び過年度調査分の整理・報告書作成作業も進めなければならない。解決手段の一つとして、民間調査組織を適切に導入し、調査員として調査業務の一部を委託している。調査担当は、本発掘調査全体管理のほか民間調査組織の監理も求められることから、負担が増加している。

(2) 平成28年度の本発掘調査

表1に示したとおり、3遺跡で本発掘調査を行った。圃場整備関係で1件、道路建設関係で2件である。全て公共事業である。（朝岡政康）

(3) 平成28年度の本発掘調査現地説明会

平成28年度は筑木遺跡・大沢谷内遺跡・細池寺道上遺跡で現地説明会を開催した（表2）。細池寺道上遺跡の現地説明会は荒天であったため、例年より参加者数が減少したものの、その他の遺跡では100名を超える参加者があった。（今井さやか）



現地説明会風景（筑木遺跡第3次調査）

表2 平成28年度本発掘調査現地説明会参加者数

年月日	遺跡名	参加者数（人）
2016/9/17（土）	筑木遺跡	110
2016/10/1（土）	大沢谷内遺跡	123
2015/10/8（土）	細池寺道上遺跡	71

表1 平成28年度新潟市本発掘調査一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名	調査回数（次）	発掘調査面積（㎡）	調査地	調査の原因	調査担当	調査員	発掘調査期間	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2016001	大沢谷内遺跡	25	10区：1,768 11区：990	秋葉区 鎌倉94番外	道路整備 （公共事業）	遠藤恭雄 立木宏明 （6/15まで）	澤野慶子、 佐野貴紀、名久井伸哉 （㈱イビソック）、 櫻井和哉 （小柳建設㈱）	4/18～11/15	10区： 古代・中世 11区： 縄文・古代	10区： 溝・性格不明遺構・畦畔 11区： 川跡・くぼ地状遺構等	10区： 土師器・須恵器・ 黒色土器・木製品（古代）、 中世土師器・珠洲焼（中世） 11区： 縄文土器、 土師器・須恵器（古代）、 石器・石製品・木製品等
2016002	細池寺道上遺跡	48	8,717	秋葉区 東金沢字家浦 65番1外	圃場整備 （公共事業）	立木宏明	奈良佳子、 細野高伯、吉沢 学、 安生素明、菊池康一郎、 中里正憲 （㈱シン技術コンサル）	6/16～12/28	古代・中世・ 近世	方形区画墓・掘立柱建物・ 井戸・土坑・溝、 道路状遺構・畑	土師器・須恵器（古代）、 中世土師器・青白磁・ 珠洲焼（中世）、 唐津焼・備前系磁器（近世）、 石製品・木製品・鉄製品
2016003	筑木遺跡	3	1,069	江南区 袋津字筑木 852番外	道路整備 （公共事業）	龍田優子	伊藤正志、田中万里子 （㈱吉田建設）	7/6～9/23	古代・中世・ 近世	井戸・土坑・溝（古代）、 水田・畑（近世）	土師器・須恵器（古代）、 青磁・珠洲焼（中世）、 陶磁器（近世）

2 平成28年度の本発掘調査

平成28年度本発掘調査の概要を次項より記す。概要は、調査番号順である。概要掲載遺跡の位置を図1、一

覧を表3に、試掘・確認調査の概要掲載遺跡と併せて示した。各項目は、調査名であり、末尾括弧内は調査番号である。(金田拓也)

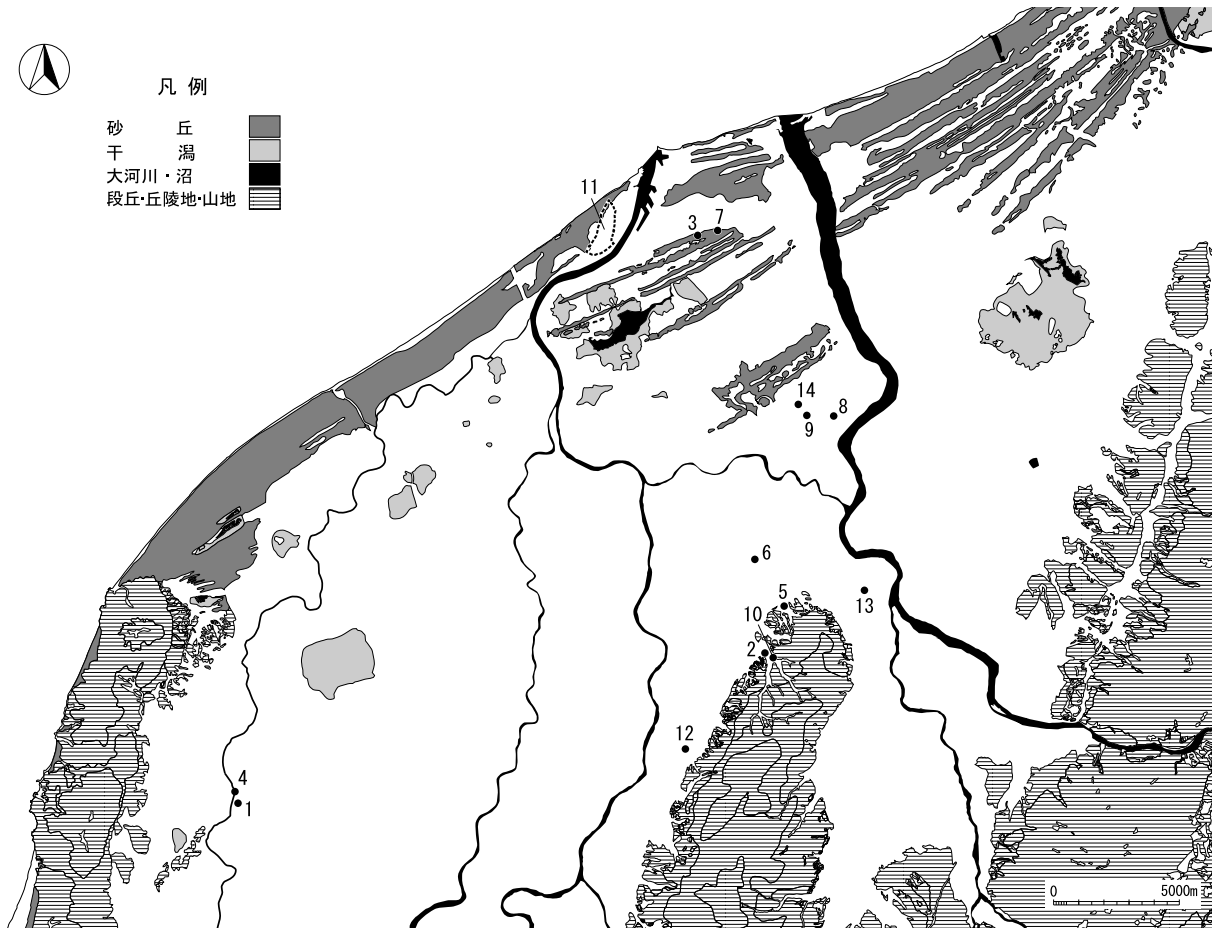


図1 平成28年度概要掲載発掘調査位置図 (1/300,000)

表3 平成28年度概要掲載発掘調査一覧

事前審査に係る試掘・確認調査及び工事立会

遺跡番号	遺跡名	調査回数(次)	調査番号	位置番号(図1)	掲載頁
774	童子西遺跡	1	2016109	1	8
134	塩辛遺跡	9・10	2016112・2016117	2	9
112	山木戸遺跡	7・8	2016113・2016150	3	11
464	上町遺跡	2	2016120	4	13
776	吉岡遺跡	1・2	2016125・2016141	5	14
189	山谷北遺跡	4・5	2016127・2016245	6	16
767	牡丹山諏訪神社古墳	4	2016145	7	18
775	新田郷南遺跡	1	2016165	8	21
777	下郷西遺跡	1	2016178	9	23
218	森田遺跡	7	2016204	10	24
575	近世新潟町跡	32・38	2016116・2016192・2016252	11	25

本発掘調査

遺跡番号	遺跡名	調査回数(次)	調査番号	位置番号(図1)	掲載頁
342	大沢谷内遺跡	25	2016001	12	36
151	細池寺道上遺跡	48	2016002	13	38
764	芥木遺跡	3	2016003	14	39



本発掘調査風景 (大沢谷内遺跡第25次調査)

(1) 大沢谷内遺跡 第25次調査 (2016001)

所在地 新潟市秋葉区鎌倉94番外
 調査の原因 一般国道403号道路整備工事 (公共事業)
 調査期間 平成28年4月18日～11月15日
 調査面積 1,768㎡ (10区)、990㎡ (11区)
 調査担当 遠藤恭雄・立木宏明 (6月15日まで)
 調査員 澤野慶子、
 佐野貴紀・名久井伸哉 ((株) イビソク)、
 櫻井和哉 (小柳建設 (株))

処置 記録保存

調査に至る経緯 国道403号整備工事に伴い、平成16～25年度までに1～9区の発掘調査が断続的に行われてきた(図1)。平成27年度になり、9区(第19次・2012001)南側から田上町境界までの1.04kmについて、試掘・確認調査を行った(第23・24次、2015246・2015261)。この結果、9区隣接地(10区)と大沢谷内遺跡南西端部(11区)の本発掘調査を行うこととなった。その後、新潟市東部地域土木事務所より『法』第94条の通知が提出され(平成28年2月26日付)、平成28年4月11日付新歴F第24号で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した(図1)。

位置と環境 遺跡は新潟市の南東端、新津丘陵と信濃川に挟まれた沖積地に立地しており、東西約800m、南北約1,200mと広大な範囲におよぶ遺跡である。現地標高は3.1～3.2mで、付近一帯の現況は水田となっている。

これまでの調査で縄文時代から室町時代にかけての複合遺跡であることが判明している。遺跡の北東部(1～4区)では縄文時代晩期中葉、中央部(5・6区)では晩期終末の活動痕跡が確認される。弥生・古墳時代の集落は不明瞭であるが、飛鳥時代になると北東部(1～4区)で再び集落が営まれ、律令祭祀の痕跡も確認される〔細野・伊比ほか2012〕。奈良・平安時代以降には南西部(7～9区)に集落の中心が移動し、居住域の周辺に生産域が広がる土地利用の状況が推測されている〔相田・金田ほか2015〕。遺跡の南西側には、約5kmの地点に縄文時代晩期の墳墓を伴う田上町保明浦遺跡〔田畑1993・1996ほか〕、約1.2kmの地点には飛鳥時代を主体とした同町行屋崎遺跡〔田畑ほか2015〕が所在する。

層序 基本層序は10・11区で共通とし、8層に大別される。Ⅰ～Ⅲ層は水田耕作土で、Ⅳ・Ⅴ層は洪水および湿地性の堆積物層である。このうちⅤ層は未分解有機物を多く含む泥炭層で、10区では土壌化している。また、11区では調査区全体に層厚0.25～0.6mで堆積し、近世まで存在していた鎌倉潟の湖底堆積と推定される。

10区では暗灰黄色シルトのⅥ層が遺物包含層及び遺構覆土で、Ⅶ層が基盤層、その上面が遺構確認面となる。

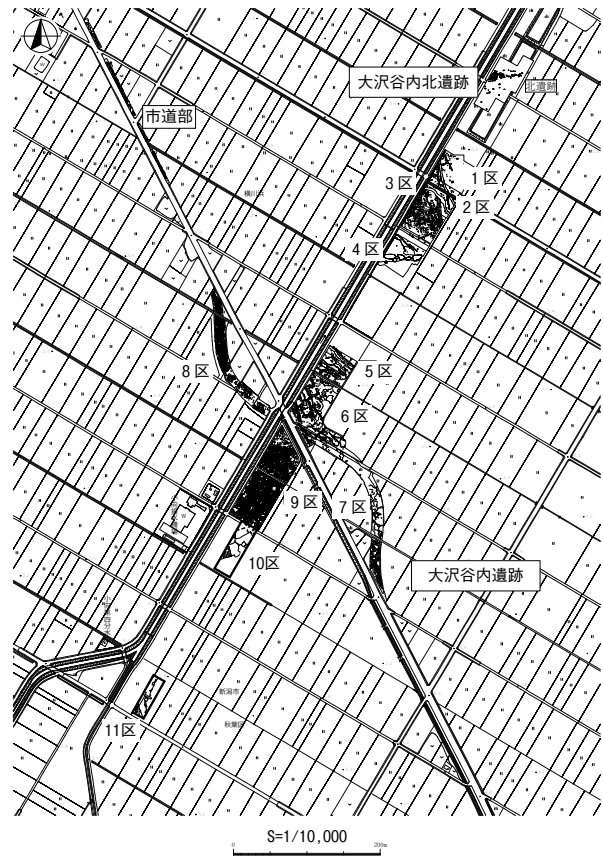


図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区遠景 (北東から)

11区においてもⅥ層が遺構の主要な覆土となり、下位のⅦa層との境界で縄文時代晩期から古代の土器が出土している。Ⅶb層は縄文時代晩期の遺物包含層であり、Ⅶc層以下が基盤層である。

10区の検出遺構と出土遺物 性格不明遺構3基、溝10条、畦畔8条を検出した。この畦畔に区画された範囲を水田遺構とし、8基を確認した。調査区南西側で検出した並行する溝群(写真)は、畦畔と同軸、または直交することから、水田遺構に関連した施設であった可能性が考えられる。

遺物は、コンテナで5.5箱出土した。古代では、土師器・須恵器・黒色土器・杭状木製品が出土している。特

に土師器無台椀が主体を占め、時期は9世紀後半～10世紀初頭の範疇に収まる。中世では、珠洲焼と土師器皿が少量出土しているが、破片資料のため詳細は不明である。

10区のみとめ 10区の北東側に隣接する9区では古代・中世の耕作関連遺構が検出され、特に南西側で古代の耕作関連遺構が展開している。10区で確認された水田遺構は、9区との連続性がみられ、古代の生産域の一部であると推定される。一方、調査区中央には堤防状の微高地が横断し、これを境に南側は落ち込む地形となっていることから、この付近が生産域の南限にあたる地点と位置付けられる。(澤野慶子)

11区の検出遺構と出土遺物 縄文時代の遺構は確認できなかったが、破片数で220点の縄文土器が出土している。粗製深鉢が大半を占め、晩期終末の鳥屋2 a 式の範疇に収まると考える。土器集中1(写真)では台石を伴い意図的な廃棄がうかがわれる。

古代では、くぼ地状や段差状の遺構(SX2・SX3)および調査区南東端から北北西に走る川跡(旧河道1)を検出した。SX3では土師器無台椀・須恵器無台杯が出土した。いずれも所属時期は9世紀後半であり、残存率が高く、重なった状態のものや墨書土器が含まれることから水辺祭祀の痕跡と考えられる。旧河道1の覆土は上層が泥炭層、中・下層がシルト層の2層に大別される。中層付近では、多量の流木に混じって丸木舟の部材や伐採痕を有

する木道状の樹木、さらに漆容器の曲物などの木製品と小泊窯跡群産須恵器無台杯が出土した。自然科学分析の結果から、遅くとも7世紀後半には河道が形成され、周辺が離水する環境にあったことが推測された。上層から中層では、8～9世紀にかけて旧河道1が埋没し、花粉分析から樹木の減少やイネ花粉の増加する環境変化があり、その過程において水田耕作などによる人為的な植生干渉の影響が推測された。

11区のみとめ 縄文時代晩期の遺物分布状況と旧地形から、南東側調査区外に遺跡範囲が広がる可能性が高いと考えられた。古代は、SX3における水辺祭祀と旧河道1で出土した丸木舟とみられる部材から、内水面交通と関連した集落縁辺部にあたりと推定される。また、漆容器や木製品の出土から盛んな森林資源の利用が示唆される。7世紀後半から9世紀にかけての周辺の離水と土地利用の拡大は、大沢谷内遺跡の既往調査や周辺遺跡調査の成果で得られた年代観とも合致するものである。

11区における起伏の多い埋没地形のあり方は、周辺に未発見の遺跡が点在する可能性を示唆する。今回の調査を通じて、断片的ではあるが、遺跡南側においても北側と多くの点で共通した性格を有する遺跡の広がり、古代における遺跡周辺の古環境変遷の一端が把握された。

なお、第25次調査報告書は平成29年度に刊行した〔遠藤・澤野ほか2018〕。(遠藤恭雄)



10区 水田遺構全景(北西から)



10区 並行する溝群(北から)



11区 旧河道1付近近景(北から)



11区 縄文土器出土状況(土器集中1)

(2) 細池寺道上遺跡 第48次調査 (2016002)

所在地 新潟市秋葉区東金沢字家浦65番1 外
 調査の原因 両新地区圃場整備事業 (公共事業)
 調査期間 平成28年6月16日～12月28日
 調査面積 8,717㎡
 調査担当 立木宏明
 調査員 奈良佳子、
 細野高伯・吉沢 学・安生素明・
 菊池康一郎・中里正憲
 (株)シン技術コンサル)

処 置 記録保存

調査に至る経緯 新潟県地域振興局から平成28年4月26日付で本発掘調査の依頼文書が提出され、これを受けて圃場整備工事により保護層 (20cm) が確保できない範囲を対象とした調査を、平成28年6月15日付で報告し、本発掘調査を実施した (図1)。

位置と環境 細池寺道上遺跡は、新津丘陵の東側を流れる能代川と阿賀野川に挟まれた沖積地に立地する古代から近世の遺跡である。遺跡の広がりには南北1.7km・東西1.2kmにおよぶ。現地表面標高は9～10mである。

これまでも複数回の調査が行われており、古代・中世の遺物やそれらと同時代と考えられる遺構が確認されている [立木・奈良ほか2017ほか]。

検出遺構 遺構は方形区画墓2基、掘立柱建物21棟、井戸36基、土坑137基、溝244条、道路状遺構6か所、畑10か所に代表される計2,895基の遺構が検出された。

古代の遺構は、旧河道2条を検出した。

中世は遺跡の中心時期と考えられ、掘立柱建物、井戸、道路状遺構などのほか、方形の周溝をもつ区画墓2基を検出した。区画墓の主体部からは青白磁合子、漆製品が出土している。これら区画墓は大変希少な例で、出土遺物からも被葬者に地域の有力者が推定される。

近世の遺構としては、溝で区画された掘立柱建物や井戸、畑、柵、墓域などが検出され、近世初期から始まる集落域の一部とみられる。

出土遺物 今回の本発掘調査遺物は、コンテナで226箱出土した。古代では9世紀代の須恵器・土師器が少量出土した。中世では前述の青白磁合子のほかに13～14世紀代の珠洲焼甕・片口鉢、中世土師器が出土している。近世では16世紀末から17世紀の唐津焼皿・碗や17世紀の肥前系磁器など、戦国期から近世初期の遺物が比較的多く出土した。そのほかに井戸側・漆器などの木製品、刀子などの鉄製品、砥石などの石製品が出土している。

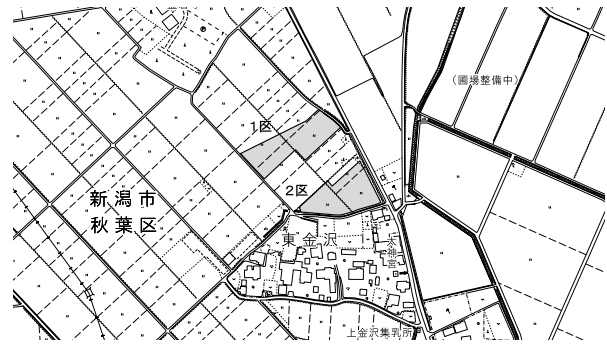


図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (北西から)



1区 方形区画墓 (SZ865) 全景 (北東から)



1区 SZ865 主体部出土の青白磁合子

まとめ 平安時代から江戸時代を通じて集落・生産域であったと判断される。中世においては集落間を結ぶ重要な幹線道路に隣接する主要集落と考えられる。報告書は平成30年度以降に刊行予定である。

(立木宏明)

(3) 筑木遺跡 第3次調査 (2016003)

所在地 新潟市江南区袋津字筑木852番 外
調査の原因 新潟中央環状線道路整備事業（公共事業）
調査期間 平成28年7月6日～9月23日
調査面積 1,069㎡
調査担当 龍田優子
調査員 伊藤正志・田中万里子（(株)吉田建設）
処置 記録保存

調査に至る経緯 新潟市を東西につなぐ新設道路整備事業に伴う試掘調査で平成26年に新しく発見された（第1次）。遺跡は部分的に削平されているものの旧自然堤防である微高地とともに古代・近世の遺構が確認された。翌年、道路法線上の遺跡の状況を把握し本調査範囲を確定するため確認調査を実施した（第2次）。調査結果を受け、新潟市東部地域土木事務所より平成28年4月13日付で発掘調査依頼書、同5月23日付で『法』94条通知が提出された。県教委から同6月10日付教文第325号の2で本調査指示があり、同7月6日付新歴F第9号の10で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した（図1）。

位置と環境 阿賀野川左岸の埋没した旧自然堤防上に立地する。遺跡の標高は、約2.9～3.2mで北に向かってわずかに傾斜している。周辺は昭和20年代の耕地整理によって水田が広がる。南東から遺跡を挟んで北西方向には畑などが点在し、周辺より少し高い。かつては、原っぱだったことから「筑木っばら」と呼ばれていた。

検出遺構 後世の耕地整理などで大きく削平され、遺存状態は悪く、古代と近世の遺構が同一面で確認される。更正図に記載されている水路からは古代から近世までの遺物が多く出土した。また、遺構確認面から約1.2m掘り下げた地点で立木の樹木（コナラ）が検出された。

出土遺物 近世陶磁器が大部分を占めるものの、古代・中世の土器も出土している。古代は9世紀から10世紀前半の平安時代が主体で、須恵器・土師器・黒色土器の一般的な貯蔵具や食膳具がみられる。中世珠洲焼のほかには青磁皿の破片、近世陶磁器では17世紀後半の肥前焼が多く出土した。

まとめ 本遺跡によって周辺に未知の遺跡が存在する可能性が指摘される。また、検出した樹木の年代は4世紀後半で、古代の出土土器の主たる年代（9世紀後半）から、約500年の間に1.2mほど沈下したことになる。この地点の沈下速度が1年間に約2.4mm、4年間で約1cmという数字で示された初めての事例であり、周辺地域の歴史を考える上でも重要である。なお、報告書は平成29年度に刊行した〔龍田・伊藤ほか2018〕。
(龍田優子)



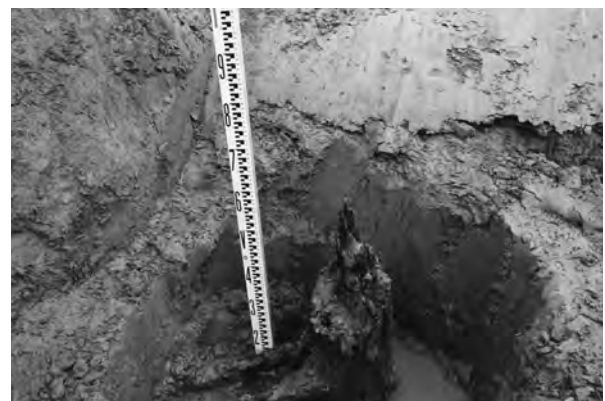
図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景（南東から）



井戸 (SE102) 土層断面 (東から)



樹木検出状況（西から）

3 整理作業の概要

平成28年度に文化財センターが実施した発掘調査などの整理作業の一覧を調査番号順に表4に示した。整理作業のうち、主要なものについて以下に記す。

(1) 試掘・確認調査、工事立会、本発掘調査の再整理事業

平成28年度の試掘・確認調査、工事立会に伴う遺物について収蔵のための再整理を行い、30調査分コンテナ約40箱を収蔵した。

試掘・確認調査、工事立会は歴史文化課で実施し、出土遺物については文化財センターで水洗・注記・収蔵作業を行っている。

報告書刊行済みの掲載資料については、接着剤や充填材の経年劣化により破損した資料の再接合などを適宜行っている。(相澤裕子)

(2) 大沢谷内遺跡第15・17・19次調査の整理作業

整理作業の概要 大沢谷内遺跡は、一般国道403号小須戸田上バイパスの建設工事及び市道鎌倉横川1号線改良工事に伴う本発掘調査が、平成17～25・27年度に実施されている。

これらの継続した調査によって、新津丘陵西麓の沖積地に位置する大沢谷内遺跡の縄文時代から中世の様相が明らかになってきている。

平成17～21年度に行った本発掘調査(第7・9・11・12・14次調査、1～4区)については『大沢谷内遺跡Ⅱ』〔細野・伊比ほか2012〕として、平成22年度に行った本発掘調査(第18次調査、市道鎌倉横川1号線)については『大沢谷内遺跡Ⅲ』〔前山2012〕として、平成23～25年度に行った本発掘調査(第19～21次調査、8・9区)については『大沢谷内遺跡Ⅳ』〔相田・金田ほか2015〕として報告書

を刊行済みである。

平成21～23年度に行った本発掘調査(第15・17・19次調査、5～7区)では、縄文時代と古代の遺構・遺物が確認されている。なお、6区では上層で古代、下層で縄文時代の遺構・遺物が確認されており、さらに下層では遺構確認面が上面・中面・下面の3面に分けることができる。

上記、5～7区の本発掘調査では、上層においては、井戸9基、土坑101基、溝145条、ピット362基、杭列6列、性格不明遺構122基が、また下層(上面・中面・下面)においては、堅穴建物1棟、掘立柱建物7棟、土坑165基、溝13条、ピット258基、性格不明遺構28基のほか、焼土や炭化物の集中域が50か所以上検出されている。

この5～7区の調査成果については、一冊の報告書にまとめて刊行する予定であり、平成27年度から刊行に向けた整理作業を行っている。平成27年度は基礎整理や一部遺物の実測作業のほか、遺物実測図のデジタルトレース、写真フィルムのデジタル化委託などを行った。

平成28年度は、遺物の実測作業や遺構図面の一部校正作業を行ったほか、遺物実測図のデジタルトレースを委託した。

今後の整理作業計画 平成29年度は遺構図面図版のデジタル図化編集を行い、平成30年度には遺物図面図版のデジタル図化編集や執筆作業などを進め、平成31年度に報告書を刊行する計画である。(相田泰臣)

表4 平成28年度整理作業一覧

遺跡名・事業名	調査回数	調査番号	調査原因	整理担当	主な作業内容
馬場屋敷遺跡ほか	1・2・3	1983006ほか	再整理	相澤裕子・渡邊朋和	再整理
道上遺跡	6	2005003	圃場整備	立木宏明・龍田優子・奈良佳子、 細野高伯・石川博行・重留康宏・吉澤 学・ 安生素明・中里正憲・長澤展生・菊池康一郎 (㈱シン技術コンサル)	基礎整理・遺物実測・ 報告書作成・印刷刊行
下久保遺跡	3	2006003			
細池寺道上遺跡	29・31・ 44・46・ 48	2009003・2010003・ 2014001・2015002・ 2016002			
大沢谷内遺跡	15・17・19	2009001・2010004・ 2011006	道路整備	相田泰臣・金田拓也	基礎整理・遺物実測
大沢谷内遺跡	25	2016001	道路整備	遠藤恭雄・澤野慶子、 櫻井和哉(小柳建設(株))、 佐野貴紀・名久井信哉(㈱イビソク)	基礎整理・遺物実測・写真整理・報告書作成
筑木遺跡	3	2016003	道路整備	龍田優子、 伊藤正志(㈱吉田建設)	基礎整理・遺物実測・写真整理・報告書作成
舟戸遺跡	24・25	2014173・2015001	宅地造成工事	金田拓也	印刷刊行
鳥瀬瀬遺跡	4・5	2015138・2015003	圃場整備	遠藤恭雄・澤野慶子	報告書作成・印刷刊行
試掘調査・確認調査・ 工事立会・本発掘調査再整理事業	-	-	各種事業	相澤裕子・渡邊朋和	収蔵作業・台帳作成・遺物修復

4 資料の収蔵・保管

各項の概要及び基本的事項の詳細は、『年報』第1号に記載されている〔渡邊2014b〕。

(1) 収蔵方針

文化財センターでは、新潟市内で発掘調査によって出土した遺物や、写真・図面などの記録類を一括集中管理している。

なお、文化財センター開館前の発掘調査によらない考古資料は、各区の博物館や資料館などで保管・管理が行われている。

(2) 収蔵・保管施設

収蔵・保管施設には、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫1（木製品）・2（金属製品）・資料収蔵庫・図書室・民俗資料収蔵庫がある。民俗資料収蔵庫はⅢ4（6）に記載した。

埋蔵文化財収蔵庫 土器や石器など温湿度変化の影響を受けにくい資料を収蔵している。平成29年3月末時点でコンテナ11,061箱収蔵されている。

特別収蔵庫1・2 保存処理が完了した木製品や金属製品などを収蔵している。平成29年3月末時点で特別収蔵庫1にコンテナ791箱（木製品）、特別収蔵庫2にコンテナ194箱（金属製品106箱、骨・骨製品88箱）収蔵されている。

資料収蔵庫 発掘調査の図面や写真フィルム・CD・DVDなどの記録類を収蔵している。

図書室 Ⅲ6（6）に記載した。

(3) 発掘調査番号

遺物や調査記録類をまとめるために、新潟市内における全ての発掘調査（試掘・確認調査、本発掘調査、そのほかに工事立会を含む）に対して年度ごとに調査番号（7桁）を付けている。

(4) 再整理作業

文化財センター開館以前の調査資料について、平成28年度も継続して作業を行っている。また、報告書刊行済みの資料について、適宜点検を行い、接着剤や充填材の経年劣化による破損が目立つようになり、修復を進めた。

(5) 収蔵資料のデジタル化及びデータベース化

保存と活用のために、遺物・遺構に関しては台帳を作成し、図面や写真などの記録類はデジタル化がされている。

発掘調査図面は、殆どが業者に委託したデジタルデータ（CADデータ）が存在する。

写真に関しては、発掘調査終了後速やかにデジタル化を行っており、データ形式も汎用性を考えてtiffデータ

としている。

発掘調査報告書に関しては、印刷業者に編集データを入稿する前もしくはその後にpdfデータを作成している。

収蔵図書に関しても書誌データ（CSV形式）を継続して登録している。（相澤裕子）

(6) 民俗資料など

民俗資料収蔵庫には、農具・漁労具・生活用具などの民具を中心に収蔵している。非常勤職員を雇用し、整理作業や台帳作成を行っている。平成28年度の収蔵数は台帳に記入が確認できる範囲で2,123件であり、未整理分も含めると3,000件近くになる。また、文化財センターに隣接する旧木場小学校校舎は、「大形民具収蔵庫」として利用され、敷地及び建物を文化財センターが、収蔵品の民俗資料は歴史文化課・新潟市歴史博物館が管理している。（久住直史）

(7) 埋蔵文化財情報管理システム

埋蔵文化財の管理と活用、デジタル化した記録類のデータ管理を目的として、『埋蔵文化財情報管理システム』を活用している。遺跡管理のための地理情報管理システム（GIS）と発掘調査記録や収蔵品管理のためのデータベースの機能を併せ持ったシステムである。このシステムは新潟市の統合型GISのサブシステムとして構築されている。

平成21年度にシステムを構築し運用を始め、その後統合型GISのOS変更に伴い平成27年に再構築を行い、同年6月から改めて運用している。

システムの機能としては、「遺跡管理」「発掘調査管理」「埋蔵文化財保護業務」「出土品管理」「記録類（図面）検索」「記録類（写真）検索」「遺物検索」「木製品、金属製品検索」「図書検索」「地図表示」を備えている。

運用は開始されたが、「出土品管理」「記録類（図面）検索」「記録類（写真）検索」「遺物検索」「木製品、金属製品検索」の記録類などをエクセルデータで一括取り込みが可能にできるようにするための機能については、現在も構築作業中である。（今井さやか）



民俗資料収蔵庫

5 資料の公開・展示

(1) 展示概要

『新潟市文化財センター条例』の設置目的にある「埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図る」主な事業の一つとして埋蔵文化財・有形民俗文化財の展示を行っている。詳しい方針及び概要については、『年報』第1号に記載している〔今井2014a〕。

平成26年度に文化財センターでは初めて企画展を開催し平成28年度で3年目を迎えた。内容については、市内8区の遺跡を順次紹介するシリーズとして北区を取り上げた「北区の古墳時代」や、南区の遺跡から出土した呪符木簡を中心に中世の信仰を特集した「古いとまじない」など、時代や地域に偏りがないう全4回企画した。また、平成28年4月に『「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化』が日本遺産に認定された（信濃川火焰街道協議会主催）ことを記念し、日本遺産の構成文化財である「秋葉遺跡」と「大沢谷内遺跡」について紹介するコーナーを設けた。秋葉遺跡は市内で2点しか出土していない火焰型土器破片とその時代の東北系と北陸系の土器を、大沢谷内遺跡ではアスファルト付着土器やアスファルト塊の展示を行った。平成27年度に初めて開催した館外展示については2か所で行った。なお、この企画展と館外展示事業は、経費の50%について国の補助金「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を受けた。

展示室 1 導入展示室兼、展示室2の前室としての機能を有している。「歴史を伝える出土品の世界」と題して、市内で出土した縄文時代から近世の土器陶磁器や木製品を壁一面に展示している。また、大形木製品や木簡レプリカ104点、近世新潟町出土の陶磁器をケースにて展示している。平成28年度は展示の変更を行わなかった。

展示室 2 「新潟市文化財センターの活動」、「遺跡が語る新潟市の歴史」、「企画展示コーナー」の大きく3つの展示に分かれている。

平成27年度から変更があったところは、すでに述べたとおり「新潟市文化財センターの活動」の一角に「日本遺産関連展示」コーナーを新設したことである。この

展示は日本遺産が認定された翌日から、企画展示でケースを使用する時期を除き、年度末まで展示を行った。

展示室中央の企画展示コーナーでは、平成28年度は4回の企画展を開催した。各展示詳細についてはⅢ5(2)～(5)に記載する。

エントランス エントランスでは、大形品の展示のほか速報性のある出土品の展示を行っている。平成28年度には、平成27年度に本発掘調査を行った「島灘瀬遺跡」と平成26年度に工事立会を行った「仲歩切遺跡」を速報展示した。また、所蔵する民俗資料のうち黒埼地域特有の民具「刺子のタブチマエカケ」を展示した。

館外展示 平成28年度は文化財センター及び弥生の丘展示館の企画展以外に2か所の市内施設で館外展示を行った。1か所目は新潟市江南区郷土資料館からの申し出による江南区郷土資料館での企画展示「江南区発掘物語」。2か所目は佐潟ラムサール条約登録20周年記念事業実行委員会（主管：新潟市環境政策課）からの依頼を受けて、赤塚中学校体育館で開催された佐潟20ラムサールフェスでの「赤塚地域の遺跡」展示である。各展示詳細についてはⅢ5(6)・(7)に記載する。

まとめ 展示室内に日本遺産の関連展示コーナーを新設した。平成28年12月に國學院大學（東京都）において日本遺産の特別展「火焰型土器のデザインと機能」が行われたことをきっかけに、文化財センターを含め新潟に足を運ぶ県外の方がみられた。文化財センター単独では、県外への広報などが難しいため、このような機会を利用し、情報発信していきたい。（今井さやか）



展示風景（日本遺産関連）

表5 平成28年度文化財センター企画展一覧

企画展名	会期	企画担当	入館者数(人)	関連講演会・イベント			
				演目 イベント名	開催日	講師	参加者数 (人)
水辺に栄えた縄文社会	2016/4/12(火) ～7/18(月・祝)	前山精明 龍田優子	3,792	角田山麓縄文遺跡群 の日本海交流 ～縄文土器にみる～	2016/5/22(日)	寺崎裕助氏 (新潟県考古学会会長)	58
北区の古墳時代	2016/7/26(火) ～10/10(月・祝)	相田泰臣	3,215	遺跡からみた北区の古墳時代	2016/8/27(土)	相田泰臣	45
古いとまじない ～今に伝わる中世の習俗～	2016/10/18(火) ～2017/1/9(月・祝)	渡邊朋和	2,649	中世越後の信仰生活	2016/11/3(木・祝)	水澤幸一氏 (胎内市教育委員会)	44
新潟市の遺跡から見える律令時代 ～八・九世紀の新潟市～	2017/1/17(火) ～3/26(日)	本間敏則	2,162	律令時代の新潟市域	2017/3/12(日)	春日真実氏 (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団)	70

(2) 企画展1 「水辺に栄えた縄文社会」

会 期 平成28年4月12日(火)～7月18日(月・祝)

担 当 前山精明・龍田優子

入館者数 3,792人

展示概要 火炎土器が成立する直前の前期終末から中期前葉に栄えた角田山麓の遺跡群を取り上げた。角田山は海に面し、現在の越後平野には沼地が広がっていた環境の中で、ヒシの実採りや漁労によって安定した定住生活が営まれていた。このような内陸部とは異なる水辺で栄えた縄文社会について紹介した。文化財センターで初めて縄文時代に焦点をあてた企画展である。

展示構成

- | | |
|------------|----------------|
| 1) 遺跡群の形成 | 7) 黒曜石の流通 |
| 2) 縄文の森と水辺 | 8) 土器のまぜもの |
| 3) 植物食の利用 | 9) 豊原遺跡に偏る土器 |
| 4) 狩猟と漁撈 | 10) 装身具 |
| 5) なりわいの道具 | 11) 精神生活を伝える遺物 |
| 6) 磨製石斧の製作 | 12) 日本海と縄文人 |

主要展示 企画展の対象とした縄文時代前期終末の遺跡は、関東・中部地方や日本海沿岸地域では極めて少ない。しかし、この時期に遺跡が集中する特異な空間である角田山麓の遺跡群について、豊原・南赤坂・重稲場・上田・大沢遺跡などから出土した膨大な資料を多角的な観点から紹介した。このなかで、土器の変遷を8段階に分け、出土した黒曜石の比率や豊原遺跡に顕著にみられる文様について検討した。また、前期終末に限定される環状浮線土器の施文方法については、実験からチューブ・デコレーション技法を用いたものであると想定した。

関連講演会 企画展の関連講演会を1回開催した。

演 目 角田山麓縄文遺跡群の日本海交流
ー縄文土器にみるー

講 師 寺崎裕助氏(新潟県考古学会会長)

日 時 平成28年5月22日(日)
午後1時30分～3時

参加者数 58人

日本海のランドマークである弥彦・角田山によって人々が訪れる条件が揃っていた角田山麓遺跡群について、主に出土した土器にみられる東北・北陸・関東地方の特徴から盛んな日本海交流が行われていたことを指摘した。参加者は皆、熱心に聴き入っていた。

展示解説 展示担当による展示解説を2回開催した。

日 時 平成28年4月24日(日)・6月26日(日)
午後1時30分～3時30分

参加者数 24人(4/24)・20人(6/26)

入館者の声 多くの入館者から「よくぞこの時期の資料に焦点をあててくれた」、「緻密な展示」、「展示ケースひとつひとつを写真にして冊子を作って欲しい」など、とても好評であった。

ま と め 縄文時代前期末から中期前葉という時期に遺跡が集中する角田山麓に焦点を絞った企画展となった。形の分かるような土器の完形個体は決して多くなく、多くの破片資料や、装飾品・石器石材などの出土品から分かることを最大限に引き出した展示であった。

(龍田優子)



チラシ表



関連講演会風景 (角田山麓縄文遺跡群の日本海交流)

(3) 企画展2 「北区の古墳時代」

会 期 平成28年7月26日(火)～10月10日(月・祝)

担 当 相田泰臣

入館者数 3,215人

展示概要 阿賀野川の北に位置する新潟市北区は、現在のところ確実な古墳は発見されていないが、発掘調査などによって古墳時代に有力な集落が存在していたことが明らかになっている。企画展では、古墳時代の北区やその周辺域を中心に、遺跡や出土品、古環境の研究成果などについて展示や解説を行った。

展示構成

- 1) 北区における考古学研究のあゆみ
- 2) 古墳時代における北区周辺の古環境
- 3) 北区周辺の縄文土器
- 4) 北区周辺の墳墓・古墳
- 5) 北区周辺の古墳時代の集落
- 6) 淳足(沼垂)柵の時代の北区周辺

主要展示 1) では、北区における考古学研究黎明期の状況を概観し、その時に採集された遺物(内島見A遺跡・葛塚遺跡・城の湯遺跡・たやしき遺跡・正尺遺跡)や当時の報告書、調査写真などを展示した。

2) では、福島潟に面した官衙関連遺跡である新発田市曾根遺跡の「津」墨書土器などを展示した。

3) では、北区周辺の縄文土器(正尺A遺跡・葛塚遺跡・椋C遺跡、阿賀野市腰廻遺跡)を展示した。

4) では、松影D遺跡や上黒山遺跡、聖籠町の二本松東山遺跡についての展示を行った。とりわけ、松影D遺跡の底部穿孔壺は複数個体存在し、一般集落とは考えがたい状況であり、古墳であった可能性もある。

5) では、北区を代表する古墳時代の遺跡である正尺C遺跡及び葛塚遺跡のほか、阿賀野市の腰廻遺跡の遺物を展示した。また、現状で阿賀野川流域以北と山形県庄内平野に分布の中心がある頸部を穿孔し、外側に受口状の突起が付く甌についても展示を行った(秋葉区沖ノ羽遺

跡、村上市道端遺跡、新発田市神明裏遺跡・蚤取橋遺跡、阿賀野市腰廻遺跡)。

6) では、淳足柵の時代の北区周辺の遺跡として、松影A遺跡や新発田市馬見坂遺跡についての展示を行った。

関連講座 企画展の関連講座を1回開催した。

演 目 遺跡から見た北区の古墳時代

講 師 相田泰臣

日 時 平成28年8月27日(土)

午後1時30分～午後3時

参加者数 45人

展示構成に沿って、越後平野の古環境や北区の古墳時代の遺跡・遺物などを紹介しながら、北区の古墳時代の様相や特徴について解説した。

展示解説 関連講座終了後に展示担当による展示解説を行った。

入館者の声 関連講座では、北区を対象にした企画展ということもあり、北区からの参加者が全体の約4割を占めた。ほかの講座・講演会のアンケート結果では、北区からの参加者は全体の1割未満であることから、今回の講座は地元の方が多く参加したといえる。また、企画展中は北区郷土博物館からの団体見学もあった。

今後、各区を対象とした企画展では、地元の関係機関などと連携した事業を企画したい。

ま と め 北区ではこれまでに古墳の可能性が指摘された遺跡は存在するが、確実な古墳は見つかっていない。今回展示した遺跡や出土遺物などからは、前期古墳が存在する、あるいは存在した可能性が高いことが改めて確認できた。また、縄文土器の分布などからは、古墳時代前期に日本海から阿賀野川を介し、福島潟周辺にモノや情報が入って来る状況が明らかになってきている。古墳時代後期では、阿賀野川流域以北と庄内平野との地域間関係もうかがえる。(相田泰臣)



展示風景(展示室2)



関連講座風景(遺跡から見た北区の古墳時代)

(4) 企画展3 「古いとまじない —今に伝わる中世の習俗—」

会 期 平成28年10月18日(火)
～平成29年1月9日(月・祝)

担 当 渡邊朋和
入館者数 2,649人

展示概要 新潟市南区馬場屋敷遺跡は信濃川の近くにある鎌倉時代の遺跡である。昭和58(1983)年の発掘調査によって5か所の祭祀遺構が発見され、20点以上の呪符木簡が、何千本もの箸や串状木製品と共に出土した。木簡には「蘇民将来」^{注1}・「急々如律令」などの文字が梵字・五芒星・九字・六星などと共に書かれている。これら木簡は、道教・仏教(密教)・陰陽道・宿曜道などの様々な宗教が融合した当時の習合思想がわかる資料として注目される(図2)。遺跡からは、正応4(1291)年・延慶3(1310)年の年代を記した茅札や、立ったままの柱や敷物が敷かれた建物跡、大量の木製品が検出された^{注2}。

宗教史は複雑で難しいが、陰陽寮など国家が行っていた天体観測から派生した方位信仰や日食・月食などの天変地異を如何に解釈するかということに由来するものが多い[村山1987]。明治以降、国家神道を推進するいわゆる神仏分離令によって宗教が神と仏に単純化されたが、江戸時代以前は様々な宗教が習合した状態にあった。牛頭天王信仰もそのような信仰の一つだった。

明治元(1868)年の神仏分離と続く明治3(1870)年の陰陽寮の廃止の影響で、疫病除けの神が牛頭天王からスサノオノミコトに替えられた。今では忘却されている感があるが、現在も各地で行われている祇園祭・蘇民将来符・茅の輪くぐりなども本来は疫病除けに行われていたもので、元は牛頭天王信仰に由来するものであった。企画展では、このような牛頭天王信仰の起源が、馬場屋敷遺跡などの古代・中世の呪符木簡に辿れることを解説した。

展示構成

- 1) 馬場屋敷遺跡の祭祀遺構
- 2) 今に伝わる蘇民将来・牛頭天王信仰
牛頭天王・祇園社・

八坂神社・天王様信仰、県内の天王社・天王堂、鍾馗、茅の輪くぐり

3) 古代・中世の疫病(疫病の歴史)

疫病の流行と改元理由、『古事略決』からみた病と呪い、『新潟新聞』明治12年のコレラ流行と疫神送り、カンジョウツリ、韓国の民俗事例

4) さまざまな牛頭天王・蘇民将来説話

「祇園」『色葉字類抄』、「備後国風土記逸文」『积日本紀卷7』、『三国相伝陰陽輶轄篋内伝金烏玉兔集』、「祇園大明神事」『神道集 東洋文庫本』、信濃国分寺『牛頭天王之祭文』、「祇園牛頭天王縁起」『続群書類従巻第55』、「祇園社 廿二社註式」『群書類従巻第22』、『増補諸宗佛像図彙』に見る祇園大明神・牛頭天王・素戔鳴尊の習合、天刑(形)星・牛頭天王の習合、二十八宿の牛宿、『日本書紀』と韓国春川市牛頭山

5) 陰陽道の歴史と神仏分離

陰陽寮、天文観察、古墳壁画の天文図、格子月進図、陰陽道に由来する季節ごとの行事、『阿部晴明篋内伝図解』、明治元年布告「礼拝対象についての神仏分離」『法規分類大全 社寺門』、明治3年太政官布告「天社神道禁止」、明治39年勅令「神社寺院仏堂合併跡地ノ譲与二関スル件」

6) 忘れられた牛頭天王

新潟県内のスサノオノミコト・牛頭天王を祭神とする神社・仏堂一覧 明治16年『新潟県神社仏堂明細帳』より作成:331件。合祀前は阿賀北65件と多い。山北町15、新発田市10、豊浦町8、村上市7、

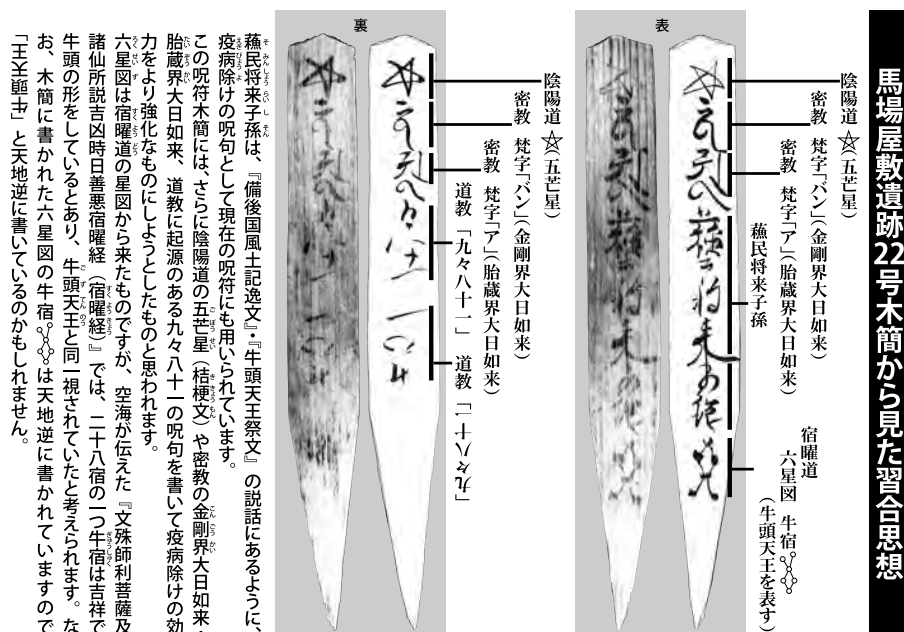


図2 馬場屋敷遺跡22号木簡から見た習合思想

神林村7件など。ほかには新津市9、和島村8、柏崎市8件など河川・海岸沿いが多い傾向にある。

7) 古代・中世の形代

新潟市の場遺跡・馬場屋敷遺跡・小坂居付遺跡・浦廻遺跡出土祭祀遺物など。

8) 古代・中世の呪符木簡

新潟県内出土の呪符木簡の集成(約80点)と分類を行った。Ⅰ類:長軸6~12cmで、上に切り込みや穴(孔)が開けられ「蘇民将来子孫也」と簡単な文字を書くもの。裏面には呪句は書かない。一本杉遺跡・腰廻遺跡・馬場屋敷遺跡など。『祇園大明神事』にあるように「首を五角形に削る」ものもある。切り込みが2段になることも特徴。説話にあるように、身に着けるには適した大きさ・形状。Ⅱ類:「蘇民将来子孫(也)」と簡単な文字を書くが、長軸17cm以上と大きい。切り込みや穴(孔)は開けられない。寺前遺跡・綾ノ前遺跡など。Ⅲ類:「蘇民将来子孫」とともに、梵字・五芒星・九字・六星図が書かれるもの。「首を五角形に削る」圭頭状になるものが一般的。切り込みが2段になるものもあるが、穴(孔)は開けられない。長軸25cm以上と大きい。両面に呪句が書かれる。馬場屋敷遺跡など。25号木簡は唯一「蘇民将来」と「急々如律令」が併記されるもので長軸両端は削らない。Ⅳ類:「急々如律令」が書かれるもの。長軸18~35cmとサイズは様々。原則として文字の上に符籙が書かれる。裏面に呪句は書かれない。浦廻遺跡・馬場屋敷遺跡など。

9) まじないの秘書

呪符とは、木や竹・紙・石などに呪的な文字や記号・絵などを記した札である。「蘇民将来子孫」・「急々如律令」・「九々八十一」・「八九七十二」の文字や、鬼・尸を重ねあわせた符籙、五芒星・九字などの記

号、梵字・名号などが書かれている。呪符は、中世から近世にかけて、道教・陰陽道・修験道・仏教(密教)などさまざまな宗教が習合して、民間に広まった。特に、江戸時代には主に民間の陰陽師や修験者などによって流布した呪法書が各種残され、出版もされている。今回の企画展では、古代・中世の遺跡から出土した呪符木簡に書かれた呪いの意味を解明したいと考え、『まじない秘伝』・『邪凶呪禁法則』・『呪詛調法記』などの近世から現代の呪法書を多数調べたが解明できなかった。ただし、牛頭天王説話にある「蘇民将来子孫」は全て、「急々如律令」を記したものの一部は、疱瘡などの疫病除けの呪符と考えて間違いないであろう。全国の遺跡出土の蘇民将来木簡63点中、新潟県内での出土点数は23点で37%にもなり、全国で最も多い。

10) 文献に掲載された馬場屋敷遺跡の木簡

図録などに載った馬場屋敷遺跡の木簡を紹介

主要展示 展示構成で記したものは図・写真や説明文としてパネルで示した。また、企画展開催のきっかけとなった馬場屋敷遺跡については、串を廻らして結界を作り中で火を焚いている特殊遺構について『春日権現靈驗記』の「法師陰陽師」の場面との類似性を指摘。京都八坂神社の祇園祭や各地の祇園祭、新潟県内の牛頭天王信仰、茅の輪くぐり、阿賀野川沿いのツツガムシ病除けの天王様信仰などの民俗例をパネルで紹介し、元は同じ疫病除けの神である牛頭天王信仰に由来していることを説明した。また、現在も行われている蘇民将来符・茅の輪などの民俗資料を奈良女子大学武藤康弘氏より借用して展示した。平安時代末期から室町時代末期にかけての牛頭天王・蘇民将来説話については写真・釈文・現代語訳をパネルで紹介し、登場人物や呪符の形態・装着方法などを表にまとめ(表6)、出土木簡との対比を行った。

表6 蘇民将来・牛頭天王に関する説話の登場人物と呪符の形態、装着方法など

説話	本国の名称	主人公	蘇民将来	巨旦将来	防ぐもの	助命対象	呪符の形態、装着方法	減はずもの	后	その他	備考
「祇園」 『色葉字類抄』 平安時代末期	天竺北方九相国	牛頭天王 武塔天神							沙彌羅龍王女 薩迦陀比	八王子	
「備後国風土記逸文」 『釈日本紀巻7』 鎌倉時代後期	北の海	武塔の神 速須佐能神 ※牛頭天王は登場しない	兄の蘇民将来	弟の将来	疫女	蘇民の女子とその姉	「蘇民将来の子孫」 茅の輪を持ちて腰の上に着けしめよ	蘇民の女子一人以外皆悉	南の海の神の女子	八柱のみ子	
「三國相伝除障輪籠 豊盛内伝金烏玉兎集」 鎌倉時代初期 ~室町時代初期	北天竺の摩訶陀国の靈鷲山の東北、 波戸那城の西にあたる 吉祥山の麓にある王舎城	商賈帝 天崩星 牛頭天王 疫神	蘇民将来	夜叉国 巨旦大王 鬼王		巨旦大王の女奴隷 蘇民将来の子孫	桃の木を削って札を作り、「急々如律令」の呪文を書き、札を女の袂に入れる	巨旦の一族	沙彌羅という龍宮 三女 顔樂采女	八王子	陰陽道
「祇園大明神事」 『神道集 東洋文庫本』 南北朝時代	北海の婆娑帝國の 北陰法界自在国	牛頭天王 武塔天神等の部類 天形星 祇園大明神 乘師如來 疫病神	蘇民将来	巨端将来	疫病 惡神	蘇民将来の娘で 巨端将来の姉 右前は端娘女、蓮華女 波利采女 十一面觀音	楯の木へ削した枝を四角に札に削り、 首を五角形に削り、 「蘇民将来の子孫」という文字を書付け、 楯の肩に着ける 蘇民将来の子孫と名乗る者	巨端将来	龍王の5人の娘 二女 波利采女	八王子	本地垂迹
信濃国分寺 『牛頭天王之祭文』 文明12(1480)年書写	須弥山の北にあるケイロ界	武塔天神の御子 牛頭天王 厄病神	蘇民将来	小丹長者 古丹長者	邪氣 怨靈 呪詛	蘇民将来の子孫	楯の木札を作り、「蘇民将来の子孫」と書いて 男は左側、女は右側にかける	小丹将来の一族	釈迦羅龍宮の姫君 婆梨采女	八王子	
「祇園牛頭天王縁起」 『読群書類従巻第55』	須弥半腹 豊饒国	武塔天王の太子 牛頭天王 乘師如來 素戔嗚尊	蘇民将来	古端長者		蘇民将来娘乙姫一人	茅輪、赤相續を作る 「蘇民将来の子孫」の札を帯に付ける	古端長者、巨端 巨端及従類等	湖羅龍王女 三女 婆梨采女	八王子 七男一女 本地仏を示す	本地垂迹
「祇園社 廿二社詠式」 『群書類従巻第22』 室町時代末期	北海	武塔神 牛頭天皇 天降神 進徳尊垂迹 速須佐能神	蘇民将来	巨旦将来	疫女	蘇民の女子	茅輪を作り、腰の上に着ける 「蘇民将来の子孫」といって、茅輪を腰に着ける	皆	本御前 奇稲田媛垂迹 天神婆利采女 少符井	八王子 八柱子	本地垂迹

『新潟県神社仏堂明細帳』から牛頭天王・スサノオノミコトを祭神とする神社・仏堂を抽出し、一覧表を作成し分布状況を図示した。

新潟県内の呪符木簡を集成し、保存処理作業中や所在が確認できないものを除く、80点の呪符木簡を各自治体より借用し、赤外線写真・釈文と共に展示した(表7)。また、今回の展示には生かせなかったが、県内の呪符木簡の分類作業の基礎作業として、『木簡研究』や報告書掲載の全国出土の呪符木簡の集成・分類作業を行った。

関連講演会 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 中世越後の信仰生活
 講 師 水澤幸一氏(胎内市教育委員会)
 日 時 平成29年11月3日(木・祝)
 午後1時30分～3時30分
 会 場 新潟市文化財センター
 参加者数 44人

企画展では特に蘇民将来・牛頭天王信仰に注目して展示を行ったが、中世越後の信仰生活について広い視点での講演を依頼した。講演では最初に古代のまじないとして、祓い(齋串・人形・絵馬・土馬・人面墨書土器・焼けた礫)、井戸祭祀(井戸から出土する土器、炭化物層)、地鎮、経塚などがあり、竈神から土広、弥勒信仰から阿弥陀信仰についてかわることが説明された。次に中世のまじないとして、出土木簡に書かれた符籙・五芒星・九字切・六星・

梵字からこれらが宿曜道・密教・道教に関わること。咄吠罌・蘇民将来・大般若経転読・九々八十一・急々如律令なども書かれていることが紹介された。地鎮、井戸鎮め、『色部氏年中行事』にある巻数板つりについて説明され、長軸80cm程の巻数板つりそのものが発掘調査で見ついていることを示された。また、馬場屋敷遺跡(下層)・小坂居付遺跡・浦廻遺跡の旧白根市内の3遺跡の類似点と相違点。関山石仏群・五輪塔・板碑などの中世石造物についての説明があった。

ま と め 南区(旧白根市)からの来館者が多く見受けられた。地元にある貴重な文化財について再認識されたようだった。信濃川・中ノ口川に囲まれて沖積地が広がる南区では周知の遺跡が少ないが、遺跡が発見されると馬場屋敷遺跡・浦廻遺跡・小坂居付遺跡のように木製品が多量に出土し、当時の生活の様子がわかる重要な遺跡が発見されることが多い。市内でも注目される地域である。(渡邊朋和)

注1 出土木簡は全て「蘇民将来」と書かれているため、蘇を用い、説話・民俗資料の場合は「蘇民将来」を用いて区別した。

注2 小林弘も馬場屋敷遺跡出土木簡の六星を六星図と関連づけている[小林2005]。

表7 新潟県内出土呪符木簡一覧

通番	木簡番号 報告番号	遺跡名	市町村	釈文	展 示
1		城田遺跡	村上市	唯天聖 人面相	○
2		中倉遺跡	胎内市		○
3		草野遺跡	胎内市	九々八十一	○
4	1	砂山中道下遺跡	新潟市	天? 南无大日如来 忌?	○
5	2	砂山中道下遺跡	新潟市	バン 南无 ☆	○
6	3	砂山中道下遺跡	新潟市	符籙 急々如律令	○
7	5	砂山中道下遺跡	新潟市	バン 南无大日	×
8	9	砂山中道下遺跡	新潟市	符籙「山鬼」 急々如律令	○
9	15	砂山中道下遺跡	新潟市	符籙?	○
10	16	砂山中道下遺跡	新潟市	天刑星? 急々如律令	○
11		野中土手付遺跡	新潟市	子子急	○
12		小島西遺跡	新潟市	符籙	○
13		空毛遺跡	新潟市	符籙	○
14		空毛遺跡	新潟市	符籙	○
15		妻ノ神遺跡	新潟市	符籙 急々如律令	×
16		志本杉遺跡	阿賀野市	蘇民将来子孫也	○
17	4	慶徳遺跡	阿賀野市	蘇民将来子孫也 四星	○
18	5	慶徳遺跡	阿賀野市	蘇民将来 七星	○
19	6	慶徳遺跡	阿賀野市	符籙	○
20	7	慶徳遺跡	阿賀野市		○
21	8	慶徳遺跡	阿賀野市		○
22	9	慶徳遺跡	阿賀野市		○
23	10	慶徳遺跡	阿賀野市		○
24	11	慶徳遺跡	阿賀野市		×
25	12	慶徳遺跡	阿賀野市		○
26	13	慶徳遺跡	阿賀野市	符籙	○
27	14	慶徳遺跡	阿賀野市	唯天聖? 符籙	×
28	15	慶徳遺跡	阿賀野市	? 牛頭天王	○
29	16	慶徳遺跡	阿賀野市		○
30		沖ノ羽遺跡	新潟市	符籙	○
31		大沢谷内遺跡	新潟市	☆?	○
32		竊立C遺跡	新潟市	符籙「鬼」 急々如律令	○
33		竊立C遺跡	新潟市	符籙「鬼」 急々如律令	○
34		相納館跡	新潟市	唯天聖 如律令	○
35	44	浦廻遺跡	新潟市	符籙「山鬼 尸」 急々如律令	○
36	48	浦廻遺跡	新潟市		○
37	49	浦廻遺跡	新潟市	符籙「山鬼」 急々如律令 門立	○
38	50	浦廻遺跡	新潟市	符籙「山 尸」 急々如律令	○
39	51	浦廻遺跡	新潟市	符籙「尸」 急々如律令	○
40	52	浦廻遺跡	新潟市	梵字 五星 符籙「尸」 急々如律令 出所	○
41	53	浦廻遺跡	新潟市	梵字 急々如律令 にし	○
42	54	浦廻遺跡	新潟市	符籙「日 尸」 急々如律令	○
43	55	浦廻遺跡	新潟市	符籙 ☆	○
44	56	浦廻遺跡	新潟市	人面相 ☆	○
45	9	馬場屋敷遺跡	新潟市	蘇民将来子孫也	○
46	11	馬場屋敷遺跡	新潟市	符籙「山鬼」 急?	○

通番	木簡番号 報告番号	遺跡名	市町村	釈文	展 示
47	12	馬場屋敷遺跡	新潟市	符籙「山鬼」	○
48	21	馬場屋敷遺跡	新潟市	符籙「山 鬼」 符籙 急々如律令 門立 いたすところ	○
49	22	馬場屋敷遺跡	新潟市	☆ バン ア 蘇民将来子孫也 六星 ☆ 九々八十一	○
50	23	馬場屋敷遺跡	新潟市	☆ 蘇民将来子孫也 六星 九々八十一 ☆ バン ア	○
51	24	馬場屋敷遺跡	新潟市	☆ 蘇民将来子孫也 六星 九々八十一 九々八十一	○
52	25	馬場屋敷遺跡	新潟市	九字 符籙「尸 鬼」 急々如律令 南无大日如来 南无蘇民将来 大門	○
53	26	馬場屋敷遺跡	新潟市	☆ 蘇民将来子孫也 六星 九々八十一 ☆ バン ア 九々八十一	○
54	27	馬場屋敷遺跡	新潟市	☆ バン ア 符籙「日 尸 鬼」 鬼 九々八十一	○
55	28	馬場屋敷遺跡	新潟市	☆ 蘇民将来子孫也 六星 バン ア 九々八十一	○
56	29	馬場屋敷遺跡	新潟市	蘇民将来子孫也 ☆	○
57	31	馬場屋敷遺跡	新潟市	符籙「日 尸」 急々如律令	○
58	32	馬場屋敷遺跡	新潟市	符籙「日 尸」 急々如律令 丑門立	○
59	33	馬場屋敷遺跡	新潟市	五星 符籙「鬼」	○
60	34	馬場屋敷遺跡	新潟市	符籙「尸 鬼」	○
61	35	馬場屋敷遺跡	新潟市	☆ バン バン バ? ☆ 符籙「月」 六星	○
62	37	馬場屋敷遺跡	新潟市	符籙「日 尸」 急々如律令? 南无	○
63	38	馬場屋敷遺跡	新潟市	バン ア 九々八十一 六星 九々八十一	○
64	39	馬場屋敷遺跡	新潟市		○
65	42	馬場屋敷遺跡	新潟市		○
66	8	小坂居付遺跡	新潟市	出天閑 符籙「鬼?」 ☆	○
67		舞臺遺跡	加茂市	鬼 急々如律令	○
68		綾ノ前遺跡	三条市	蘇民将来 ☆	○
69		綾ノ前遺跡	三条市	蘇民将来子孫也 七星 ☆	○
70		新堀村下遺跡	三条市	蘇民将来之 急々如律令	○
71	462	北小島遺跡	燕市	賀徳式年 裏面が呪符?	○
72	460	北小島遺跡	燕市	五星 符籙	○
73	761	北小島遺跡	燕市	蘇民将来子孫也	○
74	763	北小島遺跡	燕市	蘇民将来子孫也?	○
75	518	山田郷内遺跡	長岡市	符籙「」 急々如律令 家々之百鬼打返	○
76	519	山田郷内遺跡	長岡市	バン 符籙「」 急々如律令	○
77	521	山田郷内遺跡	長岡市	符籙「尸?」 急	○
78	520	山田郷内遺跡	長岡市	符籙「」	○
79		大武二遺跡	長岡市	符籙「尸 鬼」 急々如律令	○
80	267	大武遺跡	長岡市	符籙「日 月」 急々如律令	○
81	241	寺前遺跡	出雲崎町	蘇民将来ノ子孫也 蘇民将来ノ子孫也	○
82	240	寺前遺跡	出雲崎町	蘇民将来ノ子孫也	○
83	242	寺前遺跡	出雲崎町	蘇民将来ノ子孫也 蘇民将来ノ子孫也	○
84	139	小木城下館跡	出雲崎町	唯天聖 急々如律令	×
85		香湯遺跡	出雲崎町	符籙「」 急々如律令	○
86		隈町遺跡	柏崎市	☆蘇民将来子孫	×
87	295	下沖北遺跡	柏崎市	蘇民将来	○
88		寺町遺跡	上越市	バ 蘇民将来子孫人家也 ☆	×
89	1046	山岸遺跡	糸魚川市	符籙「」	○
90	990	山岸遺跡	糸魚川市	符籙「」	×
91	153	六反田南遺跡	糸魚川市	?	×

※釈文は省略している

(5) 企画展 4「新潟市の遺跡から見える律令時代
—八・九世紀の新潟市—」

会 期 平成29年1月17日(火)～3月26日(日)
担 当 本間敏則
入館者数 2,162人

展示概要 8世紀初頭に国家統治の基本となった律令制度が完成した。長く日本の政治に影響を与えることになった律令制度の仕組みを解説するとともに、市内の官衙に関連する遺跡や遺物を紹介した展示である。

文献や遺跡から「律令」という仕組みが、当時は辺境であった越後国にまで浸透していたことがうかがえる。また、入館者にとって、学校などの歴史授業で学習した「律令」と我々が住む新潟が関連する展示を目指した。

展示構成

- 1) 改新の詔・越後国の郡と郷・古代の統治機構
- 2) 越後に課せられた税
- 3) 的場遺跡－官衙に関連する遺構・遺物
- 4) 的場遺跡墨書土器
- 5) 緒立遺跡－律令祭祀
- 6) 山木戸遺跡・四十石遺跡
- 7) 古代遺跡をめぐる最新の話
- 8) 林付遺跡－律令制度の崩壊と荘園

主要展示 1)・2)では導入として律令制度について行政区割り・税制を中心にパネルで解説を行った。

市内の官衙関連の遺跡紹介では、主到的場遺跡と緒立遺跡に重点を置き、役人がいたことを示す帯金具や木沓、「杵人鮭」の木簡のほか、律令祭祀の遺物と考えられる緒立遺跡の人面墨書土器やサイコロを展示した。木簡については、資料保護の観点から期間限定で1か月間実物を展示し、それ以外の期間ではレプリカでの展示を行った。また大形ケースでは、的場遺跡で出土した墨書土器153点を展示した。なお、的場遺跡の墨書土器総点数は350点で県内でも3番目に多い。

7)では、「的場遺跡は鮭漁だけでなく紡織の拠点であった」や「西蒲原の8世紀初頭の遺跡数の増加は、頸城からの集団移民」、「古代の渡戸駅は西区にあった」などの最近発表された論文をパネルで紹介した。

関連講演会 企画展の関連講演会を1回開催した。

演 目 「律令時代の新潟市域」
講 師 春日真実氏
((公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団)
日 時 平成29年3月12日(日)
午後1時30分～午後3時30分
参加者数 70人
県内の古代研究の第一人者である春日真実氏の講演会

を行った。講演会では7世紀から9世紀にかけての古代の蒲原郡について、集落や土器生産・紡織・漁労などの産業と政治勢力の関わりについて、発掘調査成果を基に講演していただいた。

展示解説 講演会終了後に展示担当による展示解説を行った。

入館者の声 「的場・緒立遺跡木簡の実物を見ることができ、実物の迫力にとっても感動した」、「出土した資料からの時代分析はよくわかったが、もっと中央との関連について知りたかった。次回に期待したい」などの意見があった。

ま と め 市内では、淳足柵の場所推定地をはじめ古代越後国についての関心が高く、今回の展示にも非常に熱心な見学者が多かったように思う。また、西蒲区の下新田遺跡や島灘瀬遺跡などここ数年の発掘調査でみづかった最新資料を展示に活用できた。

課題として木簡や墨書資料の実物展示があげられる。木簡などの資料は保存処理を行っているが、多少の経年劣化は免れない。実際に木簡の展示では、光量を100ルクス以下にしたり、展示期間の制限を行ったり木簡の劣化を抑える対策を行ったが、劣化が進む木簡の取扱いには細心の注意が必要である。実物展示は、見学者から好評をえたが、木簡の劣化を最低限に抑え、後世へ遺物を残すことと資料を広く市民に公開する活用の両立の難しさを感じた。
(今井さやか)



(6) 館外展示1 「江南区発掘物語」

会 期 平成28年8月3日(水)～8月24日(水)

会 場 江南区郷土資料館

担 当 今井さやか

入館者数 1,350人

展示概要 広域合併から11年が経過し、新しい行政の枠組みで多くの発掘調査が行われ、新潟市の歴史を考える上で重要な発見も多くあった。本展では、これまで江南区内で発掘調査された遺跡を遺物と写真パネルで紹介した。

展示構成

- 1) 亀田砂丘の遺跡 縄文～弥生時代
- 2) 駒首潟と鶉ノ子潟
- 3) 下郷南遺跡の中世陶器
- 4) 日水遺跡の古墳時代中期須恵器
- 5) 笹山前遺跡のミニチュア土器
- 6) 日水南遺跡の一字一石経
- 7) 縄文土器の文様

主要展示 1)では亀田砂丘上でこれまで発掘された城山遺跡・中山遺跡・駒込小丸山遺跡・砂崩遺跡などの出土遺物を時代順に紹介した。

また、潟のへりに立地する駒首潟遺跡の展示では、現在では姿を消してしまった江南区内の潟について明治時代の地図などで紹介した。

このほか、下郷南遺跡の中世陶器や日水南遺跡の一字一石経など、これまで展示を行わなかった江南区内出土の遺物を展示した。

展示解説 展示担当による展示解説を行った。参加者のほとんどが江南区内の人で、地域の歴史への関心の高さがうかがえた。

日 時 平成28年8月4日(木)

午前10時00分～午前11時00分

参加者数 10人

ま と め 展示解説パンフレットを設置し、パンフレット内に展示した遺跡の位置図を掲載したが、「遺跡の場所がわからない・表示して欲しい」という意見が複数あり、今後の展示の課題となった。(今井さやか)

(7) 館外展示2 「赤塚の遺跡」

会 期 平成28年11月6日(日)

会 場 西区赤塚中学校体育館

主 催 佐潟ラムサール条約登録20周年記念事業
実行委員会

担 当 今井さやか

参加者数 1,500人

展示概要 佐潟ラムサール条約登録20周年記念事

業として、佐潟の自然・歴史環境を紹介する展示ブースを赤塚中学校体育館に設けることになり、文化財センターとして赤塚地域の藪遺跡・四十石遺跡・前田遺跡の遺物と写真パネルを展示した。特に藪遺跡については、平成元年に行われた発掘調査に地元の方が多く参加していることから、発掘調査の作業風景写真や当時発掘現場で発行していた「藪遺跡調査新聞」などを展示した。

講演会・展示解説会 展示の関連講演会を行った。

演 目 赤塚水辺の古代遺跡

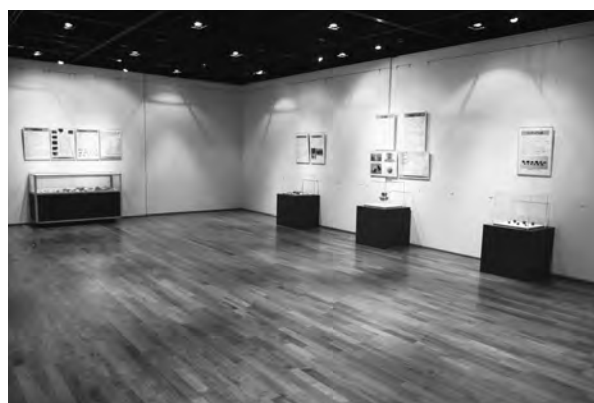
講 師 相田泰臣

午前10時30分～午前11時30分

講演会の後、講師が引き続き展示解説会を開催した。

ま と め 赤塚地域では「赤塚郷土研究会」や「赤塚・中原邸保存会」などの民間団体が活動しており、歴史への興味・関心が高い。今回の展示・講演会をきっかけに、このような団体と協働する話があがっており、今後協力して行う歴史系イベントを考えていきたい。

(今井さやか)



展示風景 (江南区発掘物語)



展示風景 (赤塚の遺跡)

6 教育普及活動

(1) 公開講座

文化財は地域の成り立ちなどを知る上で重要な役割を担っている。文化財センターでは市民が地域の歴史や文化に対する理解を深められるように、収集している考古資料及び民俗資料を積極的に公開・活用し、様々な講座・体験イベントを実施している。以下、平成28年度に実施した公開講座の概要について述べる(表8)。

講座 考古学と民俗学関連の講座を行った。考古学関連の講座では企画展の内容に関連した講座を行った。詳細は各企画展の頁を参照いただきたい。民俗学講座については、新潟県民俗学会の会員を講師に招き2回の講座を行った。

また、観察再現講座と題して遺物を観察し、当時の技術と工夫を体感する講座を開催した。平成28年度も引き続き縄文土器を観察して再現する講座を年2回行った。

体験イベント 子ども向け歴史体験「縄文土器づくり」・「文化財センター仕事体験」を夏休みに開催した。いずれも5年継続している定番事業である。

旧武田家住宅を会場に地域の方々との交流を目的としたイベントとして、「旧武田家住宅で民具とお茶を楽しむ会」と「民具と民話を楽しむ会」を開催した。

また、昨年度新規事業として開講した「高機で裂き織り体験」が好評だったため、7月と12月の2回開催した。

表に記載はないが、10月2日(日)に西区地域課が主催する「ふれふれ西区ふれあいまつり」に文化財センターのブースを設けて「ドキドキ弓矢体験」を行い580人が体験を行った。

速報会 平成28年度の遺跡発掘調査速報会では、講演の部に津南町苗場山麓ジオパーク推進室長の佐藤雅一氏を招き、「埋蔵文化財保護から総合文化財保護への過渡的思考－縄文文化から学ぶ生活史の知的魅力－」と題して講演いただいた。

出前講座・職員派遣 文化財センターでは、研究団体、地方自治体、市民団体などへ依頼に応じて職員派遣を行っている。平成28年度は、庁内のほかの部署からの依頼で講座や遺跡見学ツアーの同行といった利用が目立った。また、学校利用においては、3学年の「昔のくらし」において出前授業を7件、6年生の「歴史学習」の出前授業を1件行った。特に3学年の出前授業については、年々依頼件数が増加している。

(2) 施設利用

文化財センターでは、展示見学のほかに「体験コーナー」として研修室の一部を使用して新潟や埋蔵文化財に関連した体験学習ができる場所を設けている。体験コーナーでは、「開館時間中であれば、いつでもだれでも予約なしでできる個人向け体験」と、「予約をいただいた団体向けの体験」の2種類がある。いずれも材料費相当のみ負担をしていただいている。また、無料の体験として新潟市などから出土した土器を基に製作した「土器パズル」が5点ある。

季節限定体験としてゴールデンウィークと夏休み期間は火起こし体験を行い、前年好評だった裂き織り体験を7月と12月に行った。また、土器づくり・土鈴づくりも9・10月、翌1・2月に行い、前年度よりも体験機会を増やした。その結果、火起こし体験が352名(前年度294名)、裂き織り体験が102名(前年度48名)、土器づくりが102名(前年度40名)と参加者数が大幅に伸びた。

また、旧武田家住宅及び体験広場(芝生)の貸出(有料)を行っている。利用状況は表11のとおりである。

(3) 入館者数

文化財センターの入館者数は表12のとおりで12,630人である。平成27年度に比べておよそ557人増加した。団体利用の増加と、平成28年度から弥生の丘展示館の企画展関連講座・講演会(全4回)の会場を文化財センターへ変更したことが要因として考えられる。

入館者のアンケートからは、「入館者が少なくもったいない」、「もっと体験メニューを拡充して欲しい」、「広域農道側に入口看板を設置して欲しい」などの要望やご指摘をいただいた。アクセス経路への要望は、多くの方から寄せられている。また、少ないながらも「職員の接客態度が悪い」という意見があり、意見を受けて速やかに改善を図った。

平成28年3月末までの開館からの累計入館者数は68,012人である。

(4) 団体見学・施設見学

小学校や子ども会などの子どもが主体の団体では、見学だけではなく体験活動を組み込むことが多い。特に小学校では社会科の授業として4・5月には6学年の歴史で、11・12月は3学年の「昔のくらし」の学習で利用する傾向にある。平成28年度では、小学校・中学校の利用は32校で平成27年度よりわずかに増加した。社会科の授業以外では、総合学習で利用する学校もある。総合学習では地域の水害史や地名の由来といった地域史的内容での授業や木場周辺でのまち歩きを依頼されることがある。(今井さやか)



「七夕がたり」(旧武田家住宅)



平成28年度新潟市遺跡発掘調査速報会



「文化財センター仕事体験 君も考古学者」



小学校3学年団体利用(綿きり体験)

(5) 資料利用

A 手続きに関する条例・規則

特別利用許可 文化財センター内で考古資料の熟覧・実測・撮影などを行う場合:『新潟市文化財センター条例』及び『新潟市長から委任を受けた新潟市文化財センター管理に関する規則』により許可申請書を新潟市教育委員会宛に提出する。

貸出許可 考古資料の寄託・借用・貸出などをする場合:『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』により許可申請書などを新潟市教育委員会宛に提出する。

寄附申込 考古資料の寄附申込みをする場合:『新潟市物品管理規則』により物品寄附申込書を新潟市長宛に提出する。

民俗資料 民俗資料の利用・貸出をする場合:『新潟市物品管理規則』により許可申請書を新潟市長宛に提出する。

なお、分析資料提供・掲載許可手続き、写真データの提供及び掲載許可申請については『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』で対応している。

B 利用件数

以下、平成28年度の各利用件数について記す(表14)。

特別利用許可 考古資料に関して熟覧・実測・撮影の利用件数は4件(前年度比8件減)である。

貸出許可 考古資料と民俗資料の貸出許可は、博物館などでの常設展示に伴う年度単位の貸出と企画展などの短期間の貸出がある。前者では次年度も引き続き貸出を希望する場合は年度ごとに手続きを行っている。公民館などでは地域の歴史に親しみを感じてもらふ観点からその地域の遺跡から出土した遺物の貸出を行っている。資料の貸出期間などは『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』に規定されている。常設展示に伴う長期貸出6件(前年度比同)、企画展などに伴う短期貸出5件(前年度比4件減)である。

掲載許可 文化財センターが保管する写真や報告書などの掲載資料の提供を希望する場合や申請者が貸出を受けて撮影したものを印刷物などで使用する場合がある。利用件数は12件(前年度比7件減)であった。

寄附申込 採集資料を個人より1件受理した(前年度比1件増)。(相澤裕子)

表14 平成28年度資料対応件数一覧

考古資料

特別利用許可

件数	申請者	資料	点数 (点)	来館日	備考
1	岩手大学教育学部 佐藤由紀男	古津八幡山遺跡 石斧	1	2016/6/24 (金)	弥生時代の磨製石斧研究
2	新潟市歴史文化課 埋蔵文化財担当 諫山えりか	近世新潟町跡 陶磁器・木製品	3箱・ 水槽1槽	2016/7/5 (火)	下水道工事立会打ち合わせ時の参考
3	個人	沖ノ羽遺跡 他 木製品・石器	4	2016/7/7 (金)	「民俗考古学的研究方法」の樹立に関する研究のため
4	東日本古墳確立期土器検討会 事務局 滝沢規朗	葛蒲塚古墳・年人塚古墳 他 土器	36	2016/7/30 (土)	調査・研究
5	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 理事長 池田幸博	下前川原遺跡 他 木製品	20	2017/1/25 (水)	発掘調査報告書作成にかかる資料調査

貸出許可

件数	申請者	資料	点数 (点)	貸出期間	備考
1	医療社団法人幸人会 理事長 阿達敏幸	諏訪畑遺跡 土器	5	2016/4/1 (金) ～2017/3/31 (金)	常設展示
2	新潟市江南区郷土資料館 市長 篠田 昭	砂崩遺跡 他 土器 他	51	2016/4/1 (金) ～2017/3/31 (金)	常設展示
3	新潟市北区郷土博物館 館長 宮崎芳春	鳥屋遺跡 土製品・石器 鳥屋遺跡 土器レプリカ	23 12	2016/4/1 (金) ～2017/3/31 (金)	常設展示
4	新潟市長 篠田 昭 (担当 西蒲区役所地域課)	茶院A遺跡 土器 他	8	2016/4/1 (金) ～2017/3/31 (金)	常設展示
5	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	笹山前遺跡 他 土器 他 的場遺跡 土錘・石錘 的場遺跡 レプリカ 近世新潟町遺跡 陶磁器・泥面子	84件 48 54 27	2016/4/1 (金) ～2017/3/31 (金)	常設展示
6	石油の世界館 新潟市長 篠田 昭	原遺跡 土偶・石鏃	10	2016/4/1 (金) ～2017/3/31 (金)	常設展示
7	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	古津八幡山遺跡 他 土器・陶磁器	31	2016/4/26 (火) ～2017/3/31 (金)	常設展示
8	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 理事長 池田幸博	鳥屋遺跡 貝類	17袋	2016/12/7 (水) ～2017/1/31 (火)	研究紀要に掲載する研究論文を作成するにあたり観察等を行う
9	信濃川火焔街道連携協議会 監事(新潟市長) 篠田 昭	秋葉遺跡 王冠型土器 他	10	2016/12/6 (火) ～2017/2/10 (金)	特別展「火焔型土器のデザインと機能」展示
10	三条市長 國定勇人	秋葉遺跡 王冠型土器	1	2017/2/10 (金) ～2017/4/17 (月)	平成28年度さんじょう遺跡物語展示会 「遺跡発掘調査速報展2017+日本遺産「なんだ、コレは！」」展示
11	弘前大学人文社会科学部 学部長 今井正浩	大沢谷内北遺跡 他 漆塗り櫛 他	10	2017/2/27 (月) ～2017/3/9 (木)	X線CT装置などを使った漆製品の分析

掲載許可

件数	申請者	資料	点数 (点)	許可日	備考
1	個人	御井戸遺跡 剣物出土状況写真	1	2016/5/12 (木)	林業にいがた平成28年6月号掲載
2	株式会社ベネッセコーポレーション 著作権申請窓口担当部長 小林圭一郎	大沢谷内遺跡 九九木簡赤外線写真データ	1	2016/5/27(金)	中学生向け通信教育教材に問題資料の一部として掲載
3	黒崎南ふれあい協議会 会長 大谷一男	緒立八幡神社古墳 写真データ	1	2016/5/27(金)	黒崎観光史跡めぐりガイドマップ掲載
4	新潟県教育庁文化行政課 課長 牛藤 明	古津八幡山遺跡 空中写真データ	1	2016/6/21 (火)	JR東日本「駅からハイキング」2016年10・11・12月号パンフレット掲載
5	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 理事長 池田幸博	的場遺跡 銭貨出土状況写真データ	1	2016/6/21 (火)	企画展「新潟県埋蔵文化財センター開館20周年記念新潟県指定考古資料展」 において展示パネルに使用 企画展関連講演会「木崎山出土地鎮具一人びとの願いと畏れ」 においてパワーポイント等に使用
6	株式会社ベネッセコーポレーション 小学生事業本部 教科外・保護者情報部 部長 松澤拓也	大沢谷内遺跡 九九木簡赤外線写真データ	1	2016/8/3 (水)	チャレンジ2年生10月号「チャレ友クラブ」にて 「九九の由来」を解説するコーナーで昔の人の九九を紹介
7	株式会社悠工房 代表取締役 清水権善	大沢谷内遺跡 九九木簡赤外線写真データ	1	2016/8/3 (水)	中学生用学習図書『マイクリア社会』、『デジタルマイクリア社会』に掲載
8	株式会社アム・プロモーション 代表取締役 横山光衛	角田沖海揚がり縄文土器 写真データ	1	2016/8/9 (火)	「縄文カレンダー2017」掲載
9	学校法人河合塾 理事長 河合弘登	的場遺跡 木簡写真データ	1	2016/9/15 (木)	2014年度模擬試験問題・解答解説の「集冊版」掲載
10	新潟市長 篠田 昭 (担当 西区役所地域課)	的場遺跡 銭貨出土状況写真データ 他	4	2017/1/19 (木)	西区マップ掲載
11	新潟日報社 論説編集委員 宮下昌幸	古津八幡山遺跡 環濠発掘調査写真データ	2	2017/1/30 (月)	新潟日報掲載
12	株式会社 i f 代表取締役 土田勝也	秋葉遺跡 王冠型土器 動画撮影	1	2017/3/2 (木)	信濃川火焔街道連携協議会によるプロモーションビデオ制作

掲載許可

件数	申込者	資料	点数	申込日	備考
1	個人	北区鳥屋遺跡採集縄文土器 他	258	2017/2/6 (月)	

(6) 図書の収蔵と閲覧

A 収 蔵

図書室の面積は89.33㎡で、室内には単式固定5段8連1台、複式移動7段7連5台、複式移動7段8連6台の棚が列設置されている。棚段数は総数で1,202段、約5万冊の図書の収蔵が可能である。なお、分類整理作業が必要な図書や登録未了図書に関しては、隣接する埋蔵文化財収蔵庫の棚に仮置きをし、登録が終わったものから順次配架を行っている。

図書の収蔵状況は、旧市町村で所蔵していた発掘調査報告書が合併に伴い集められた結果、新潟県内の発掘調査報告書には複本が多数生じることになった。複本があり利用頻度の高い報告書は、文化財センター図書室のほか、調査研究室と保存処理室、そして秋葉区にある弥生の丘展示館に置いて利用している。

書誌情報の入力作業は、司書（臨時職員）2名を雇用して、入力作業を継続して行っている。なお、書誌情報の入力は平成21年度に構築した埋蔵文化財情報管理システムを利用している。平成27年度にシステムの再構築が完了・運用しており（Ⅲ4(7)）、書誌情報の入力も再構築されたシステムで行っている。入力作業と併せ、図書の管理のために寄贈者印・所蔵印を押捺し、3段ラベル・バーコードを貼る作業を行っている。平成28年10月末までの入力数は45,902冊である。

B 利用状況

図書室では、2名分の閲覧スペースがある。大まかに配架作業が終了した平成24年6月から閲覧開始するとともに、著作権法の範囲内でコピーサービス（有料）も開始した。平成28年度の図書室の利用人数とコピーサービス利用人数は表15のとおりである。前年度比では利用者数は42人減、コピーサービス利用人数は7人減である。平成28年度は配架作業のための一時閉室は行わなかった。

なお、収蔵図書は、発掘調査報告書などの発行部数の少ない稀観本がほとんどのため、館外貸出は行っていない。

（相澤裕子）

表15 平成28年度図書室・コピー利用者数

月	図書室利用（人）	コピー利用（人）
4	3	3
5	3	2
6	0	0
7	7	5
8	0	0
9	3	2
10	0	0
11	0	0
12	1	1
1	1	0
2	4	0
3	2	1
合計	24	14

7 保存処理

(1) 木製品の保存処理について

処理の概要 文化財センターでは、木製品の保存処理は資料の形態・材質・劣化度を考慮しPEG（ポリエチレングリコール）含浸法を中心に行っている。また、PEG含浸法では漆被膜が剥がれてしまう漆器や木質が丈夫で若干の強化で保存できる近世遺跡出土の木製品は、トレハロース含浸法で行っている。詳細な方針及び方法については、『年報』第1号に記載されている〔今井2014b〕。

平成28年度 平成28年度には11遺跡31調査分901点の木製品の保存処理を行った（表16）。発掘から20年以上が経過し劣化の著しい的場遺跡（1989007）のほか、新潟県から譲与を受けた小坂居付遺跡（2009007）出土木製品の保存処理をPEG含浸法で行った。なお厚みが5cm以下の小形木製品については、プラスチック製密閉容器を使ったPEG含浸を行っている。

(2) 金属製品・その他の保存処理について

処理の概要 文化財センターでは、木製品の保存処理の含浸期間中に金属製品の保存処理を行っている。保存処理を行う順序は、原則調査年次が古いものからとしている。詳細な方針及び方法については、『年報』第1号に記載されている〔今井2014b〕。

平成28年度 大栄寺溝口政勝墓（1994008）出土鉄製品を中心に2遺跡2調査分180点の保存処理を行った（表16）。青銅製品は、新潟市史編纂のために調査された大藪遺跡（1989008）や新潟県から譲与を受けた近世新潟町跡（2006015）の遺物など3遺跡3調査分72点の保存処理を行った。青銅製品については、大藪遺跡出土の古銭が5,000枚以上あるため、今後計画的に保存処理を行っていききたい。

(3) 保存処理外部委託について

PEG含浸法に向かない木製品や大形の木製品など文化財センターで保存処理ができないものについて、外部委託を行っている。平成28年度は、大淵遺跡（1997004）や駒首湯遺跡（2006004）から出土した木柱など全33点の保存処理を外部に委託した（表17）。

（今井さやか）

表16 平成28年度木製品、鉄製品、銅・青銅製品保存処理一覧

木製品						
遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数	備考
の場遺跡	1989007	木製品	木柱ほか	PEG	264	
の場遺跡	1989007	木製品	炭化材ほか	トレハロース	2	
沖ノ羽遺跡	2001005	木製品	板材ほか	PEG	4	
結七島遺跡	2002002	木製品	木柱ほか	PEG	6	
結七島遺跡	2003001	木製品	木柱ほか	PEG	2	
結七島遺跡	2003001	木製品	しゃもじ	トレハロース	1	
沖ノ羽遺跡	2003002	木製品	杭	PEG	1	
日本遺跡	2005001	木製品	井戸枠材	PEG	11	
沖ノ羽遺跡	2005002	木製品	折敷ほか	PEG	76	
駒首湯遺跡	2006004	木製品	板材	PEG	1	
沖ノ羽遺跡	2006005	木製品	井戸枠材	PEG	40	
結七島遺跡	2006006	木製品	杭	PEG	21	
結七島遺跡	2006009	木製品	板状木製品	PEG	2	
西郷遺跡	2006315	木製品	栓ほか	PEG	2	
西郷遺跡	2006315	木製品	下駄	トレハロース	1	
大沢谷内北遺跡	2007002	木製品	礎板	PEG	5	
大沢谷内北遺跡	2007002	木製品	礎板	トレハロース	4	
沖ノ羽遺跡	2007004	木製品	草履の芯ほか	PEG	96	
沖ノ羽遺跡	2007004	木製品	板状木製品	トレハロース	1	
三王山遺跡	2007010	木製品	井戸枠材	PEG	4	
沖ノ羽遺跡	2008002	木製品	箸ほか	PEG	41	
三王山遺跡	2008004	木製品	井戸枠材ほか	PEG	14	
大沢谷内遺跡	2008005	木製品	用途不明品	PEG	1	
小坂居付遺跡	2009007	木製品	箸ほか	PEG	266	
小坂居付遺跡	2009007	木製品	漆器柄ほか	トレハロース	21	
大沢谷内遺跡	2011006	木製品	漆器柄	PEG	1	
大沢谷内遺跡	2012001	木製品	漆器柄ほか	PEG	3	
大沢谷内遺跡	2013001	木製品	漆器柄ほか	PEG	4	
大沢谷内遺跡	2013001	木製品	漆器柄ほか	トレハロース	2	
近世新潟町跡	2015183	木製品	漆器柄	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2015240	木製品	木柱ほか	PEG	3	
合 計					901	

鉄製品						
遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数	備考
大栄寺	1994008	鉄製品	釘	クリーニング・樹脂含浸	140	
溝口政勝墓	1995005	鉄製品	刀子ほか	クリーニング・樹脂含浸	40	
笹山前遺跡	1996002	鉄製品	刀子ほか	クリーニング・樹脂含浸	40	
合 計					180	

銅製品						
遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数	備考
大蔵遺跡	1989008	青銅製品	簪	クリーニング・樹脂含浸	5	
大栄寺	1994008	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	2	
近世新潟町跡	2006015	青銅製品	煙管ほか	クリーニング・樹脂含浸	65	
合 計					72	

表17 平成28年度外部委託保存処理一覧

遺跡名	調査番号	点数	備考	委託先	金額(円)	合計(円)
大淵遺跡	1997004 1998002	1	木柱	(公財)元興寺文化財研究所	3,955,392	8,613,907
駒首湯遺跡	2006004	1	木柱			
沖ノ羽遺跡	2006005	7	板材			
西郷遺跡	2006012 2007011	2	木柱	(公財)元興寺文化財研究所	3,467,923	
小坂居付遺跡	2009007 2010005 2011004	14	木柱、棒状木製品、板材、茅針、鉄柄、鉄皿、刀子3点、和銃、鍋2点、鉄鏝2点			
大沢谷内遺跡	2016001	1	曲物			
細池寺道上遺跡	2016002	1	漆製品	(公財)元興寺文化財研究所	749,952	
大沢谷内遺跡	2005004	3	板状木製品2点、棒状木製品	藤吉田生物研究所	440,640	
小坂居付遺跡	2009007 2010005 2011004	3	板材、棒状木製品、底板			

8 決算額

平成28年度における文化財センター決算額は表18の通りである。(福地康郎・上田俊哉)

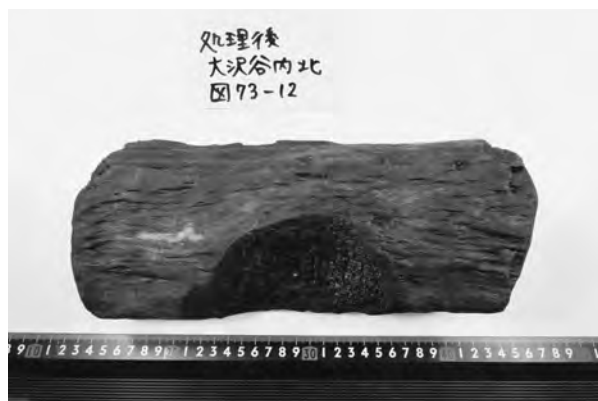
表18 平成28年度文化財センター決算額

■歳入 (一般会計)	
区 分	決算額(円)
○使用料及び手数料	891,150
文化財センター設備使用料	7,150
行政財産使用料	884,000
○国庫補助金	60,701,000
市内遺跡範囲等確認調査事業費	33,555,000
両新地区ほ場整備発掘調査事業費	18,000,000
巻東町地区ほ場整備発掘調査事業費	25,000
古津八幡山遺跡史跡等保存活用計画策定事業費	1,477,000
古津八幡山遺跡及びガイダンス施設保存・活用事業	2,686,000
文化財センター保存処理・活用事業	4,958,000
○諸収入	325,100,000
両新地区ほ場整備発掘調査	324,000,000
巻東町地区ほ場整備発掘調査	450,000
小規模緊急発掘調査	650,000
○繰入	1,137,055
合 計	387,829,205

■歳出 (一般会計)	
区 分	決算額(円)
○文化財保護調査事業	919,617
埋蔵文化財保護費	919,617
○市内遺跡範囲等確認調査事業	53,193,729
市内遺跡範囲等確認調査事業費	46,757,906
市内遺跡範囲等確認調査事業(ほ場整備等)	6,435,823
○埋蔵文化財本格発掘調査事業	361,150,000
両新地区ほ場整備発掘調査費	360,000,000
巻東町地区ほ場整備発掘調査費	500,000
小規模緊急発掘調査費	650,000
○古津八幡山遺跡史跡等保存活用計画策定事業	3,712,212
○古津八幡山遺跡及びガイダンス施設管理運営費	19,626,117
○文化財センター管理運営費	71,993,493
合 計	510,595,168



木製品 保存処理前 (大沢谷内北遺跡・2007002)



木製品 保存処理後 (大沢谷内北遺跡・2007002)

IV 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場

史跡古津八幡山遺跡は新潟市秋葉区に所在する弥生時代後期の高地性環濠集落及び新潟県内で最大の規模を誇る古津八幡山古墳などからなる遺跡であり、平成17年7月に国指定史跡にされている。

現在は「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」として、保存・管理・活用が行われている。古津八幡山遺跡歴史の広場には、ガイダンス施設である「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」と堅穴住居などが復元されている「史跡公園」が存在している。

平成23年度に第1次整備（弥生時代復元ゾーン）が完了し、平成24年度に弥生の丘展示館が開館したことで、暫定供用を開始した。その後、平成26年度に第2次整備（古墳時代復元ゾーン）が完了したことで平成27年4月に全面供用を開始した。

また、保存活用計画について平成27・28年度に検討委員会を設置して検討を重ね、平成28年度に計画を策定した。詳細についてはIV 3に記載している。

史跡古津八幡山遺跡の概要や整備の概要、古津八幡山遺跡歴史の広場の詳細な施設情報については、『年報』第1号に記載されている〔渡邊2014c〕。また、これまでの経過も『年報』第1～4号のとおりである。



史跡古津八幡山遺跡（南から）

1 資料の公開・展示

(1) 概要

弥生の丘展示館は、展示室や体験学習室が主な施設であり、古津八幡山遺跡に関わる展示を行っている。

常設展 展示室には古津八幡山遺跡から出土した旧石器時代から平安時代の土器や石器などを500点以上展示するほか、弥生時代のムラの様子を縮尺300分の1の復元ジオラマ模型で再現している。また、遺跡への親近感や理解が深まるよう、展示ケースの壁面には全面に考古イラストレーター早川和子氏による時代ごとの復元画を展示している。そのほか、ガイダンスシアターでは、65インチの大形モニターで、古津八幡山遺跡の概要やこれまでの調査成果などを映像で見ることができる。

企画展 古津八幡山遺跡歴史の広場の全面供用開始を記念して、平成27年度から企画展を開催している。展示室の中央部分に展示ボードと展示ケースを設置し、企画展コーナーとして利用している。平成28年度は4回の企画展を開催した。

各企画展では、関連した講座や講演会を開催している。企画展会場である弥生の丘展示館には、講座などが行える大人数を収容できる空間がない。そのため、講座・講演会については、平成27年度は弥生の丘展示館に隣接する新潟市新津美術館の一室を借りて行っていたが、平成28年度は西区木場の文化財センターで行った。講座・講演会の当日資料などは新潟市のホームページで公開しているほか、講座・講演会の内容とアンケート調査の結果をまとめた記録集を作成して4回全てに参加した人に配布した。

各企画展の一覧は表1のとおりであり、IV 1(2)～(5)に各企画展の概要について記載する。（金田拓也）

表1 平成28年度弥生の丘展示館企画展一覧

企画展 年度毎 の番号	企画展名	会期	企画担当	来館者数 (人)	関連講演会・イベント			
					演目 イベント名	開催日	講師	参加者数 (人)
1	舟戸遺跡を解明する	2016/4/12（火） ～7/3（日）	金田拓也	23,215	舟戸遺跡と新津丘陵周辺の歴史	2016/5/29（日）	金田拓也	47
					古津八幡山古墳がつくられたころの新潟		相田泰臣	
					展示解説	2016/5/1（日）	金田拓也	5
2	邪馬台国の時代3 古津八幡山の頃の信濃川右岸の世界	2016/7/12（火） ～9/25（日）	渡邊朋和	8,401	『三国志』に書かれた 「倭国乱」の意味するところ －韓国・日本の環濠集落と高地性集落－	2016/9/18（日）	彌豆田佳男氏 (文化庁記念物課)	108
					展示解説		2016/7/24（日）	
3	遺跡、古環境から見た 古津八幡山古墳の時代	2016/10/4（火） ～12/18（日）	相田泰臣	5,810	越後平野はどうしてできたか？ －古墳時代の越後平野を推理する－	2016/10/23（日）	鴨井幸彦氏 (榊村尾技研)	72
					展示解説		2016/10/16（日）	
4	邪馬台国の時代4 古津八幡山の頃の信濃川左岸の世界 －六地山遺跡里帰り展－	2017/1/4（火） ～2017/3/26（日）	渡邊朋和	5,074	信濃川をめぐる 弥生時代の越後と信濃の交流	2017/3/5（日）	笹澤正史氏 (榊吉田建設)	54
					展示解説		2017/2/19（日）	

(2) 企画展1 「舟戸遺跡を解明する」

会 期 平成28年4月12日(火)～7月3日(日)

担 当 金田拓也

入館者数 23,215人

展示概要 古津八幡山遺跡に関わる重要な遺跡として舟戸遺跡が存在する。舟戸遺跡は古津八幡山遺跡が所在する丘陵のすぐ麓にあり、古墳時代では古津八幡山古墳を築造した豪族が暮らしていた集落と考えられている。舟戸遺跡はこれまで25回に渡る多くの発掘調査が行われてきた。また、平成27年度に舟戸遺跡第25次発掘調査が実施され、この調査速報とこれまでの調査成果をまとめることで、舟戸遺跡について現時点で分かっていたことを示した。

さらに、舟戸遺跡周辺の遺跡について各時代の展開を見ていくことで、この地域の特徴と地域での舟戸遺跡の意義について考える構成となっている。

展示構成

1) 舟戸遺跡の歴史

縄文時代、弥生時代、古墳時代、
奈良・平安時代、鎌倉・室町時代、江戸時代

2) 舟戸遺跡周辺の歴史

後期旧石器時代、縄文時代、弥生時代、
古墳時代、飛鳥時代、奈良・平安時代、
鎌倉～戦国時代、江戸時代

3) アスファルト利用の歴史

主要展示 1) では、これまでに舟戸遺跡で行われた発掘調査で出土した土器などを時代ごとに展示した。特に、縄文時代から古墳時代にかけて最新の調査成果である第25次調査と併せて各時期の資料を紹介した。この展示によって、舟戸遺跡の存続期間と各時代の変化を示した。また、発掘調査成果やそのほかの資料から推定される舟戸遺跡の立地や環境についても示した。

2) では、舟戸遺跡と隣接する塩辛遺跡や森田遺跡の確認調査で出土した土器を展示し、特に古墳時代では各時期の資料を紹介した。古津八幡山遺跡が所在する丘陵の麓に複数の遺跡が隣接し、時期ごとに変化していることを示した。また、そのほかの時代についても本発掘調査出土資料のほかに西島中谷内遺跡などの確認調査出土資料も展示した。

3) では、同じ秋葉区に所在する大沢谷内遺跡から出土した各時代のアスファルト付着資料などを展示した。秋葉区は近代の石油産業で有名な地域であり、地域に特徴的な自然資源の利用の歴史を出土資料で示した。

関連講座 企画展の関連講座を1回開催した。

演 目 1 「舟戸遺跡と新津丘陵周辺の歴史」

講 師 金田拓也

演 目 2 「古津八幡山古墳がつくられたころの新潟」

講 師 相田泰臣

日 時 平成26年5月29日(日)

午後1時30分～午後3時30分

会 場 新潟市文化財センター研修室

参加者 47人

文化財センター職員による講座であり、演目1では舟戸遺跡の各時代の様相及び舟戸遺跡周辺の遺跡の各時代の様相を最新の発掘調査成果を踏まえて、概観すると同時にそこから見えてくる舟戸遺跡の重要性について説明した。演目2では古津八幡山古墳が造られた古墳時代について解説し、古墳時代の舟戸遺跡周辺の様相に触れ、畿内との関係について迫った。

展示解説 展示担当による展示解説を1回開催した。

日 時 平成28年5月1日(日)

午後1時30分～午後3時30分

参加者 5人

参加者は舟戸遺跡周辺の地形や舟戸遺跡及び周辺の遺跡の位置などについて熱心に聴き入っていた。

入館者の声 平成28年度は講座・講演会会場が展示会場の近くではなかったため不便であるという指摘や、キャプションにルビがなく読めないものがあるという指摘があった。キャプションなどについては、次の企画展から改善に努めた。

ま と め 古津八幡山遺跡と関係が深い舟戸遺跡の企画展を開催した。舟戸遺跡は小規模な確認調査が多く、遺跡全体の様相について不明な点が多いが、この企画展を通してこれまでの成果を再度整理することができた。また、最新の発掘調査成果と併せて舟戸遺跡の様相を少しでも解明することができたのではないかと考える。今後も継続して舟戸遺跡及び周辺遺跡についての調査・研究を進めていく予定である。

(金田拓也)



展示風景 (展示室)

(3) 企画展2 「邪馬台国の時代3

古津八幡山の頃の信濃川右岸の世界

会 期 平成28年7月12日(火)～9月25日(日)

担 当 渡邊朋和

入館者数 8,401人

展示概要 阿賀野川以南から魚沼地域を対象に、信濃川右岸にある弥生時代中期後半から古墳時代初頭にかけての遺跡を紹介した。当該地域では丘陵・台地上やその縁辺部に古津八幡山遺跡と同じような高地性集落・環濠集落が出現するが、そのような集落が出現する背景を解明することを目的とした。

弥生時代中期後半、信濃川右岸では北陸系(小松式)・会津系(川原町口式)・長野系(栗林式)・秋田系(宇津ノ台式)の4系統の土器と各系統の要素を併せ持った折衷土器が使われた。後期前半の遺跡では北陸系土器に東北南部系土器(天王山式)が伴わないことが一般的で、東北南部系土器は単独で出土することが多い。後期後半になると東山丘陵や丘陵沿いの平野部では北陸系土器(法仏式)が主体となるムラがつくられる。中には古津八幡山遺跡からの距離が20kmも離れていない加茂市中沢遺跡や三条市経塚山遺跡のように越後以西から移住した人々によって営まれたと推測されるムラも出現する。

後期終末や古墳時代初頭頃になると、北陸系土器主体の遺跡で東北南部系(屋敷式)や長野系(箱清水式)、続縄文土器など他系統土器が一定量伴うようになる。古津八幡山遺跡のように、後期前半から終末期まで全期間をとおして、北陸系・東北南部系・折衷系土器が一定量出土する遺跡は少ないといえる。

一方、信濃川上流域や魚沼川流域では、中期後半は長野系が主体を占め、同系統の打製石斧・打製石庖丁などもみられたが、後期前半になると長野系は少なくなり、魚沼川流域では東北南部系に取ってかわる。

新潟県内の弥生時代の遺跡の動態を見ると、中期後半から後期に継続しているように見受けられる遺跡があるが、土器系統が大きく変化しているため、その間に画期・断絶があったと考えられる。後期前半に古津八幡山遺跡の高地性集落がつくられ、環濠が掘られる背景にはこの頃の社会の大きな変化が影響していたと推察される。

展示構成 新潟市所蔵資料のほか、信濃川右岸の弥生時代中期後半から後期、古墳時代初頭の弥生土器・土師器・続縄文土器・石器・金属製品などを、新潟県立歴史博物館・(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団・五泉市・加茂市・三条市・見附市・長岡市・魚沼市・南魚沼市教育委員会などから借用して展示した。展示資料は約630点である。

主要展示 中期の資料として新潟市駒込小丸山遺跡(以下「遺跡」省略)・山ノ家・石動、五泉市筧下、加茂市新通、三条市高田・内野手・北潟甲、見附市二軒島・高稲場、長岡市五斗田・横山、十日町市城之古・柳木田・牛ヶ首、南魚沼市来清西・来清東・大江作など。

後期の資料として新潟市石動・舟戸・東囲・大沢谷内、五泉市大倉山、田上町中店、加茂市中沢、三条市経塚山、長岡市五斗田・藤ヶ森・横山、魚沼市黒姫洞窟、南魚沼市春日平・来清東・古林古墳群・下田など。

また、見附市南部から長岡市にかけての直線距離で4km程の範囲の丘陵縁辺の平野部や台地上に見附市高稲場・岩沢、長岡市五斗田・藤ヶ森・横山・原山など当該期の集落・墳墓などが濃密に分布することに注目した。

展示解説 展示担当による展示解説を開催した。

日 時 平成28年7月24日(日)

午後1時30分～3時30分

参加者数 11人

関連講演会 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 『三国志』に書かれた「倭国乱」の意味するところ

—韓国・日本の環濠集落と高地性集落—

講 師 禰宜田佳男氏(文化庁記念物課)

日 時 平成28年9月18日(日)

午後1時30分～3時30分

会 場 新潟市文化財センター

参加者数 108人

『三国志』に書かれた「倭国乱」と考古学的に認識できる環濠集落や高地性集落などについて北部九州と畿内を対比させながら、倭国乱前夜(中期 紀元前1世紀)、倭国乱の頃(後期 紀元1～2世紀)、倭国乱の後(終末期 3世紀)の3時期に分けて説明された。

畿内では終末期になると、奈良県纏向遺跡のような大規模な遺跡と、奈良県ホケノ山墳墓のような墳丘墓が出現し銅鏡が副葬されるようになるなど大きな変化が認められる。この大きな様相の変化の要因が「倭国乱」によるものではないかと推測した。具体的には「倭国乱」によって、北部九州と畿内の集団の鉄器の流通をめぐる争いに、畿内の政治力が北部九州の政治勢力に勝利し、主導権を握ることになったと結論づけた。

ま と め 企画展をきっかけに、今まで看過されていた長岡市横山遺跡周辺に分布する弥生時代から古墳時代初頭にかけての遺跡について、その重要性を認識することができた。また、後期前半から終末にかけて北陸系・東北南部系・折衷系土器が一定量伴う古津八幡山遺跡の特異性を再認識することができた。(渡邊朋和)

(4) 企画展3 「遺跡、古環境から見た

古津八幡山古墳の時代」

会 期 平成28年10月4日(火)～12月18日(日)

担 当 相田泰臣

入館者数 5,810人

展示概要 直径60mと新潟県最大の古津八幡山古墳が位置する丘陵の麓には、国内最大級の規模を誇る越後平野が広がる。越後平野はかつて、海岸に形成された巨大な砂丘により、砂丘内には広大な湿地、潟湖が形成され、大小の河川が網の目のように流れていた。また、二大河川である信濃川と阿賀野川は、時代とともに流路や河口の位置が変遷していたことが分かってきている。

本企画展では、古津八幡山古墳が造られた西暦400年前後を中心に、遺跡や遺物、地質学の調査成果などから分かってきた越後平野の古環境や遺跡の特徴などについて展示・解説を行った。

また、鴨井幸彦氏((株)村尾技研)の協力の下、防災・減災関連の展示も行った。

展示構成

- 1) 越後平野の古環境を探る
(ボーリング調査の方法・成果)
- 2) 考古資料から見た越後平野の古環境
- 3) 古津八幡山古墳以前の越後平野の古墳
- 4) 古墳時代の続縄文土器
- 5) 新津丘陵周辺の古墳時代の遺跡
- 6) 古津八幡山古墳の調査成果
- 7) 牡丹山諏訪神社古墳と周辺の遺跡
- 8) 古墳時代中期の越後平野の古墳・集落
- 9) 遺跡に残る災害の痕跡
- 10) 越後平野の地盤と防災・減災

主要展示 鴨井氏から借用した「新潟県地盤図が明らかにする平野地盤の特徴」やボーリング調査データから復元した過去2万年の「越後平野の移り変わり」を示したパネルを展示したほか、古代の「津」墨書土器や古墳時代の布留系甕が出土している四十石遺跡などを紹介し、古墳時代の古環境について概観した。さらに、古墳や遺跡、続縄文土器の分布なども含め、越後平野の古墳社会について考えた。

また、四十石遺跡や大沢谷内遺跡、釈迦堂遺跡の噴砂や横ずれなどの災害痕跡について、写真パネルで紹介すると共に、角海浜で確認された津波堆積物とみられる地層についても、周辺のうぶすめ遺跡で採集された遺物とあわせて解説した。さらに、鴨井氏から借用した新潟県地盤図及びその解説パネルや防災・減災関連の本などを展示し、越後平野の地盤やそれを基にした防災・減災に

ついて紹介した。

関連講演会 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 越後平野はどうしてできたか？
－古墳時代の越後平野を推理する－

講 師 鴨井幸彦氏((株)村尾技研)

日 時 平成28年10月23日(日)

午後1時30分～3時30分

参加者数 72人

越後平野の古環境について、地質学のこれまでの研究のあゆみや平野地盤の調べ方など基礎的なことから、越後平野の成り立ちについての最新研究成果まで、幅広く、分かりやすく講演された。また、地質学から見た平安越後古図や信濃川の河口の位置など、多くの方の興味・関心の高いテーマについても丁寧に解説していただいた。古墳時代の越後平野の古環境については、データが少なく細かい年代観での復元は現時点では難しいとのことであった。最後に、平野の成り立ちから見た防災・減災のヒントもお話いただいた。地質学という普段と異なる分野であったが、参加者からは大変好評であり、普段の講演会では参加しない世代の参加者の方も多かった。

展示解説 展示担当による展示解説を開催した。

日 時 平成28年10月16日(日)

午後1時30分～3時30分

参加者数 10人

来館者の声 考古学に関連する地質学について関心が持てて勉強になった、防災について非常に参考になったなどの意見があった。また、今後も考古学関連分野の講演会を企画して欲しいという要望もあった。

ま と め 古墳時代の越後平野について、最新の地質学の成果からどこまで分かっているのかを知りたくて企画した企画展及び講演会であった。古墳時代の細かな古環境復元は、さらなるデータの蓄積が必要とのことであったが、地質学の研究方法や最新の研究成果・課題などを学び知見を広めることができた。(相田泰臣)



関連講演会風景(越後平野はどうしてできたか?)

(5) 企画展4 「邪馬台国の時代4 古津八幡山の頃の信濃川左岸の世界—六地山遺跡里帰り展—」

会 期 平成29年1月4日(水)～3月26日(日)

担 当 渡邊朋和

入館者数 5,074人

展 示 概 要 新潟市西区の六地山遺跡は古津八幡山遺跡と同じ弥生時代後期の遺跡で、内陸丘陵上に立地する古津八幡山遺跡に対し、日本海沿岸の砂丘上に立地する遺跡である。企画展では両遺跡を比較するとともに、信濃川左岸に立地する中期後半から古墳時代初頭にかけての遺跡を紹介した。

六地山遺跡は昭和31(1956)年に燕市の医師真島衛氏と長岡市立科学博物館の中村孝三郎氏によって発掘調査が行われたが、現在出土品や記録類の全てが長岡市教育委員会の所蔵になっている。この六地山遺跡の出土遺物を全て長岡市から借用し、分類・接合などの再整理作業を行った。発掘調査写真はデジタルデータとして提供を受けたが、調査図面類は無かった。このほかに、当時調査に参加した関雅之氏から現況測量図面(青焼き)や調査写真などの提供を受けた。また、真島衛氏資料(個人所蔵)・金塚友之丞氏資料(新潟市歴史博物館所蔵)・新潟大学所蔵資料についても調査を行った。真島資料・金塚資料でそれぞれ3点の縄文土器を確認した。六地山遺跡ではRL縄文や縦走縄文など北方的な要素が目立ち、西方の戸水B式や近江系土器が定量確認され、海岸砂丘に立地する遺跡の特性と考えられる。

信濃川左岸の遺跡では新潟県内の他地域と同様に、中期後半と後期の間の画期が認められた。長岡市松ノ脇遺跡では多系統の土器群が見られる中期後半から、後期になると東北南部系(天王山式)のみで構成されるようになる。長岡市岩田原遺跡・立矛遺跡でも後期には東北南部系土器のみになる。一方で北陸系土器が主体となる遺跡も多く見られた。信濃川左岸では六地山遺跡・大沢遺跡B'地区・山谷古墳下層遺跡・五千石遺跡などで北陸系・東北南部系土器が共に一定量出土し、折衷土器も出土しており、古津八幡山遺跡の土器様相に類似する。この状況は、3系統の土器群が排他的関係にある信濃川右岸の様相とは異なると考えられる。

古津八幡山遺跡で出土する折衷土器(八幡山式)がほかの遺跡ではほとんど出土しないように、六地山遺跡にある折衷土器も六地山遺跡以外ではあまり類例がみられない。折衷土器がつくられる社会的・文化的背景を明らかにする必要がある。

展 示 構 成 新潟市所蔵資料のほか、新潟県・長岡市・燕市教育委員会・個人から中期後半から後期、古墳

時代初頭の土器・石器・石製品・金属製品などを借用して展示した。展示資料は約900点である。

主 要 展 示 新潟市六地山遺跡・山谷古墳下層遺跡・大沢遺跡B'地区・燕市五千石遺跡、長岡市五千石遺跡・大武遺跡・奈良崎遺跡・松ノ脇遺跡・屋鋪塚遺跡・水上遺跡・岩田原遺跡など。特に濃密に分布する島崎川流域にある当該期の遺跡に注目した。

展 示 解 説 展示担当による展示解説を開催した。

日 時 平成29年2月19日(日)

午後1時30分～3時30分

参加者数 15人

新潟市内にある古津八幡山遺跡と同時期の六地山遺跡に関心があるように見受けられた。

関 連 講 演 会 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 信濃川をめぐる弥生時代の越後と信濃の交流

講 師 笹澤正史氏((株)吉田建設)

日 時 平成29年3月5日(日)

午後1時30分～3時30分

会 場 新潟市文化財センター研修室

参加者数 54人

上越市吹上遺跡や釜蓋遺跡の発掘調査を担当し、北陸や長野県内の弥生時代の遺跡・遺物に詳しい演者からご講演いただいた。

弥生時代中期に北陸西部の小松式文化が越後の海岸沿いに流入した。そのことで、稲作農耕文化や付随する様々な情報や文物獲得のために人々が徐々に越後に訪れるようになる。その主要な経路の一つとして内陸部の信濃川流域が利用されるようになった。特に信州と会津・下越の人々に重要視され、北陸との交流のみならず、会津・下越と信州を結ぶルートとしても機能するようになった。

信州系の栗林式土器は中期中葉から中期後葉になると分布域が阿賀北まで広がるが、後期になると信州系の吉田式や箱清水式土器は魚沼まで後退し、その間隙を狙うかのように東北南部系の天王山式が魚沼や長野市まで広がる。北陸系土器が海岸沿いに広がるのに対し、信州系と東北南部系土器は内陸沿いに広がる点で共通性がある。

また、弥生時代終末期から古墳時代初頭になると再び信州系の箱清水式・御屋敷式土器が入ってくる。新潟市大沢遺跡や古津八幡山遺跡の信州系土器はその頃である。

ま と め 信濃川左岸における弥生時代中期から古墳時代初頭の様相は、大局的に見れば古津八幡山遺跡のある信濃川右岸の様相に類似するが、他系統の遺物が日本海を介して常に流入している状況が確認された。なお、六地山遺跡の出土遺物は再実測し資料報告する予定である。(渡邊朋和)

2 教育普及活動

(1) 体験学習

弥生の丘展示館では、個人が来館すればいつでも体験できる事前申込み不要の体験学習メニューを月ごとに決めている(表2・3)。これは、季節やこれまでの状況から、年度ごとに変えている。

平成28年度の体験学習の参加者数は、個人6,913人(前年度比2,914人減)、団体2,687人(前年度比750人増)、全体9,600人(前年度比2,164人減)であり、平成27年度よりも個人の参加者数が減少しており、結果全体の参加者数も減少している。この理由は、弥生の丘展示館の入館者数が減少したためである。一方で、団体の体験学習参加者数は平成27年度より増加しており、これは見学だけでなく体験学習も行う団体が増えてきたためである。

団体の利用については、概ね10人以上の団体の場合は事前に申し込みをお願いしている(表4・5)。平成28年度は団体利用件数64件(前年度比37件減)、利用人数2,722人(前年度比556人減)であった。団体利用が多い小学校の利用も平成27年度より減少(前年度比団体利用件数5件、利用人数29人減)している。平成28年度は春に新津丘陵で熊が複数回目撃されたため、そのことが影響している可能性がある。しかし、各団体の利用が全体的に減少しているため、この変化が一時的なものか今後注視し、対応を検討する必要がある。

(2) イベントなど

平成28年度も、平成27年度に引き続きイベントや体験学習、企画展の情報などをまとめた年間スケジュールを作成し、配布した。また、新潟県教育委員会が作成している「まいぶんナビ」にも、イベントなどの情報を提供して、掲載してもらっている。

イベントは市報や新潟市の公式ホームページなどで広報し、事前に募集して行うイベントを月に2回から3回程度実施している(表6)。イベントの許容人数の関係から、40人以下と少人数ではあるが、好評な企画が多い。「植物観察」や「自然観察」、「弥生時代の稲作体験」は恒例のイベントとなり、複数回参加されている方が相当数にのぼる。

平成28年度はさらに、複数回の日程で本格的な土器づくりを行う「中・上級弥生土器づくり」やドングリの採取からアク抜き、試食までの一連の作業を体験する「ドングリを食べよう」など新しいイベントも行った。

また、当日受付のものでは、例年大規模なイベントとして、まず6月に新潟県立植物園をメイン会場として行う「第15回にいつ花ふるフェスタ」の協賛イベントとして、複数の体験学習などを行った。当日は史跡公園へ足

を運ぶ人を増やす試みとしてスタンプラリーも行っており、体験学習参加者などの延べ人数が1,578人(前年度比264人増)と好評だった。次に、10月には新潟県立植物園にて、植物園主催の秋の植物園祭りや秋葉区役所主催の「アキハアウトドアスポーツフェスタ」と同日開催として、新潟県埋蔵文化財センターと連携した「まいぶん祭り」を開催した。まいぶん祭りでは、各施設とも連携してクイズスタンプラリーを開催し、こちらも延べ人数1,163人(前年度比447人増)と平成27年度より増加した。

さらに、平成28年度には「第1回古津八幡山遺跡フォトコンテスト」を開催し、作品を募集した。その結果、69作品もの応募があり、作品については平成29年度に審査や一般投票を行い、受賞作品を決定している。作品の募集では、全国のコンペティション紹介サイトなどで取り上げられ、古津八幡山遺跡の広報にもつながった。

(3) 入館者数

平成28年度の弥生の丘展示館入館者数(表7)は、個人43,460人(前年度比24,500人減)、団体2,722人(前年度比556人減)、全体46,182人(前年度比25,056人減)であり、平成27年度よりも個人の入館者数が4割近く減少しており、結果として全体の入館者数も大幅に減少している。

しかし、平成27年度は隣接する新潟市新津美術館による展覧会(「生誕80周年記念 藤子・F・不二雄展」)の影響で、平成26年度より入館者が約2倍増加した。平成28年度も平成26年度と比較すると、9,817人増加したことになる。この理由として、やはり新津美術館で開催された展覧会の影響が大きいと考えられる。

一方で、冬季(12~3月)の入館者は6,839人(前年度比446人増)であった。例年同様に入館者数は少ないが、平成27年度より増加しており、これは冬季にイベントなどを増やした結果が反映している可能性があり、今後も継続して冬季の入館者数が増加するようにイベントなどを考えていく必要がある。(金田拓也)



「ドングリを食べよう」(ドングリの殻剥き)

表2 平成28年度弥生の丘展示館体験学習(事前申込み不要)一覧

無料/有料	メニュー	単位	料金(円)	所要時間(分)
無料	火起こし体験	-	-	15
	弓矢体験	1人3本	-	10
	石斧体験	破れるまで	-	10
	里山のクラフトづくり	竹の輪1個	-	30
	土器パズル	飽きるまで	-	10
	ぬりえ	飽きるまで	-	5
	貫頭衣試着	満足するまで	-	5
	勾玉づくり	1個 紐付	200	60
有料	管玉づくり	1組4個 紐付	200	60
	土器・土偶づくり	100	120	
	土笛・土鈴づくり	粘土500g	100	60
	鋳造体験(銅鑄・銅鏡)	銅鏡1個 紐付	400	30
		銅鑄1個 紐付	900	30
	編布(アングン)編み	初心者コース カラムシ10g	300	120
		上級者コース カラムシ10g	500	180
	鹿角ペンダントづくり	先端部以外1個 紐付	100	60
		先端部1個 紐付	500	15
	木の枝の鉛筆づくり	木の枝1本 鉛筆芯1本	100	30
	弥生染め	1枚	200	60

表5 平成28年度弥生の丘展示館分類別団体利用数

分類名	団体利用数(件)	人数
保育施設・幼稚園	1	36
小学校	30	1,962
中学校	3	47
大学	3	87
その他学校	1	32
動く市政教室(個人)	2	34
動く市政教室(団体)	3	68
その他市企画関係	1	40
市関係	2	88
行政・議会関係	1	35
公民館関係	1	18
自治会・町内会など地域コミュニティ関係	6	121
各種サークルなど	4	54
企業企画ツアーなど	2	39
企業	1	20
福祉施設	1	13
その他	2	28
合計	64	2,722

表4 平成28年度弥生の丘展示館団体利用一覧

小・中学校	来館日	団体名	人数
小・中学校	2016/4/20(水)	市立結小学校(秋葉区)	109
	2016/4/22(金)	市立岩室小学校(西蒲区)	49
	2016/4/26(火)	市立笹川小学校(中央区)	52
	2016/4/26(火)	市立女池小学校(中央区)	137
	2016/4/27(水)	五泉市立果本小学校	21
	2016/4/27(水)	市立桜が丘小学校(中央区)	87
	2016/4/28(木)	市立上町立羽生田小学校	37
	2016/4/28(木)	市立木戸小学校(東区)	72
	2016/5/2(月)	市立根岸小学校(南区)	28
	2016/5/2(月)	市立新津第一小学校(秋葉区)	81
	2016/5/10(火)	市立金津中学校(秋葉区)	8
	2016/5/11(水)	市立庄瀬・茨曾根小学校(南区)	35
	2016/5/13(金)	市立坂井輪中学校(西区)	6
	2016/5/24(火)	市立新飯田小学校(南区)	21
	2016/5/25(水)	市立小林小学校(南区)	33
	2016/6/4(土)	五泉市立村松小学校	116
	2016/6/9(木)	市立江南小学校(東区)	75
	2016/6/30(水)	市立新津第二小学校(秋葉区)	69
	2016/7/9(土)	市立新関小学校(秋葉区)	19
	2016/9/2(金)	市立松浜小学校(北区)	100
	2016/9/9(金)	市立亀田東小学校(江南区)	203
	2016/9/14(水)	燕市立大関小学校	17
	2016/9/15(木)	市立白井小学校(南区)	26
	2016/9/16(金)	県立五泉特別支援学校	22
	2016/9/21(水)	市立五十嵐小学校(西区)	135
	2016/9/21(水)	市立立山小学校(西区)	65
	2016/9/23(金)	市立春南小学校(西蒲区)	87
	2016/9/27(火)	市立青山小学校(西区)	94
	2016/9/29(木)	市立小合東小学校(秋葉区)	15
	2016/10/4(火)	市立大野小学校(西区)	62
	2016/10/20(木)	市立五十嵐中学校(西区)	33
	2016/11/10(水)	市立小須戸小学校(秋葉区)	40
	2016/11/11(金)	市立万代長編小学校(中央区)	58
	2016/12/13(火)	市立笹山小学校(北区)	19
		合計	2,031

表3 平成28年度弥生の丘展示館体験学習(事前申込み不要)参加者数

月	体験学習メニュー	参加者数(人)					
		個人	団体	合計	1日平均	累計(開館から)	
4	土器・土偶・土笛・土鈴づくり、木の枝の鉛筆づくり	石斧体験	518	338	856	33	31,431
5	弥生染め、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり、木の枝の鉛筆づくり	弓矢体験	1,721	169	1,890	68	33,321
6	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	火起こし体験	1,351	673	2,024	72	35,345
7	勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	弓矢体験	1,097	68	1,165	42	36,510
8	弥生染め、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	火起こし体験	868	179	1,047	39	37,557
9	鋳造体験(銅鑄・銅鏡)、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	石斧体験	182	634	816	30	38,373
10	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	弓矢体験	299	308	607	22	38,980
11	鋳造体験(銅鑄・銅鏡)、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	石斧体験	243	248	491	20	39,471
12	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	火起こし体験	51	63	114	5	39,585
1	鋳造体験(銅鑄・銅鏡)、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	里山のクラフトづくり	150	0	150	6	39,735
2	アングン編み、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	里山のクラフトづくり	120	0	120	5	39,855
3	アングン編み、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	火起こし体験	313	7	320	11	40,175
	合計/平均		6,913	2,687	9,600	31	

※土器パズル・ぬりえ・貫頭衣試着は、特定のイベント時以外年間を通して屋内で体験できる。無料の屋外体験も冬季は屋内にて行っている(里山のクラフトづくり)。

表6 平成28年度弥生の丘展示館イベント・体験学習(事前募集)・公開講座一覧

開催日	内容	人数
2016/4/24(日)	文化財センターボランティア養成講座3	8
2016/4/29(金)	植物観察1(春)	19
2016/5/8(日)	発掘体験1	9
2016/5/15(日)	弥生の稲作体験1(田起こし・田植え)	71
2016/5/22(日)	上級昆虫標本づくり1	13
2016/6/4(土)	弥生の稲作体験2(雑穀補付・草取り)	18
2016/6/5(日)	第15回にいつ花ふるフェスタ	1,578
2016/6/12(日)	植物観察2(初夏)	31
2016/6/19(日)	上級昆虫標本づくり2	15
2016/7/2(土)	弥生の稲作体験3(草取り)	18
2016/7/3(日)	中級弥生土器づくり1	10
2016/7/10(日)	中級弥生土器づくり2	9
2016/7/17(日)	中級弥生土器づくり3	8
2016/7/24(日)	発掘体験2	30
2016/7/30(土)	一般昆虫観察会及び上級昆虫標本づくり3	32
2016/7/31(日)	上級昆虫標本づくり3	15
2016/8/7(日)	弥生の稲作体験4(草取り)	21
2016/8/21(日)	上級昆虫標本づくり4	9
2016/9/11(日)	弥生の稲作体験5(稲刈り)	63
2016/9/25(日)	植物観察3(秋)	23
2016/10/2(日)	まいぶん祭り	1,163
2016/10/9(日)	ドングリを食べよう1	15
2016/11/6(日)	弥生の稲作体験6(穀殻・枙摺り・試食体験)	27
2016/11/13(日)	ドングリを食べよう2	11
2016/12/4(日)	稲わらリースづくり	28
2016/12/11(日)	ドングリを食べよう3	12
2016/12/18(日)	土器カレンダーづくり	12
2016/12/25(日)	冬の自然観察1	16
2017/1/8(日)	弥生の餅つき	420
2017/1/15(日)	巨大勾玉づくり	9
2017/1/22(日)	冬の自然観察2	8
2017/1/29(日)	アングン編み教室	4
2017/2/5(日)	上級弥生土器づくり1	10
2017/2/12(日)	上級弥生土器づくり2	10
2017/2/19(日)	上級弥生土器づくり3	7
2017/2/26(日)	上級弥生土器づくり4	6
2017/3/19(日)	石製模造品づくり	13
	合計	3,771

小・中学校以外	来館日	団体名	人数
小・中学校以外	2016/4/8(金)	山形県立米沢女子短期大学日本史学科	60
	2016/4/22(金)	秋葉区観光ボランティアガイド	8
	2016/5/4(火)	秋葉区いきいき里山室	36
	2016/5/13(金)	(有)かたらんね(福園市)	31
	2016/5/18(水)	とよさか中高等学校	18
	2016/5/26(木)	五泉市水島町お茶の間サロン	9
	2016/5/26(木)	内野体操クラブ(西区)	25
	2016/6/15(水)	新潟市食生活改善推進委員協議会	11
	2016/6/24(金)	Akiba森の幼稚園(秋葉区)	36
	2016/7/3(日)	天神町内会(秋葉区)	18
	2016/7/6(水)	動く市政教室「竹尾3丁目町内会」(東区)	27
	2016/7/14(木)	動く市政教室「興人寺尾団地自治会」(西区)	21
	2016/7/27(水)	中藩みどり森林組合	20
	2016/8/6(土)	五泉市立村松小学校9・10地区子供会	26
	2016/8/23(火)	新潟市東地区公民館	18
	2016/8/28(日)	矢代田9~13子供会(秋葉区)	35
	2016/9/30(金)	市立教育センターぐみの木教室	35
	2016/10/5(水)	動く市政教室「古津八幡山と発掘現場」	21
	2016/10/16(日)	ボーイスカウト新潟第五団ビーバー隊	7
	2016/10/16(日)	亀田小学校60区補導会(江南区)	18
	2016/10/19(水)	動く市政教室「古津八幡山と発掘現場」	13
	2016/10/25(火)	動く市政教室「新日本婦人の会黒埼支部」	20
	2016/10/29(土)	金津コミュニティ協議会(秋葉区)	15
	2016/10/29(土)	東区歴史浪漫めぐりツアー	40
	2016/10/30(日)	新潟青陵高校父母の会	10
	2016/11/5(土)	新潟市観光・国際交流部国際課	52
	2016/11/8(火)	阿賀野市交通安全協会	20
	2016/11/9(水)	元気塾	8
	2016/11/15(火)	支え合い軽トレッキングの会	11
	2016/12/3(土)	新潟大学考古学研究会	9
	2017/3/14(火)	びあボート(西区)	13
		合計	691

表7 平成28年度弥生の丘展示館入館者数

月	開館日数	入館者数(人)					外カウンター
		個人	団体	全体	1日平均	累計(開館から)	
4	26日	5,524	632	6,156	237	183,203	4,839
5	28日	11,952	331	12,283	439	195,486	6,760
6	28日	5,306	307	5,613	200	201,099	4,081
7	28日	2,986	105	3,091	110	204,190	1,801
8	27日	3,161	79	3,240	120	207,430	1,629
9	27日	2,642	799	3,441	127	210,871	1,960
10	27日	3,140	239	3,379	125	214,250	2,258
11	25日	1,951	189	2,140	86	216,390	1,546
12	22日	1,452	28	1,480	67	217,870	705
1	24日	1,987	0	1,987	83	219,857	1,386
2	24日	921	0	921	38	220,778	632
3	28日	2,438	13	2,451	88	223,229	1,904
合計/平均	314日	43,460	2,722	46,182	147	2,950,190	29,501

※外カウンターは史跡公園利用人数の把握を目的として、弥生の丘展示館脇に設置した計数機の数値である。

3 古津八幡山遺跡保存活用計画の概要

(1) はじめに

新潟市教育委員会では、貴重な文化財である史跡古津八幡山遺跡を今後も適切に保存管理し、後世に確実に継承するとともに、より充実した活用や整備を実施していくことを目的として、そのための指針となる保存活用計画を平成29年3月に策定した。

策定にあたり、平成27・28年度に「古津八幡山遺跡保存活用計画検討委員会」を設置・開催し(表8・9)、委員会での検討や指摘事項を踏まえながら、『国史跡古津八幡山遺跡保存活用計画』〔相田・金田ほか2017〕としてまとめ、刊行した。また、弥生の丘展示館関係の統計データ(平成24～27年度)や、本計画策定にあたり実施したアンケート調査結果については、計画書中の附篇や付属資料の中に掲載した。

なお、計画内容についての協議及び使用した図表の編集などは、(株)文化財保存計画協会に一部委託した。

(2) 保存活用計画の構成

本計画は、①保存管理、②活用、③整備、④運営・連携体制の4項目を柱とし(図1)、それぞれの現状と課題を踏まえた上での今後の方向性や方法についての記述を中心に構成されている。各章立ては以下のとおりである。

- 第I章 保存活用計画策定の沿革と目的
- 第II章 史跡古津八幡山遺跡の概要
- 第III章 史跡の本質的価値
- 第IV章 史跡の保存活用に係る現状と課題
- 第V章 基本理念・基本方針
- 第VI章 保存管理の方向性・方法
- 第VII章 活用の方向性・方法
- 第VIII章 整備の方向性・方法
- 第IX章 運営・連携体制の整備の方向性・方法
- 第X章 施策の実施計画・経過観察

(3) おわりに

本計画の対象期間は、平成29年度から平成39年度までの11年間で、必要に応じて計画の見直しや改定を行うこととしている。

今後は、この計画に基づいて史跡を適切に保存・活用していくため、史跡内外において引き続き追加の確認調査を行い、さらなる遺跡の状況把握に努めるとともに、これまでに各種整備を行った新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場についても、継続して適切な維持・管理を行っていく方針である。

加えて、ガイダンス施設である弥生の丘展示館が核と

なり、地域住民をはじめ、周辺の諸施設や機関・組織などと連携しながら、本遺跡の特色を活かしたさらなる活用や整備を図っていく予定である。(相田泰臣)

表8 古津八幡山遺跡保存活用計画検討委員会委員名簿

	氏名	所属・職名	年度
委員長	小林達雄	國學院大學名誉教授 (新潟県立歴史博物館名誉館長)	平成27・28
副委員長	橋本博文	新潟大学人文学部教授	平成27・28
	石川日出志	明治大学文学部教授	平成27・28
委員	伊丹和哉	新潟市立金津小学校校長	平成27
	荏原富士子	新潟市社会教育委員	平成27
	川上真紀子	文化財保存全国協議会全国委員、 NHK文化センター講師	平成27・28
	小林圭一	新潟市立金津小学校校長	平成28
	朱 雁	積雪地域植物研究所員	平成27・28
	鈴木俊成	(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団調査課長	平成27・28
	高橋郁子	新潟市文化財センター運営協議会委員長、 新潟県民俗学会常任理事	平成27・28
	竹之内佳子	新潟市立金津中学校校長	平成27・28
	渡邊正紀	金津地区コミュニティ振興協議会会長	平成27・28

表9 古津八幡山遺跡保存活用計画検討委員会の経過

年度(平成)	回次	開催日	主な協議・検討事項
27	1回	2015/11/12	委員長・副委員長の選出、保存活用計画の概要、古津八幡山遺跡のこれまでの経緯について
	2回	2016/3/2	報告書の目次構成案、本質的価値・構成要素、保存管理の基本理念・基本方針、地区区分及び地区別の現状変更等の取扱方針について
28	3回	2016/6/6	第2回委員会での検討事項の確認、保存管理の現状と課題、活用・整備の基本理念・基本方針について
	4回	2016/9/21	第3回委員会での検討事項の確認、保存管理の方向性と方法、活用・整備の現状と課題・方向性と方法、運営・体制の整備の基本理念・基本方針・現状と課題・方向性と方法について
	5回	2016/12/18	第4回委員会での検討事項の確認、計画書全体について



保存活用計画(左)及び付属資料(右)



図1 保存活用計画の主要構成項目概念図

V 研究活動－資料紹介・研究ノートなど－

1 秋葉区大野中遺跡出土の縄文時代遺物－阿賀野川低地に形成された遺跡の性格をめぐって－

(1) はじめに

旧紫雲寺潟の湖底下から発見された新発田市青田遺跡の調査を契機として、越後平野の深層に埋没する縄文時代遺跡の存在が次第に明らかになってきた。ここにとりあげる大野中遺跡もそうした事例の一つである。この遺跡は、新津丘陵と阿賀野川にはさまれた「阿賀野川低地」の一角に位置し、新津IC西地区開発事業に伴い2008年7月に行われた試掘調査で発見された。阿賀野川流域に分布する数少ない低地の縄文時代遺跡として重要であり、ここに概要を紹介するとともに、低地に形成された遺跡の性格について若干の検討を試みる。

(2) 遺跡の概要 (図1)

試掘調査では、開発が予定される9.2haに1.5×3mあるいは2×4mの試掘坑を計61か所設定し、重機によって2.3～3.9mの深度まで掘り下げた。確認層序は計21層に及ぶ。このうちX層が古代、XIII層とXIV層が縄文時代の包含層である。XIII層は暗緑青～暗灰色の粘土もしくはシルト層、XIV層は緑灰～灰白色シルト層。炭化物を伴いながら、前者で中期前葉～後期前葉、後者で中期前葉～中葉の土器が出土した。XV層はXIII層に対応するとみられる粘土～シルト層である。XVI層～XIX層とともに未分解有機物を含む低湿地堆積層で、南端付近の15T XVIII層からクルミの核8点出土した。この中には人為的に打割られた欠損個体が1例含まれる(図1右下)。

図1中段に試掘地と縄文時代遺物出土地の位置を示す。網かけ区域は、XV層～XIX層が分布する低湿地である。縄文時代の遺物は、調査地南端の9か所から出土した。包含レベルは標高3.8～4.4mである。この区域はXV層～XVIII層の分布域と重複しておらず、東西に連なる微高地上にあたるのがうかがえる。微高地は西に向かって高くなり、遺跡範囲が西部へ広がるのが確実である。なお、14Tの最下部XXI層(暗青灰色シルト)から縄文土器が1点出土した。調査時の所見では明確な判断を避けているが、XVIII層出土のクルミも含め何らかの活動を想定する必要がある。

(3) 出土遺物

縄文土器391点・石器類2点・搬入礫9点出土した。

A 縄文土器 (図2)

中期前葉から後期前葉までの資料からなる。図2に有文土器11個体・縄文施文土器16個体・無文土器もしくは無文部4個体を示した。時期別にみた特徴と混和材のあり方を以下に述べる。

中期前葉 本遺跡の主体を占める土器群の一つである。いずれも北陸系土器の範疇に含まれ、異系列の土器は皆無である。竹管文の工具幅・文様構成・縄文原体に基づけば、中期前葉新段階もしくは最新段階に位置づけられる。3・7・8・25・29の平行沈線には、幅1cm以上の粗大な工具が使われる。7・29は口縁部文様帯の一部。爪形刺突を加える前者に対し、後者はこれを欠く点で後出要素をもつ。8は格子目文を充填する体部破片で、繊細な竹管工具による横位集合沈線上に縦位沈線を加える。6は単節縄文LRを施す小破片であるが、外傾した上半部と膨らみをもった下半部の器形から本時期の土器とみなされる。13・24は底面にスタレ状圧痕をもつ。13の体部には木目状捺糸文が施される。単軸に穿った一孔に縄Rを通し、左右同一方向に巻くもので、越後平野周辺では中期前葉終末まで残存する原体である。

中期中葉 この時期の土器とみなされる資料は、1・2に限られる。1は東北地方南部の大木8b式土器。キャリパー器形をなし、口縁部文様帯の主文様となる隆線の両裾には沈線をなぞり引く。2は体部に最大径をもち、口端と体部に単沈線を施す。体部には単節縄文RLを施した後、1条ないし2条の縦位沈線を等間隔に配し、区画内に連続的な弧状沈線を描く。現時点では系統不明の土器である。

中期終末～後期前葉 中期前葉とともに本遺跡の主体を占める土器群である。11は口縁下に注口をもつ鉢形土器。注口部の周囲に沈線で区画した無文帯を設け、外部に繊細な単節縄文を施す。中期終末もしくは後期初頭とみられる資料である。12の器形もこれに類似し、不揃いな間隔で横位沈線を施す。18・30は刺突文を施す後期初頭の三十稲場式土器。30は蓋の縁辺部である。17・19はこれに後続する南三十稲場式土器の範疇に収まる。19は波状口縁の端部が肥厚し、頂部に円形の孔を配す。17は深鉢の体部で、単節縄文LRを施した後、ラフなタッチの単沈線を直線及び曲線的に加える。21・22は文様を欠くが、体部が膨らむ器形をもち、中期終末から後期前葉の土器とみられる。

混和材 遺物番号末尾に混和材区分と特徴的な含有物を示した。本遺跡の土器は、含有物に基づき3種に大別できる。Ⅰ類は磨耗粒子を含む。新津丘陵の海成層を特徴づける堆積物であるが、阿賀野川や能代川の河川砂にも少なからず含まれる。本類は磨耗した石英・長石を含むⅠa類と磨耗岩石のみのⅠb類に二分できる。Ⅱ類の含有物は、石英を主とする破碎粒子に限定される。阿賀野市から新発田市域の河川砂に類似するが、花崗岩を粉碎したケースも想定できる。本遺跡における三者の割合は、Ⅰa類16%・Ⅰb類61%・Ⅱ類23%である。

混和材分類に続く記号は、○が角閃石・□が軽石・☆がガラス状粒子の含有量で、多量に含む資料を黒で表した。角閃石の含有率は74%に達し、38%の資料が多量に含有する。XIII層出土の10・13・14・21、XIV層出土の25・28・31は、微細な軽石片を含む。これらの土器には角閃石を多量に含む資料が多く、軽石内に存在する角閃石に由来する可能性が高い。ガラス状粒子は新津丘陵の海成層に堆積する高温石英もしくは黒曜石である。半数弱の土器に含まれるが、多量に含有する資料は4に限定される。

B 石器 (図3-32・33)

狭義の石器は、図3-32に示す磨石1点のみである。磨耗範囲は全面に及ぶが、右主面(網トーン部分)と右側面が強度に磨耗する。角閃石が多量に混じる安山岩を石材とする。33は硅質流紋岩製の縦長剥片で、背面左(網トーン部分)に自然面を残す。

C 搬入礫 (図3-34~41)

利器とは見なしがたい礫をこれとする。34~38は破損礫で、いずれも意図的に破碎されたものと考えられる。34・35は両極打法によって打ち割られる。角柱状をなした37は、側面方向から剥離される。36は節理に沿って割れるB面と節理面や礫面を打点としたC・D面からなる。39は被熱によって上端が赤化し(網トーン部分)、平面からの加激で欠損する。石材は34~37が泥岩、38がアプライト(半花崗岩)。39~41は完存礫である。39は石英斑岩の大形扁平礫。40・41は軽石で、前者は調査時に破損した。後者の片側平坦面(網トーン部分)は磨耗によって平滑化する。

(4) 大野中遺跡の位置づけ

越後平野周辺に分布する沖積地下の縄文時代遺跡は、立地の上でいくつかの類型に分けられる。大野中遺跡は、寺崎裕助氏の区分〔寺崎2002〕に基づけば「沖積地埋没型」の典型例にあたる。新津丘陵を含む東山丘陵の周辺には、見附市から新潟市秋葉区にかけての沖積地に縄文時代中期の遺跡が点在する〔小熊2002〕。本遺跡はその

初期段階に形成が始まり、後期前葉に至るまで長期間にわたり断続的に営まれた稀なケースとなる。

この遺跡の性格を考える手がかりとなるのは、低地遺跡としてはまとまった量の土器と各種搬入礫である。大野中では石器の量がきわめて乏しく、周辺に分布する集落に付随したキャンプ地跡と考えるべきである。同時期に営まれた集落としては、半径2km圏内の秋葉遺跡〔前山2014〕、4km圏内の原遺跡〔前山2016〕と平遺跡〔川上・遠藤1982〕があげられる。原遺跡は後期後葉以降に中心があり、中期の遺物量は多くない。平遺跡は中期中葉~後葉土器が欠落する。これに対し、秋葉遺跡では本遺跡の下限となる後期前葉新段階の土器が未だ確認できない点を除けばよく似た変遷をとげている。

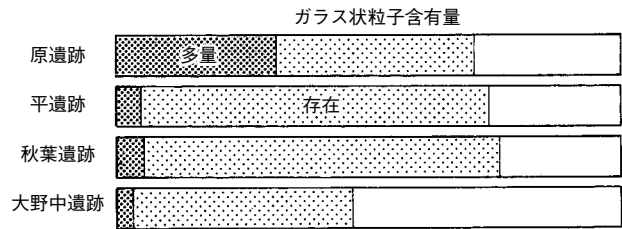
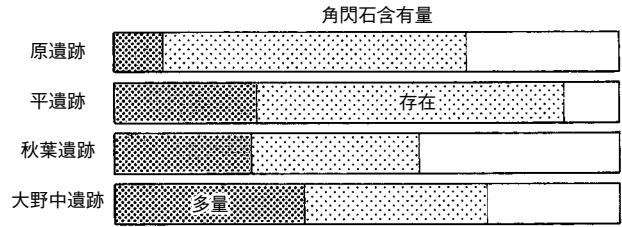
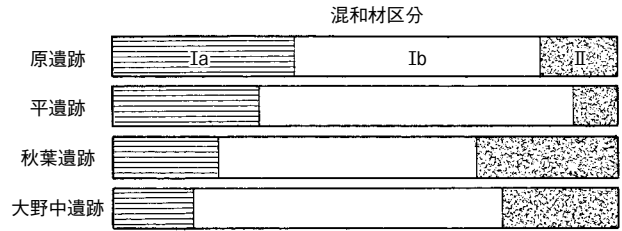
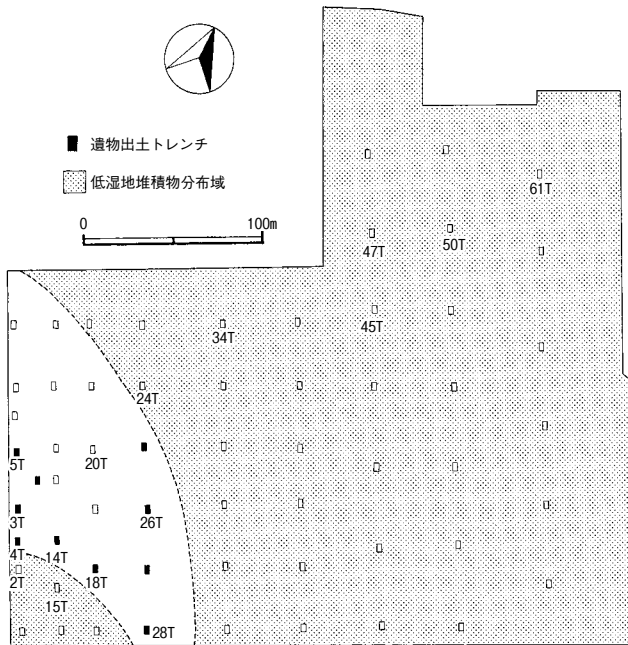
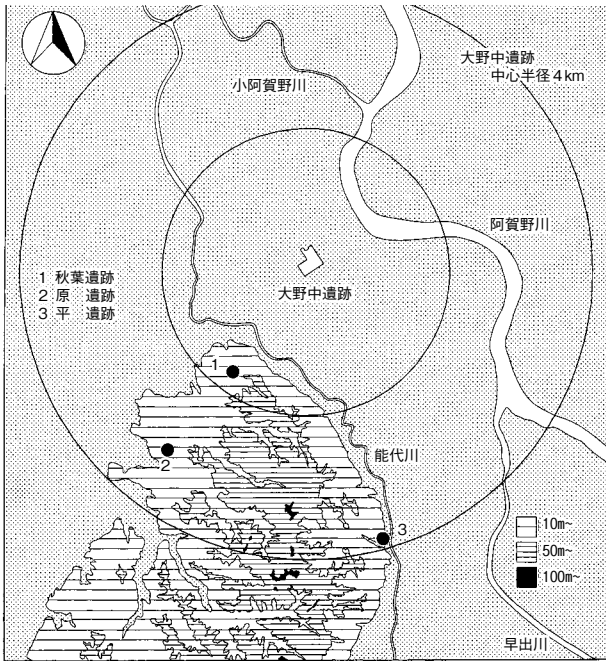
図1右上は土器の含有物を3遺跡で比較したグラフである。一見して明らかなように、大野中遺跡は混和材組成と角閃石の含有量が秋葉遺跡に近似し、本遺跡で使用された土器の多くが秋葉集落で製作された可能性を示唆する。秋葉遺跡との近縁関係は、土器の混和材となりうる搬入礫からもうかがえる。本遺跡と秋葉遺跡では、破碎石英を含有するⅡ類の占有率が相対的に高い。これらの多くは意図的に粉碎した花崗岩とみられ、両遺跡の花崗岩に認める顕著な被熱は主として混和材の入手を意図したものであろう。本遺跡の土器から確認できた軽石片は、これまで指摘されていた混和材としての利用法〔立木2014〕を裏付けた。産地は阿賀野川上流域に求められる。搬入された軽石は、阿賀野川に面したキャンプ地遺跡ならでの資料と言える。大野中遺跡から出土した搬入礫は秋葉集落への供給を意図した物資の残余と考えられるが、本遺跡の形成や石材の移動に関与した集団の実態については、阿賀野川上流域に分布する遺跡群を含めた検討を通じて明らかにすべき課題となる。

本稿作成にあたり、搬入礫の石材と混和材の材質について竹之内耕・小笠原孝彦(フォッサマグナミュージアム)の両氏からご教示いただいた。お礼申し上げます。

(前山精明)

引用・参考文献

- 小熊博史 2002 「沖積地の遺跡(5) 東山丘陵」『新潟考古』13 新潟県考古学会
- 川上貞雄・遠藤浩司 1982 『平遺跡』新潟市教育委員会
- 立木宏明 2014 「細池寺道上遺跡の軽石製石製品について」『細池寺道上遺跡Ⅲ 26次調査』新潟市教育委員会
- 寺崎裕助 2002 「新潟平野の遺跡」『新潟考古学談話会会報』第24号 新潟考古学談話会
- 前山精明 2014 「秋葉遺跡第9・10次調査」『新潟市文化財センター年報』第1号
- 前山精明 2016 「原遺跡第7・8次調査」『新潟市文化財センター年報』第3号



- | | | | |
|-------|--------------|--------|--------------------------|
| I層 | 盛土 | XIII層 | 暗緑青～暗灰色粘土～シルト |
| II層 | 黒灰色粘土 | XIV層 | 緑灰～灰白色シルト |
| III層 | 黄褐色粘土 | XV層 | 暗灰～暗緑灰色粘土
(未分解有機物を含む) |
| IV層 | 黒褐色粘土(ガツボ) | XVI層 | 灰色粘土～シルト |
| V層 | 暗灰色粘土～シルト | XVII層 | 黒褐灰色粘土(未分解有機物を含む) |
| VI層 | 黒褐灰色粘土 | XVIII層 | 暗茶色粘土(ガツボ) |
| VII層 | 黒灰～暗褐色粘土～シルト | XIX層 | 褐灰色粘土(ガツボ) |
| VIII層 | 緑青～青灰色粘土 | XX層 | 褐灰色粘土(ガツボ) |
| IX層 | 暗灰～暗青灰粘土 | XXI層 | 暗灰～褐灰色砂 |
| X層 | 灰色粘土～シルト | XXII層 | 暗青灰シルト |
| XI層 | 暗灰色粘土～シルト | | |
| XII層 | 緑青灰色粘土 | | |

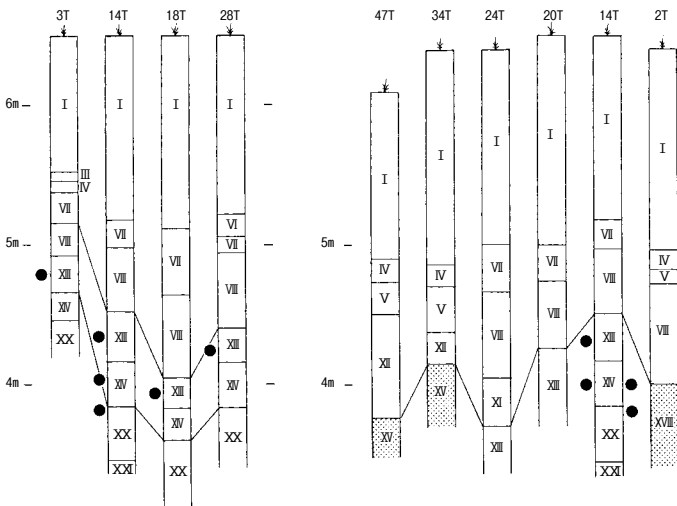
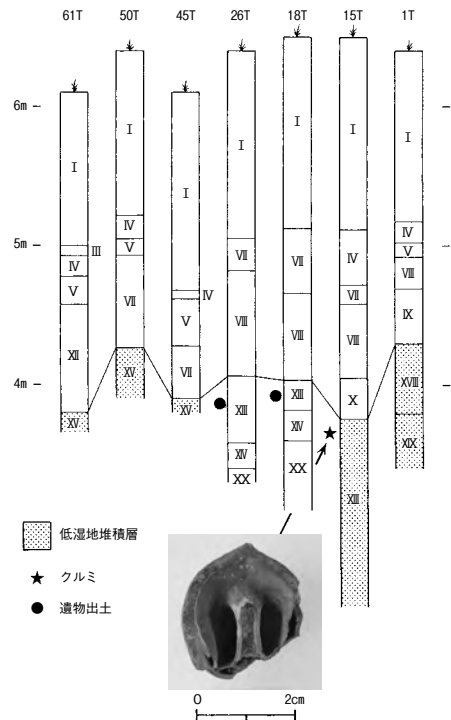


図1 遺跡の立地と土器の含有物

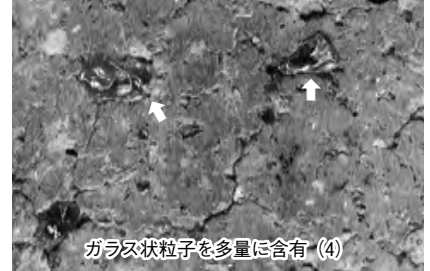
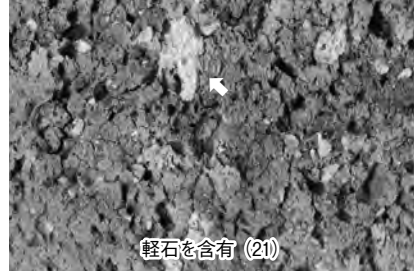
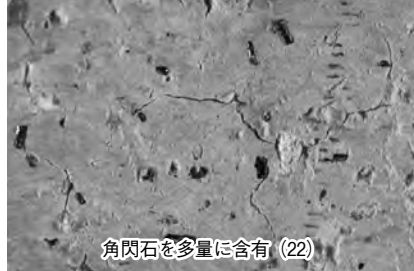
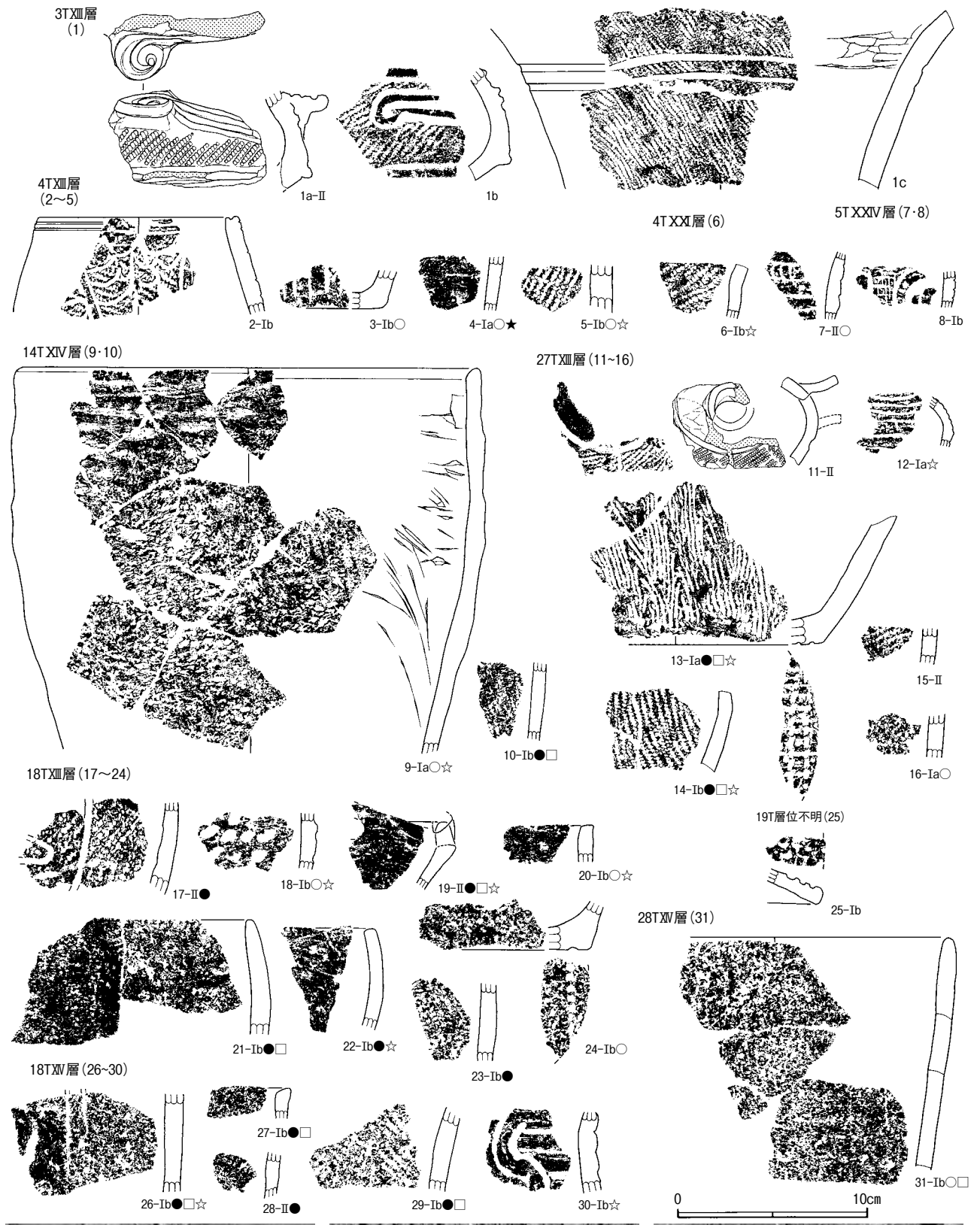


図2 縄文土器

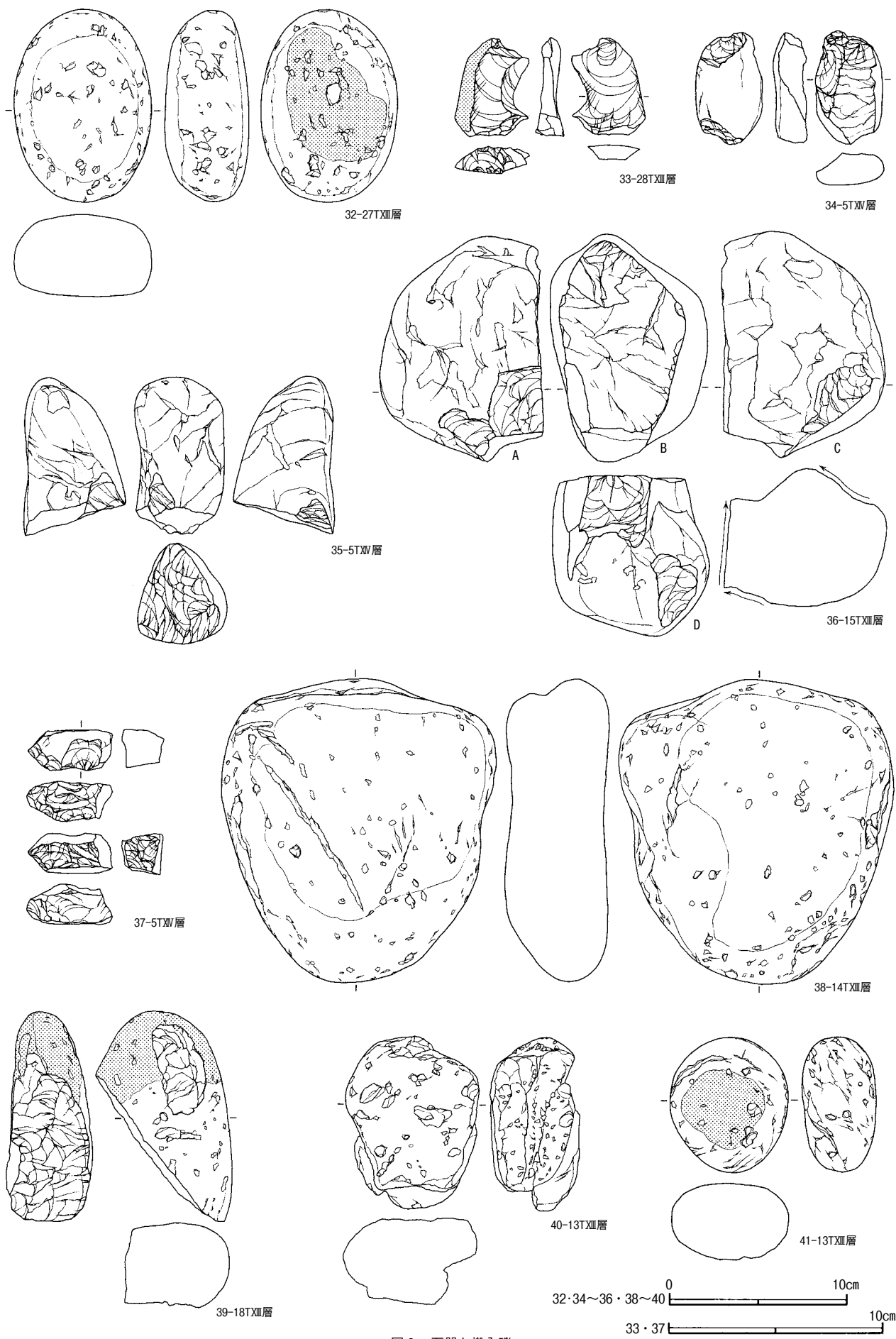


図3 石器と搬入礫

2 亀貝坂井家のガラス乾板について

(1) はじめに

文化財センターの民俗資料収蔵庫には、旧黒埼常民文化史料館（旧黒埼町）の収蔵資料と広域合併（平成17年）以前の新潟市（旧新潟市）の収蔵資料に一部が保管されている。収蔵資料については、旧黒埼町や旧新潟市の時に作成した台帳が存在しているが、情報の欠落が多く不十分であるため、新たに収蔵資料の整理を行っている。

本節で紹介する資料は、民俗資料収蔵庫に所蔵されていたガラス乾板である。旧黒埼町で作成した台帳から、旧黒埼常民文化史料館に所蔵されていたものと考えられるが、台帳に詳しい記載がないため、不明確である。しかし、台帳の収蔵地点に緒立八幡宮と記載されていることから、緒立八幡宮に元々は保管されていた可能性がある。資料自体は、旧黒埼常民文化史料館から平成23年に文化財センターに移管されていた。台帳から旧黒埼常民文化史料館に所蔵時にすでにガラス乾板と認識されていたが、平成29年に文化財センター職員がガラス乾板であることを改めて確認した。そして、文化財としての保存と活用のため、業者に委託してデジタル化を行った。また、ガラス乾板の劣化を防止するため、温度・湿度を一定に保っている資料収蔵庫へ移して保管している。

(2) 確認されたガラス乾板について

ガラス乾板は全部で29点である。当初は販売していたガラス乾板を包装していた紙箱（イルフォード社及びインペリアル社製、写真）で3箱に分けられて保管されていた。紙箱のうち2箱には、和紙で「種板」と番号が記載されており、この番号が後述する撮影者が残した番号と一致することから、撮影当時からこの紙箱で保管されていたと考えられる。また、残りの1箱には、民具番号や撮影内容などを記載したシールが貼られており、こちらは旧黒埼町で収蔵した際に、新たに貼られたものである。

ガラス乾板には、短冊状の和紙が付属しており、そこにはガラス乾板についての情報が記載されていた。記載内容は、「撮影者の付した番号」、「撮影日」、「撮影対象」、「シャッタースピード」、「ガラス乾板の種類」などである。また、ガラス乾板保護のために、和紙と一緒に挟まれているものもあった。撮影日だけでなくシャッタースピード、ガラス乾板の種類まで記述しており、ガラス乾板の情報として貴重である。

ガラス乾板は、旧黒埼町の台帳作成時に付された番号（1701番）を生かし、さらに当初収められていた箱ごとに、撮影者の残した番号（撮影者番号）順に新たに管理番号を付した。例えば、1番の箱の2枚目のガラス乾板は

1701-1-2となる。

ガラス乾板の大きさは、全て87×107mm前後で、厚さが1.35mm前後の一定の大きさであり、いわゆる手札判〔久野1909〕と呼ばれる既製品である。記載情報からイルフォード社製イルフォード乾板やインペリアル社製ライオン乾板、イースト社製シード乾板などの外国製である。資料のガラス乾板が撮影されたのは、後述するように明治時代後半と考えられ、この時期は日本製のガラス乾板も生産されていたが、外国製が主流であった〔高橋2017〕。

ガラス乾板は、大半が外縁部を中心に銀鏡や黄変と呼ばれる劣化が進んでいるが、大きな割れや剥離などはなく、全て撮影内容を確認することができる。現像のための加工や修正は確認できないが、後述する坂井家6代当主坂井邦直（表1：3-4）や赤子と女性（表1：3-10）が写されたガラス乾板には、画像面保護のためにニス塗布されており、ほかのガラス乾板よりも銀鏡などの劣化が少ない。この2枚のみ現像した可能性がある。

撮影対象の人物名や撮影日などから、これらのガラス乾板が新潟市西区亀貝（旧亀貝村）で暮らしていた坂井家（以下、亀貝坂井家）に関わるものであることが分かった。また、撮影者番号からガラス乾板は少なくとも127枚以上存在していたことが分かり、本資料はその一部である。実際に資料のなかには、ガラス乾板がなく付属の和紙だけのものや逆にガラス乾板のみのものもある。

撮影された時期は、撮影日の情報から分かるものは明治38（1905）年から明治44（1911）年である。撮影者番号の25～36番（表1：1-1、3-1～9）には、撮影した年の情報が存在しないが、記載内容の状況から撮影者番号がおおむね撮影順に付けられていると考え、年代が分かるもので撮影者番号が最も古いものが73番（表1：2-1）の明治38年12月23日であり、撮影年が不明なものは73番より番号が小さいため、それ以前に撮影された可能性が高い。また、三条市本成寺を撮影したガラス乾板が3枚あり、このうち三門や客殿、御廟などは写されているが、本堂を撮影したものが無い。本成寺は明治26（1893）年に本堂や客殿などが消失し、明治28（1895）年に客殿が再建され、明治36（1903）年に本堂の上棟式が行われた〔荒木1981〕。そのため、この客殿が再建され、本堂が建設中だった明治28年から明治36年の間に撮影されたため、本堂が撮影されていなかったと推測でき、撮影年のないガラス乾板はこの時期に撮影された可能性がある。

(3) 撮影された内容について

撮影されている内容については、撮影対象から「人物」、「構造物」、「風景」に分類した（表1）。本資料は、人

物を撮影したガラス乾板が最も多く、坂井家6代当主坂井邦直や7代当主坂井直芳など坂井家や坂井家に関係する人物が写されている。構造物や風景も、坂井家の邸宅や庭園など坂井家に関わる場所や近隣を写したもののほかに、東京都や神奈川県など、遠方の写真も存在する。

1-1は、新潟市西区に所在する緒立八幡宮の拝殿を撮影したものである。緒立八幡宮の拝殿は明治10年代に建立されている〔渡辺・竹内ほか1983〕。ガラス乾板に写されているものと現在の状況を比べると、社殿の構造は類似しているが、現在が瓦葺に対し、茅葺などの違いがある。また、周辺も現在は社殿の前方に鳥居があるが、当時は存在しないなど現在までに大きく手が加えられていることが分かる。緒立八幡宮は古墳時代前期の緒立八幡宮古墳の上に建てられている。ガラス乾板は、先述のとおり明治36年以前に撮影されたと考えられ、現存する緒立八幡宮及び緒立八幡宮古墳の様子を撮影した資料で最も古いものといえる。

2-1は、東京都日比谷公園の音楽堂（現小音楽堂）を撮影したものである。小音楽堂は日本初の野外音楽堂として明治38年に完成したが、大正12（1923）年9月の関東大震災で倒壊し、後に再建されている。その後、昭和58（1983）年に改築されて現在の小音楽堂となっている〔東京都1972〕。撮影されたのは明治38年12月とされていることから、完成したばかりの初代小音楽堂を写したものであり、倒壊前の貴重な資料といえる。

また、2-2は旧新橋停車所の近くにかつて存在した新橋の凱旋門を撮影したものである。この凱旋門は明治38年10月に完成しており〔富田2005〕、撮影日記録からこのガラス乾板はその2か月後に撮影されたことになる。

2-3・4は、明治39（1906）年1月に大磯海岸で撮影されたものと記載されている。大磯海岸は、神奈川県中郡大磯町にある海岸であり、日本初の海水浴場として明治期の政治家などが別荘を構えていた場所である。2-3の付属の和紙には「西園寺候別荘裏」という記載があり、これは西園寺公望氏の別荘のことを指していると考えられる。西園寺公望氏の別荘は明治32（1899）年に建てられているため〔塩崎・宮崎2016〕、その7年後に撮影されたことなる。また、2-4には「大磯怒浪」と記載されており、「怒浪」は「さかまくなみ」〔諸橋1957〕という意味の言葉で、その言葉どおり大磯海岸に打寄せる荒波が撮影されている。大磯海岸は、日本初の海水浴場のため、当時の風景を撮影した絵葉書は比較的残されているが、大磯海岸を撮影したガラス乾板などの原板資料は少なく、貴重な資料といえる。

3-7～9は、三条市本成寺を撮影したものである。三

条市本成寺は法華宗陣門流の総本山である。先述のとおり、明治28年から明治36年の間に撮影された可能性がある。本成寺の三門は天明6（1786）年に建立され、新潟県指定文化財である。3-7はこの三門を撮影したものであり、県指定文化財の明治時代の様子を撮影した資料として評価することができる。また、ほかの客殿や御廟についても、周囲の様子など現在とは異なる点があり、本成寺の変遷を考える上で貴重な資料といえる。

3-5は、旧亀貝村の風景を撮影したものである。ここには、小規模な河川が撮影されている。現在の亀貝の集落付近はこのような河川は存在していないが、江戸時代の潟や河川を示した図を見ると〔太田2015〕、旧亀貝村のすぐそばに西川へと流れる河川があったことが分かる。そのため、このような河川を撮影した可能性があり、明治期の亀貝周辺の状況を記録した資料として評価することができる。

2-11、3-1・3・6は、坂井家の邸宅や屋敷を撮影したものである。明治37～40（1904～1907）年に撮影されたものと考えられる。建物については、茅葺の屋敷と瓦葺の蔵が確認できる。蔵は屋敷よりも土盛りされ高い場所に建てられている。このような盛土の上に建てられた蔵は、洪水などの対策のためにこの地域一帯で一般的な作りである〔新潟市1975〕。また、2-11や3-6を見ると広い面積を有し、庭園が整備されていたことが分かる。さらに、3-1では、敷地内に三十番神の社が存在していた様子が写されている。坂井家の邸宅や屋敷は現存していないが、この社は旧坂井家付近に現存していると言われており、類似する社は確認できたが、同一か不明である。

（4）亀貝坂井家について

亀貝坂井家について、『新潟市合併市町村の歴史』〔新潟市1975〕にまとめられており、以下その記述などを基に記載する。

坂井家は、元は加賀国大聖寺城主溝口秀勝の家臣であり、秀勝が慶長3（1598）年に新発田へ移封になった時、新潟へ来た。その後、帰農し、天明元（1781）年に亀貝坂井家として初代庄左衛門が亀貝村の庄屋となった。

1代庄左衛門から3代庄左衛門は新川の掘削などの治水工事により、多大な功績を収めている。

このうち3代庄左衛門の弟である日界は、幼少期に仏門へと入り、三条市本成寺の法主となる話があったが実現はしなかった。明治4（1871）年に没している。

4代邦衛は明治初頭に本成寺と同じ法華宗陣門流の葉王寺という寺を旧亀貝村に建立ないし移転し、その後、新潟市旭町や南浜通へ移転させている。この功績により、

邦衛は明治8(1875)年に本成寺より邦衛山薬王寺の寺号を賜っている。複数の文献により、年代や移転など記載が異なっているが〔田子2003〕、亀貝坂井家が薬王寺を旧亀貝村に建て、その後古町へ移転させており、三条市本成寺と深い関係があることが分かる。そして、ガラス乾板に撮影された内容にも、本成寺を撮影したもの(3-7~9)や同じ法華宗陣門流の本成寺を撮影したもの(2-6)もある。

また、4代邦衛は明治20年代には醤油醸造業を始めており、明治22(1889)年に発行された商工業の様子や地域の名所などを紹介した『北越商工便覧』に「西蒲原郡亀貝村 醤油醸造處 加賀屋 坂井邦衛」と掲載されている〔川崎1889〕。それを見ると坂井家の屋敷はかなり広大で、蔵も複数確認できる。ガラス乾板に写されている坂井家の屋敷や蔵と構造が似ており、庭園など広い敷地を有していたことも表現され、『北越商工便覧』の記載がかなり正確であったことが分かる。邦衛は大正6(1917)年に没している。

5代謙内(養子)は明治18(1885)年に廃嫡されている。6代邦直は大正13(1924)年に没しており、7代直芳は明治42(1909)年に生まれている。

以上のように、亀貝坂井家は地域の有力な一族であったことが分かる。この亀貝坂井家には、1代から4代目での由緒や肖像が描かれた掛け軸があり、また、明治12(1879)年に3代庄左衛門を撮影した写真なども現存する。亀貝坂井家のなかで特に、1代庄左衛門及び日界は、明治から昭和にかけて多くの新潟県の人物を紹介する書籍に登場する〔渡邊1902、牧田編1972など〕。管見で確認した最も古い文献は、明治31(1898)年の『近世越佐人物傳』であり〔藤山1898〕、このなかで「川田甕江撰碑文」から記載したとある。川田甕江(川田剛)は明治期の著名な儒者であり〔富士川1983〕、新潟市北区に現存する「簡堂曾我君之碑」の撰文も行っている。この人物が撰文した石碑が当時存在していたこととなるが、現存しているかは不明である。

(5) まとめ

今回紹介したガラス乾板の多くは、明治時代後半の亀貝坂井家に関連した人物や場所を撮影したものである。撮影した内容は時期や場所がさまざまであり、さらにガラス乾板を販売する箱に保管されていたことから、坂井家が所持していたカメラ及びガラス乾板で坂井家の関係者が撮影したと考えられる。明治時代後半にガラス乾板の撮影をするためには、様々な機材及び知識が必要となる。また、撮影された内容が旅先や奉公人などかなり個人的なものが多く、坂井家の当主または当主に近い人

物の可能性が考えられる。明治時代後半は、先述のとおり4代邦衛及び6代邦直が存命で、ある一定の年齢に達していることから、どちらかが撮影に関わっていたと考えられる。

明治時代後半のガラス乾板は、後のフィルム写真ほど現存しているものが少なく、当時の状況が分かる貴重な資料として評価することができる。今後も文化財として適切に保存し、活用するべきである。

なお、ガラス乾板に付属した和紙に記載された文字の判別については伊東祐之氏(新潟市歴史博物館)より、本成寺のガラス乾板が撮影された年代や評価などについて荒木常能氏(三条市文化財保護審議会委員)より、本成寺の資料について高野晶文氏(三条市生涯学習課文化財係)より、大磯海岸のガラス乾板の評価について富田三紗子氏(大磯町郷土資料館)よりご教示いただいた。また、亀貝坂井家の掛け軸や写真について石渡勝春氏より資料の提供及びご教示いただいた。(金田拓也・久住直史)

引用・参考文献

- 荒木常能 1981 『ふるさとの思い出 写真集 明治大正昭和三条』205 国書刊行会
- 太田和宏 2015 「新潟市西区に関する湯と人の共存(里湯)について~湯の歴史的関わりについて(佐湯を中心として)~」『平成26年度新潟市湯環境研究所研究成果報告書』新潟市地域・魅力創造部 湯環境研究所事務所
- 川崎源太郎 1889 「北越商工便覧」 竜泉堂
- 塩崎信彦・宮崎松代 2016 『徳富蘇峰記念館第33回特別展示 目録 相模湾沿岸地域別荘の人々①『大磯を愛した日本の名士』展』(公財)徳富蘇峰記念塩崎財団
- 高橋則英 2017 「ガラス乾板の歴史と保存の意義」『文化財としてのガラス乾板-写真が紡ぎなおす歴史像』勉誠出版
- 田子了裕 2003 『寺院Ⅳ』新潟市文化財調査報告書 新潟市教育委員会
- 東京都 1972 『東京百年史』第3巻・第5巻
- 富田昭次 2005 『絵はがきで見る日本近代』青弓社
- 新潟市 1975 『新潟市合併町村の歴史』第1巻 西蒲原郡から合併した町村の歴史 新潟市
- 久野徹輔 1909 『寫眞寶鑑』小西本店
- 富士川英郎 1983 「かわだおうこう」『国史大辞典』第三巻 吉川弘文館
- 藤山銀太郎 1898 (1993復刻) 『近世越佐人物傳』新潟雪書房
- 牧田利平編 1972 『越佐人物誌』野島出版
- 諸橋徹次 1957 『大漢和辞典』巻四 大修館書店
- 渡邊市太郎 1902 『大日本名蹟圖誌』第九編越後国部 光彰館
- 渡辺奎二・竹内竹市^{ほか} 1983 『黒埼町の神社仏閣 黒埼町近世社寺建築緊急調査報告書』黒埼町教育委員会
- 渡辺秀樹編 2007 『明治・大正・昭和の日本 東京遊覧』日本文芸社

表1 亀貝坂井家のガラス乾板一覧

写真番号	撮影対象	分類	大きさ			状態		撮影地	撮影時期	ガラス乾板種類	付属記載内容
			長辺	短辺	厚さ	画像面状態	支持体面				
写真なし								明治38年以前カ 4月12日午後3時		第貳拾八号(四月十二日午後三時) 坂井供吾 佐藤真平 1/25 (不現) 欠板 [鉛筆書]	
1-1	緒立八幡宮	構造物	107	82	1.25	外縁:銀鏡・黄変、 一部:黄変		新潟県新潟市 西区緒立	明治38年以前カ 4月26日午前10時		第三十一号(四月廿六日午前十時) 尾立 [緒立カ] 八幡神社 1/25 [鉛筆書]
1-2	坂井みどり	人物	107	82	1.5	外縁:銀鏡・黄変、 一部:黄変	一部:付着物	新潟県新潟市 西区亀貝カ	明治40年 4月2日午前10時		第八十四号(明治四十年四月二日午前十時) 坂井みどり 五才 1/50
1-3	集合写真	人物	107	82	1.3	外縁:銀鏡・黄変、 一部:退色・付着物		新潟県新潟市 西区亀貝カ	明治44年前後カ		[付属資料なし]
2-1	日比谷公園 小音楽堂	構造物	107	82	1.6	全面:銀鏡・黄変		東京都千代田区 日比谷公園	明治38年 12月23日午前11時	イルフォード社製 イルフォード乾板	第七十三号(三十八年十二月廿三日午前十一時) 日比谷公園音楽堂 1/50 イルフォード
2-2	新橋凱旋門	構造物	107	82	1.4	外縁:銀鏡・黄変、 一部:銀鏡・黄変		東京都中央区 銀座八丁目	明治38年 12月23日午前11時	イルフォード社製 イルフォード乾板	第七十四号(三十八年十二月二十三日午前十一時) 新橋凱旋門 1/50 イルフォード
2-3	坂井督海(大磯海岸)	人物	107	82	1.4	外縁:銀鏡・黄変		神奈川県中郡 大磯町西大磯	明治39年 1月9日午前9時	イルフォード社製 イルフォード乾板	第七十五号(三十九年一月九日午前九時) 坂井督海(大磯海岸 西遠 [園カ] 寺候別荘表) 中紋 1/50 イルフォード
2-4	大磯海岸	風景	108	82	1.35	外縁:銀鏡・黄変		神奈川県中郡 大磯町	明治39年 1月11日午前10時	イルフォード社製 イルフォード乾板	第七十六号(三十九年一月十一日午前十時) 大磯海岸 中 1/25 イルフォード
2-5	女性	人物	107	82	1.45	外縁:銀鏡・黄変・剥離		不明	明治39年 2月2日午前3時	イースト社製 シード乾板	第七十七号(三十九年二月二日午前三時) 小仙 フラッシュ・ライト シード 1/4 2
2-6	坂井督海(本応寺)	人物・ 構造物	108	82	1.35	外縁:銀鏡・全面:黄変		神奈川県 小田原市板橋	明治39年 2月13日午後2時	イルフォード社製 イルフォード乾板	第七十八号(三十九年二月十三日午後二時) 板橋本応寺 1/25 イルフォード
2-7	坂井督海	人物	107	82	1.3	外縁:銀鏡・黄変、 一部:黄変		不明	明治39年 2月17日午後2時	イルフォード社製 イルフォード乾板	第七十九号(三十九年二月十七日午後二時) 坂井督海(外套表) 1/25 イルフォード
2-8	富田うた 外1人	人物	106	82	1.5	外縁:銀鏡・黄変		不明	明治39年 2月17日午後5時	イースト社製 シード乾板	第八十号(三十九年二月十七日午後五時) 富田うた 外一人 シード板 time
2-9	青山こま	人物	107	82	1.5	外縁:銀鏡・黄変・退色		不明	明治39年 2月19日午前10時	イルフォード社製 イルフォード乾板	第八十一号(三十九年二月十九日午前十時) 青山こま イルフォード time
2-10	植木とめ	人物	107	82	1.5	外縁:銀鏡・黄変		不明	明治39年 2月22日午前9時	イルフォード社製 イルフォード乾板	第八十二号(三十九年二月二十二日午前九時) 植木とめ イルフォード time
2-11	坂井家庭園	風景	107	82	1.4	外縁:銀鏡・黄変		新潟県新潟市 西区亀貝	明治40年 4月2日午前10時		第八十三号(明治四十年四月二日午前十時) 自家庭園の一部 築山の麓 1/50
3-1	坂井家庭園(社)	風景	107	82	1.2	外縁:銀鏡・黄変		新潟県新潟市 西区亀貝	明治38年以前カ 4月12日午前10時		第貳拾五号(四月十二日午前十時) 自家庭園の一部 1/25
写真なし								明治38年以前カ 4月12日午前10時		第貳拾六号(四月十二日午前十時) 自家屋の一部(〇〇シヅリ) [鉛筆書] 1/25 欠板(鉛筆書)	
3-2	坂井清・信次・弘	人物	107	82	1.25	外縁:銀鏡・黄変、 一部:銀鏡		新潟県新潟市 西区亀貝カ	明治38年以前カ 4月12日午後2時		第貳拾七号(四月十二日午後二時) 坂井清 八才 坂井信次 六才 坂井弘 四才 紋り中 1/25
3-3	坂井家邸宅	構造物	107	82	1.35	外縁:銀鏡・黄変		新潟県新潟市 西区亀貝	明治38年以前カ 4月13日午前10時		第貳拾九号(四月十三日午前十時) 自家屋の一部 1/25
3-4	坂井邦直	人物	107	82	1.4	全面:ニス塗布、 一部:剥離		新潟県新潟市 西区亀貝	明治38年以前カ 4月22日午後4時		第三十号(四月廿二日午後四時) 坂井邦直 1/25 (鉛筆書)
3-5	亀貝村	風景	108	82	1.5	外縁:銀鏡・黄変		新潟県新潟市 西区亀貝	明治38年以前カ 4月26日午前10時半		第参拾式号(四月廿六日午前十時半) 亀貝村上端之景 1/25 (鉛筆書)
3-6	坂井家庭園	風景	107	82	1.2	外縁:銀鏡・黄変		新潟県新潟市 西区亀貝	明治38年以前カ 4月29日午前11時		第参拾参号(四月廿九日午前十一時) 自家庭園の一部 桜花成り 1/25 (鉛筆書)
3-7	本成寺三門	人物・ 構造物	107	82	1.5	外縁:銀鏡・黄変		新潟県三条市 西本成寺一丁目	明治38年以前カ 5月4日午後5時		第参拾四号(四「五」[鉛筆で直し] 月四日午後五時) 三条本成寺山門千部執行時 1/25 (鉛筆書)
3-8	本成寺客殿	構造物	107	82	1.5	外縁:銀鏡・黄変		新潟県三条市 西本成寺一丁目	明治38年以前カ 5月5日午前10時		第参拾五号(四「五」[鉛筆で直し] 月五日午前十時) 三条市本成寺千部執行時之客殿 1/50
3-9	本成寺御廟	構造物	107	82	1.5	外縁:銀鏡・黄変	一部:付着物	新潟県三条市 西本成寺一丁目	明治38年以前カ 5月5日午後2時半		第参拾六号(四「五」[鉛筆で直し] 月五日午後二時半) 三条市本成寺宗祖佛廟所 1/25
3-10	赤子と女性	人物	107	82	1.2	外縁:黄変・剥離、 全面:ニス塗布	隅:ニス付着	新潟県新潟市 西区亀貝カ	明治44年前後カ		[付属資料なし]
3-11	坂井よし 外数人	人物	107	82	1.4	外縁:銀鏡・黄変		新潟県新潟市 西区亀貝カ	明治43年 6月6日午後2時	インベリアル社製 ライオン乾板	第二百一十号(四三、六、六午後二時) 坂井よし外数人 ライオン time
3-12	下男与作・又蔵	人物	108	82	1.3	外縁:銀鏡・黄変	隅:粘着痕	新潟県新潟市 西区亀貝カ	明治43年 6月6日午後2時半	インベリアル社製 ライオン乾板	第二百二十号(四三、六、六) 午後二時半 下男与作又蔵 ライオン time
写真なし								明治42年カ	イルフォード社製 イルフォード乾板	第二百二十三号(四二年?) 坂井よし イルフォード time	
3-13	坂井直芳	人物	107	82	1.4	外縁:銀鏡・黄変		新潟県新潟市 西区亀貝カ	明治44年 2月22日午前9時	インベリアル社製 ライオン乾板	第二百二十四号(四四、二、二二午前九時) 坂井直芳 ライオン time
3-14	坂井直芳	人物	107	82	1.5	外縁:銀鏡・黄変		新潟県新潟市 西区亀貝カ	明治44年 2月2日午前9時	インベリアル社製 ライオン乾板	第二百二十五号(同前) 坂井直芳
3-15	坂井直芳	人物	107	82	1.4	外縁:銀鏡・黄変		新潟県新潟市 西区亀貝カ	明治44年 2月2日午前9時	インベリアル社製 ライオン乾板	第二百二十六号(四四、二、二二午前九時) 坂井直芳 ライオン 1/25
写真なし								明治44年カ 2月23日午前9時	インベリアル社製 ライオン乾板	第二百二十七号(四三 [四四カ]、二、二二午前九時) 与作始下男共 ライオン time	

※白丸は判読不能、() は記載のとおり、「」は訂正され追加された文字、□ は報告者が加えたもの、カは報告者の推定のものである。



ガラス乾板を保管していた紙箱



保護に使用した和紙(左)及び撮影情報を記載した和紙(右)



亀貝坂井家掛け軸



2-2 : 新橋凱旋門



3-4 : 坂井邦直



2-3 : 坂井督海 (大磯海岸)



1-1 : 緒立八幡宮



2-4 : 大磯海岸



2-1 : 日比谷公園小音楽堂



2-6 : 坂井督海 (本応寺)



3-7 : 本成寺三門



2-11 : 坂井家庭園



3-8 : 本成寺客殿



3-3 : 坂井家邸宅



3-9 : 本成寺御廟



3-1 : 坂井家庭園 (社)



3-5 : 亀貝村



3-6 : 坂井家庭園

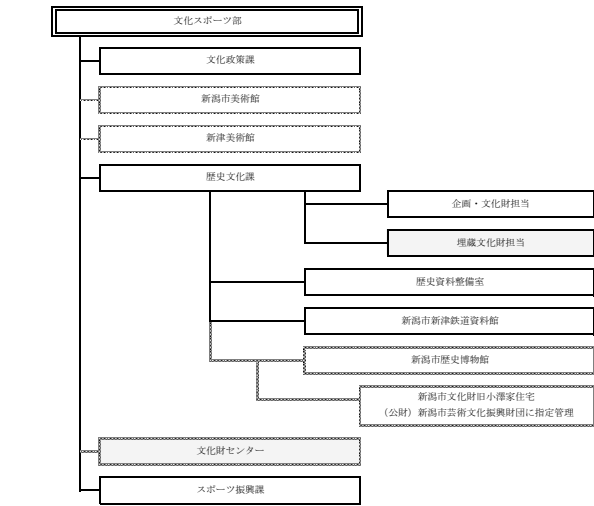
V 研究活動資料紹介・研究ノートなど

【引用・参考文献】

- 相澤裕子 2015 「Ⅱ 2 (2) 下郷南遺跡 第1・2次調査 (2013106・2013152)」『新潟市文化財センター年報-平成25 (2013) 年度版-』第2号 新潟市文化財センター
- 相田泰臣 2015 「V 4 新潟市秋葉区塩辛遺跡工事立会出土遺物」『新潟市文化財センター年報-平成25 (2013) 年度版-』第2号 新潟市文化財センター
- 相田泰臣 2017 「Ⅱ 2 (4) 牡丹山諏訪神社古墳 第3次調査 (2015157)」『新潟市文化財センター年報-平成27 (2015) 年度版-』第4号 新潟市文化財センター
- 相田泰臣・金田拓也^{ほか} 2015 『大沢谷内遺跡Ⅳ 第19・20・21次調査-一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第12・13・14次調査-』新潟市教育委員会
- 相田泰臣・金田拓也^{ほか} 2017 『国史跡 古津八幡山遺跡 保存活用計画』新潟市教育委員会
- 諫山えりか 2004 『新潟市山木戸遺跡 マンション等建設予定地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 井上慶隆・萩野正博^{ほか} 1974 『岩室村史』新潟県西蒲原郡岩室村
- 今井さやか 2014a 「Ⅲ 7 教育普及活動」『新潟市文化財センター年報-平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版』第1号 新潟市文化財センター
- 今井さやか 2014b 「Ⅲ 8 保存処理」『新潟市文化財センター年報-平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版』第1号 新潟市文化財センター
- 今井さやか 2017 「Ⅱ 2 (7) 近世新潟町跡 第23・24・27次調査 (2015116・2015140・2015148・2015240)」『新潟市文化財センター年報-平成27 (2015) 年度版-』第4号 新潟市文化財センター
- 遠藤恭雄 2017 「Ⅱ 2 (3) 上郷北遺跡 第1次調査 (2015143)」『新潟市文化財センター年報-平成27 (2015) 年度版-』第4号 新潟市文化財センター
- 遠藤恭雄・澤野慶子^{ほか} 2018 『大沢谷内遺跡Ⅴ 第25次調査-一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う第17次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 春日真実 1999 「第4章第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院
- 金田拓也 2017 「Ⅱ 2 (2) 森田遺跡 第6次調査 (2015124)」『新潟市文化財センター年報-平成27 (2015) 年度版-』第4号 新潟市文化財センター
- 川上貞雄 1989 「第二編 考古」『新津市史 資料編』第一巻 原始・古代・中世 新津市
- 小林 弘 2005 「新潟県北部の蘇民将来符について」『新潟県考古学談話会会報』第29号 新潟県考古学談話会
- 齊藤秀平 1944 『新潟県史跡名勝天然記念物調査報告』第12輯 新潟県
- 武田広昭・南 憲一 1995 「近世 (上) 第一章第三節 新潟町の諸株」『新潟市史 通史編』1 原始古代中世 近世 (上) 新潟市
- 龍田優子・伊藤正志^{ほか} 2018 『杓木遺跡 第3次調査-主要地方道新潟中央環状線道路整備事業に伴う杓木遺跡第3次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 田畑 弘 1993 『新潟県営高生産性大区画ほ場整備事業〔田上郷地区〕埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 保明浦遺跡』田上町教育委員会
- 田畑 弘 1996 『埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 保明浦遺跡Ⅱ』田上町教育委員会
- 田畑 弘^{ほか} 2015 『行屋崎遺跡 一般国道403号 (小須戸田上バイパス) 道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』田上町教育委員会
- 立木宏明・奈良佳子^{ほか} 2017 『細池寺道上遺跡Ⅵ 第44次調査-県営ほ場整備事業 (担い手育成型) 両新地区に伴う細池寺道上遺跡第19次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 新潟県農地部農地開拓課 1960 『市島家土地集積の展開』新潟県大地主所蔵資料第2集 農政調査会
- 新潟市 1990 『新潟市史 資料編』2 近世Ⅰ 新潟市
- 橋本博文・平形杏里^{ほか} 2016 「新潟県新潟市牡丹山諏訪神社古墳第2次発掘調査」『新潟大学考古学研究室調査研究報告』第16集 新潟大学人文学部
- 藤澤良祐 1991 「瀬戸古窯址群Ⅱ-古瀬戸後期様式の編年-」『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要Ⅹ』瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤良祐 1995 「Ⅲ 9 中世陶器〔1〕古瀬戸」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- 藤田作二 1970 「新潟町鑄物師の故郷 (江州辻村) を訪ねて」『郷土新潟』第13号 新潟郷土史研究会
- 藤田作二 1972 「新潟町在住-鑄物業者のあゆみ (一)〈銅屋六郎右衛門家略歴〉」『郷土新潟』第14号 新潟郷土史研究会
- 藤田作二 1973 「新潟町在住-鑄物業者のあゆみ (二)〈銅屋六郎右衛門家略歴〉」『郷土新潟』第15号 新潟郷土史研究会
- 藤田作二 1974 「新潟町在住-鑄物業者のあゆみ (三)〈銅屋六郎右衛門家略歴〉」『郷土新潟』第16号 新潟郷土史研究会
- 細野高伯・伊比博和^{ほか} 2012 『大沢谷内遺跡Ⅱ 第7・9・11・12・14次調査-一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 前山精明 2012 『大沢谷内遺跡Ⅲ 第18次調査-市道鎌倉横川線改良工事に伴う大沢谷内遺跡第2次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 村山修一 1987 『習合思想史論考』塙書房
- 山田裕二 1988 「第三章第三節六 鑄物」『新潟県史 通史編』4 近世Ⅱ 新潟県 1888
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 渡邊朋和 2014a 「Ⅰ 新潟市の埋蔵文化財保護行政について」『新潟市文化財センター年報-平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014b 「Ⅲ 6 資料の収蔵・保管」『新潟市文化財センター年報-平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014c 「Ⅴ 1 史跡古津八幡山遺跡保存活用事業の概要」『新潟市文化財センター年報-平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版-』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2015 「Ⅱ 2 (8) 塩辛遺跡 第7次調査」『新潟市文化財センター年報-平成25 (2013) 年度版-』第2号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和・立木宏明^{ほか} 2004 『八幡山遺跡群発掘調査報告書-第11・12・13・14次調査-』新津市教育委員会
- 渡邊朋和・八藤後智人^{ほか} 2014 『新潟市文化財センター年報-平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版-』第1号 新潟市文化財センター

平成28年度刊行発掘調査報告書など一覧

書名	副書名	発行年月日	執筆者
鳥灘瀬遺跡 第5次調査	県営ほ場整備事業（経営体育成型）巻東町地区に伴う鳥灘瀬遺跡第5次発掘調査報告書	平成28年10月31日	遠藤恭雄・脇本博康 ^{ほか}
細池寺道上遺跡Ⅵ 第44次調査	県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う細池寺道上遺跡第19次発掘調査報告書	平成29年3月10日	立木宏明・奈良佳子 ^{ほか}
国史跡 古津八幡山遺跡保存活用計画		平成29年3月27日	相田泰臣・金田拓也 ^{ほか}
舟戸遺跡Ⅱ 第25次調査	宅地造成工事に伴う舟戸遺跡第2次発掘調査報告書	平成29年3月31日	金田拓也・早田勉



※一部省略

文化スポーツ部の組織機構図（平成28年度）

平成28年度文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財担当職員名簿

文化財センター		
所長	松田 賢一	統 括
所長補佐	福地 康郎	事 務
所長補佐（学芸員）	渡邊 朋和	埋蔵文化財
主任（学芸員）	遠藤 恭雄	埋蔵文化財
主任	本間 敏則	事 務
主査（学芸員）	立木 宏明	埋蔵文化財
主査	上田 俊哉	事 務
主査（文化財専門員）	今井 さやか	埋蔵文化財
主査（学芸員）	相田 泰臣	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	龍田 優子	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	相澤 裕子	埋蔵文化財
主事（学芸員）	前山 精明	埋蔵文化財
吏員（文化財専門員）	金田 拓也	埋蔵文化財
非常勤嘱託	土佐 夕美子（～5月）	事 務
非常勤嘱託	酒井 和男（～5月）	民俗文化財
非常勤嘱託	久住 直史（8月～）	民俗文化財
非常勤嘱託	澤野 慶子	埋蔵文化財
非常勤嘱託	八藤後 智人	埋蔵文化財
非常勤嘱託	磯部 保衛	弥生の丘展示館
非常勤嘱託	奈良 佳子	埋蔵文化財
非常勤嘱託	宮下 佐貴子	弥生の丘展示館
歴史文化課埋蔵文化財担当		
係長（文化財専門員）	朝岡 政康	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	諫山 えりか	埋蔵文化財
主査（学芸員）	潮田 憲幸	埋蔵文化財
非常勤嘱託	新井 順	埋蔵文化財

新潟市文化財センター年報 第5号
—平成28（2016）年度版—

2018年3月30日印刷・発行

編集・発行 新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
電話 025-378-0480

印刷 株式会社ウィザップ
〒950-0963 新潟市中央区南出来島2丁目1-25

